

日本キリスト改革派教会 大会教育委員会

教会学校 教案誌



church school curriculum

青春の日々にこそ、
お前の創造主に心を留めよ。

コヘレトの言葉 1.2章 1節



vol. **72**

2019年1~3月

「救済史」
に基づく二年サイクル 第2年

【巻頭説教】「『リジョイス』発刊の大会的意義」	岩崎 謙
キリスト教と公教育「学校の道德教育について」	岩間孝吉
執事職について(4)	相馬伸朗
長老職について(4)	吉岡契典
【日曜学校・教会学校訪問】浜松伝道所のご紹介	澤田光史

2019年1～3月カリキュラム (第72号)

—救済史に基づく2年サイクル 第1年—

月日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
1月6日	主は羊飼いです	詩編23編	詩編23:4
	神は私たちに必要なすべてのものを与えて、楽しむことができるように祝福してください。		
1月13日	ソロモンの知恵	列王上3:1-28	1コリント1:30
	一年を始めるにあたって、神の知恵とともにある歩みを覚える。		
1月20日	父母の教え	箴言1:1-19	箴言1:8
	神と教会との正しい関係を模範にして、親子の関係を改めて問う。		
1月27日	若い日の信仰	コヘレト12:1-14	コヘレト12:1
	神中心に生きることを教え、そこにこそある安息を受け取るように促す。		
2月3日	祈りに応える父	ルカ11:1-13	ルカ11:9
	神は聖霊によって祈りに応えてくださることを伝え、祈り続ける生活へと導く。		
2月10日	愚かな金持ち	ルカ12:13-21	1テサロニケ3:12
	人の命はお金によって保証されない。神の前に豊かな生き方を考えよう。		
2月17日	天に宝を積み	ルカ12:22-40	マタイ6:33
	神の支配を求める者こそ富める人であることを知り、神に喜ばれる生き方を選ぶ。		
2月24日	時を見分ける	ルカ12:49-56	ルカ9:23
	今は恵みの時、救いの時。新しい時代にふさわしい生き方を身に着けよう。		
3月3日	安息日の癒し	ルカ13:10-17	マタイ8:17
	イエス・キリストにこそ悪魔から人々を解放する唯一の道があることを伝える。		
3月10日	義人ヨブ	ヨブ1:1-2:13	ヨブ2:10
	神が与え、守り、育まれる信仰を、誰も奪い取ることはできない。		
3月17日 レント	サタンの誘惑	ルカ4:1-13	申命記6:5
	勝利の秘訣をしっかりと学び、主に感謝し、雄々しく信仰の歩みを続ける。		
3月24日 レント	悔い改めねば滅びる	ルカ13:1-9	ルカ13:18,19
	神の国の到来を喜ばしい知らせとして受け入れるために悔い改める生き方を選ぶ。		
3月31日 レント	イエスの嘆き	ルカ13:31-35	2ペトロ3:9
	主イエスの従順によって私たちの救いが開かれる。		

も く じ

2019年1・2・3月カリキュラム

まえがき	
「『リジョイス』発刊の大会的意義」	岩崎 謙…………… 4
巻頭説教	
「性についての平和」	大西 良嗣…………… 5
キリスト教と公教育	
「学校の道德教育について」	岩間 孝吉……………10
教会学校訪問「浜松伝道所」	澤田 光史……………13
CS 教師の一言	
「新所沢教会の教会学校のこと (2)」	片桐 京子……………17
受洗・信仰告白の証	
「神様に感謝したこと」	千ヶ崎 承……………21
「洗礼へと導かれて」	吉野 由真……………22
執事職について (4)	相馬 伸郎……………23
長老職について (4)	吉岡 契典……………26

聖書黙想・説教展開例・分級展開例……………29

1月6日	…………… 30
1月13日	…………… 35
1月20日	…………… 40
2月27日	…………… 45
2月3日	…………… 50
2月10日	…………… 55
3月17日	…………… 60
2月24日	…………… 65
3月3日	…………… 71
3月10日	…………… 76
3月17日	…………… 81
3月24日	…………… 86
3月31日	…………… 91

聖句カード……………	96
次号カリキュラム (2019年4・5・6月) ……	98
「子どもと親のカテキズム」案内 ……	99
教案誌自由募金案内……………	100
執筆者よりひとこと・あとがき……………	101

まえがき

『リジョイス』発刊の大会的意義

岩 崎 謙

平易な言葉で福音を届けることで、家庭礼拝が祝され、同じ御言葉に養われることで、読者に主の家に連なる喜びが与えられ、そして、それぞれの家庭が小さな教会としての役割を果たすこと、ここに、『リジョイス』発刊の祈りがあります。

さてこれからは、前委員の肩書きで、発刊に至る大会決議を辿り、大会的な意義を確認します。第61回大会（2006年）で設置された教育機関誌発行準備特別委員会は、第62回大会（2007年）で、教育機関誌内容をCRCメディアミニストリーで活用すること、また、『家庭礼拝のしおり』（CRCメディアミニストリー発行）を2009年から廃刊とし、その読者に『リジョイス』購読を勧めることを報告しました。第63回大会（2008年）で、『教会学校教案誌』（中部中会日曜学校委員会発行）掲載の「いのちのパン」が『リジョイス』に組み込まれることが報告されました。これらの備えがあり、『リジョイス』の歩みはここまで支えられてきました。

実は、2009年の発刊に至るまで、約10年に及ぶ前史がありました。第51回大会（1996年）で、50周年以降課題検討委員会が設置されました。同委員会は、第52回大会（1997年）で、今後の課題となりうる10項目を列挙し、一年かけてどれを重要課題とするかの検討を各中会に委ねました。その検討を踏まえ、第53回大会（1998年）で、大会諸委員会等の統廃合を行う機構改革を大会的課題とすることを決めました。第54回大会（1999年）で、機構改革を実行するための機構改革実行委員会が設置され、大会が何をすべきか、中会との違いは何か、など抜本的な検討がなされました。第62回大会（2007年）は、大会の常任委員会活動に、

一憲法関係、二宣教関係、三教育関係、四財務関係、五その他、という区分を設けた政治規準改正の提案を決議しました。大会が主として行うことが、憲法、宣教、教育、財務に関することであることが明らかにされました（教会規程第111条）。この提案により、50周年宣言で用いられた宣教に具体的な意味内容が付与されました。

宣教関係のもとに、国内外の伝道だけでなく、執事活動と社会問題を扱う委員会が置かれています。ここでの宣教とは、使命を帯びて神により世に派遣され、神の国（支配）の進展に仕える教会の働きです。そして私たちは、東日本大震災におけるディアコニアの働きを通し、神の支配の具現化のために何をすべきかを、学び始めました。

教育関係には、既存の教育委員会、学生・青年委員会（委員会合併と名称変更）、教師学科試験委員会（名称変更）、歴史資料編纂委員会、文書委員会が含まれています。これらに加え、『リジョイス』発行のための「教育機関誌委員会」が常設委員会として新設されました。これまでは、中会機関誌が中心となっていた文書による教育を、これからは、大会が主体的に継続的に行うことが定められました。この延長線上で、『教会学校教案誌』の発行は中部中会から大会教育委員会に移管されました。また、高校生教育はこれまで中会が主体となっていました。全国の教会から高校生を集める大会規模のサマーディズが開催されました。ともに2009年から始まった『リジョイス』とサマーディズは、大会が教育に本気で携わる見える印です。2007年の政治規準改正の眼目は、実は、大会的な教育活動の活性化にありました。

（神港教会牧師・前大会教育機関誌委員会委員）

巻頭説教

性についての平和

マタイによる福音書 5章27～32節

大西良嗣

教会で、「性」について語られることは、少ないように思います。非常にプライベートなことに関わりますし、性的なことそのものが隠されるべきだという雰囲気があるのかもしれませんが。

しかし、「性」に関わることは、私たちの人生に大きな影響を及ぼします。性について何も教えられなかったために、クリスチャンの家庭の子ども（高校生）が、いわゆる「援助交際」を行っていたということも、ある本に書かれていました。「悪いことだと知らなかった」「教えてくれていれば、こんなことはしなかった」と、その子は後から言っていたそうです。

現代の社会の中では、性に関することが軽視され、混乱しています。いわゆる「不倫」「浮気」も、配偶者に対しては「恨まれるかもしれない・ばれたら問題になる」と考えるにしても、倫理的・道徳的な問題として悪いことだとは、もはや考えられていない様子です。売買春行為も、法律に反しないところであれば問題ないとされています。

特に、女性の性を軽視することは、今に始まったことではありません。国家・軍隊が関係して女性を性的な奴隷として扱った従軍慰安婦の問題は、大きな負の歴史です。この夏には、終戦間際に満州（今の中国東北地方）に進軍して来たロシア軍に対して、日本の若い女性たちが性的な接待をするた

めに差し出されたことが、テレビや新聞で特集されていました。

性的なことが軽視されるということは、その人の人格を軽視し、傷つけるということでもあります。セクシャルハラスメントは、その代表的なものでしょう。性的な虐待も、虐待を受けた人の人生に、深い傷を残すことになります。

今日の箇所は、性に関わる戒めが述べられています。性に関する問題のすべてが論じられているわけではありません。特に、現代社会における、性に関する複雑な問題のすべてが、ここを読んで解決されるわけではありません。しかし、性に関して、主が望んでおられることを確認することは、私たちの歩みを考える上で、また特に、日曜学校に通ってきている子どもたち、契約の子どもたちに大切な助言をする上で、重要な意味を持ちます。

イエス・キリストは、このように言われます。27, 28節【あなたがたも聞いているとおり、『姦淫するな』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、すでに心の中でその女を犯したのである。】

【姦淫するな】「姦淫してはならない」という言葉は、旧約聖書の十戒に記されています。イスラエルの民が、エジプトから解放されて、エジプト王ファラオの支配から

主である神様の支配へと移されました。ファラオの法律に従う者から、主の戒めに従う民とされました。主の戒めの基礎となるのが、十戒に記されています。その第七の戒めとして、「姦淫してはならない」とあります。

夫婦の間であれば、性的な関係をもって問題ないのですが、他の人の奥さんなど、自分とは結婚関係のない人と性的な関係を持つてはならないということです。

イエス様は、実際に、肉体的な関係を持たなくても、【みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、すでに心の中でその女を犯したのである】と言われます。「みだらな思い」というのは、どういうことを意味しているのでしょうか？ この言葉は、第十の戒め「あなたの隣人の妻を欲してはならない」の「欲する」と同じ言葉です。「むさぼる」と訳されることもあります。つまり、他の人の妻を「むさぼる」、「自分のものにしたい」、「その人と性的な関係を持ちたい」、そういう目で、その女性を見るならば、あなたは【すでに心の中でその女を犯したのである】と言われているわけです。

ここでは、男性が女性を見る場合のことだけが言われていますが、女性が男性を見る場合でも、同じことが言えるでしょう。他の人の夫となっている人を見て、その人を「むさぼる」「性的な関係を持ちたい」そういう目で男性を見るならば、姦淫の罪を犯したのと同じであるということです。

ただし、異性を見て、「とても素敵な女性だな」とか、「かわいいな」とか、あるいは「かっこいい人だな」とか、「イケメンだな」というふうに、思うことは、問題にされていません。

主である神様は、人間を「男と女」に創

造されました。しかも、主は、造られたものを見て「極めて良い」と評価されました。ですから、「性」そのものは、神様が創造された「極めて良い」ものです。性的な行為も、夫婦の間であるならば、それは「極めて良い」ものであり、祝福です。

主は、最初の人間（男性）アダムを造られてから、「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう」と言われました。最初は、野の獣や空の鳥を人のところに連れて来られましたが、人はその中に自分に合う助ける者を見つけることができませんでした。そこで主は、動物とは違って、人が人格的な関係を持つことができる相手である「女性」が造られました。家畜のように、自分に従わせる相手ではなくて、人格のある、対等な相手として、敬意と愛をもって接すべき相手として、女性が造られました。

ですから、「性」に関して主が願っていることは、異性を単なる性行為の対象として見るのではなくて、人格的な存在として、敬意をもって接するということです。愛をもって（恋愛のことではなく、相手を大切にするという意味での愛）、接するということです。そのようにして、「性」が良いものとして保たれることとなります。

【みだらな思いで他人の妻を見る】他の人の妻、あるいは、自分の妻や夫でない人を、その人と性的な関係を持ちたいという目で見るということは、その人を性行為の対象としか見ていないということになります。人格的な関係、相手に対する敬意がありません。実際に、性行為をしていなくても、主が本来意図した男性と女性の関係を壊してしまっています。

それが、どれほど深刻なものであるのかを示す言葉が続きます。29, 30節【もし、右の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出して捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである。もし、右の手があなたをつまづかせるなら、切り取って捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に落ちない方がましである。】

【みだらな思い】で右の目が見るならば、それを【えぐり出して捨ててしまいなさい】。右の手が、何かそれに関することをしてしまうのならば、右の手を【切り取って捨ててしまいなさい】ということです。

「右の目」だけが「みだらな思いで見ると」いうことはありえないわけですから、文字通りのことをしなさいということではないでしょう。むしろ、極端な表現を用いて、事態の深刻さを伝えようとしているのだと思われまふ。自分の妻や夫ではない人を、「みだらな思い」性的な関係を持ちたいというむさぼりの思いで見るとすれば、それは、些細なことのように見えたとしても、そのままにしておけば、地獄に投げ込まれるほどの深刻な罪であるということです。悔い改めて、主に赦しを求めるとある罪であるということです。

イエス様は、さらに離婚のことにも話を進められます。結婚・離婚のことも、人生に大きな影響を与えます。実際的なことを考える上で、重要な教えです。

31節【『妻を離縁する者は、離縁状を渡せ』と命じられている。】この言葉は、申命記24章の言葉が元になっていますが、もともとの文脈は、離婚した妻が別の男性の妻となり、再び離婚されるか、死別した場合、

最初の夫が再び彼女を妻とすることは許されないというものです。その状況を説明する中に、妻に離縁状を渡して家を去らせるということが出てきますが、「離縁状を渡すように規定」しているわけではありません（新共同訳聖書の訳では、規定するように読めなくもない）。

しかし、ユダヤ人たちの間では、この言葉から、「妻に離縁状を渡せば離縁して良い」と理解されてきました。イエス様が言われているのは、そのように、ユダヤ人の間で理解されているということなのでしょう。

イエス様は言われます。32節【しかし、わたしは言うておく。不法な結婚でもないのに妻を離縁する者はだれでも、その女に姦通の罪を犯させることになる。離縁された女を妻にする者も、姦通の罪を犯すことになる。】

当時は、事実上、男性の権利として離婚が認められているような状況であったようです。しかし、主が、人間を男と女に創造し、結婚という制度を与えられた意図は、そのように簡単に離婚をして良いということではありませんでした。結婚によって「男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる」というのが、本来の意図です。一体となったのですから、二人はそう簡単に離れるべきではありません。イエス様は、別のところで「神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない」とおっしゃっています。

もちろん、やむを得ず、離婚に至るということはあります。32節には【不法な結婚】とありますが、これは、「不法な性的関係」現代で言うところの「不倫」「浮気」などの不貞行為を指しています。こういうこと

が起これば、結婚関係を維持することが困難となります。イエス様は、「不倫」「浮気」のようなことが起こってもなお、結婚関係を絶対に維持するようには言われていません。

私たちの教会の信仰規準である、ウェストミンスター信仰告白には、離婚に足る理由として、今、申し上げたような「姦淫（不倫、浮気）」と、「故意の遺棄」を挙げています。その根拠になっていますのは、Iコリント7：15です（P.307）。【しかし、信者でない相手が離れて行くなら、去るにまかせなさい。こうした場合に信者は、夫であろうと妻であろうと、結婚に縛られてはいません。平和な生活を送るようにと、神はあなたがたを召されたのです。】この箇所は、特に、自分がクリスチャンになった結果、クリスチャンでない相手が去って行った場合について言われていますが、このような場合に限らず、相手が離れ去って行ってしまった場合（故意の遺棄）、離婚の正当な理由になり得るということです。その理由として【平和な生活を送るようにと、神はあなたがたを召されたのです】と添えられていることも重要です。相手に、家庭内暴力や、アルコール依存・ギャンブル依存などがあって、とても平和な生活を送ることができないという場合には、「結婚に縛られていない」離婚の正当な理由になり得るといって良いでしょう。

イエス様は、「不法な結婚」すなわち、もはや結婚関係を維持できなくなる事態が起こることをご存じです。その結婚を維持することに、あまりにも困難がある、苦しみが大きすぎる、そういう場合には、そこから逃れてよいと、認めてくださっているのだと言えます。もちろん、離婚した後

も困難はあるのですが、結婚という関係を重要視される中で、「不法な結婚」に関して、そこから逃れてよいと認めてくださっている事は、たいへん大きな主の憐れみだろうと思います。

そうした特別な理由がなければ、結婚は保たれるべきであるということになります。現在では、本当に簡単に離婚してしまう夫婦が多くいます。バツイチであるというのが、ファッションであるかのように見られる節もあります。しかし、実際には、離婚に至ってしまえば、当事者の傷は大きいものです。

改革派教会の西部中会では、ここ数年、毎年、夫婦リトリートというものを行っています。夫婦関係を良い状態に保つために、年に一度、夫婦のために時間を取り分けて、夫婦でお互いに話したり、夫婦関係を良くするためのポイントを学んだり、他の夫婦の経験を聞いたり、そのようにして、夫婦関係を良好に保つためのメンテナンスを行います。私自身、夫婦リトリートの立ち上げに関わりましたが、私たち夫婦も、日本にいる間、自分たちの夫婦関係を良い状態にするために毎年、参加していました。

罪人である私たちは、夫婦であっても、傷つけあったり、意見が合わなかったりしてしまいますので、良い状態に保つために最善に努力を尽くすことが必要とされています。そこまで努力しても、完璧には行かない、いろいろと問題が起こってしまうのが、罪人である人間の現実ですが、それでもなお、イエス様に倣って、互いに愛し合うということを目指すわけです。

性的な事柄は、現代の課題の最前線にあるものと言えます。LGBTのことなども、

大きな課題ですが、残念ながら、今日の個所から、すべての性的な課題について答を得ることはできません。

今日の個所で、確認したいのは、性的なことに関して、主の本来の意図を追い求めて行くと言うことです。5章から始まりました山上の説教は、イエス様に従って来ている者たちに向かって語られているものです。イエス様に従う者たちは、主である神様が本来意図されたことを求めて生きて行きます。

主は、男性と女性を、単なる性行為の対象として造られたものではありませんでした。人格的關係をもって、また敬意と愛をもって対する相手として、男性と女性を造られました。その愛というのは、恋愛の愛ばかりでなく、相手を大切にする愛です。夫婦の關係はもちろん、夫婦關係にない男女についても、相手の人格を思って大切にしていくなさい、良い關係を作っていくことができるでしょう。二つの異なる性があるからこそ、多角的に物事を見て、一つの性ではなし得ない豊かなことを実現できるということもあります。

主が私たちを愛してくださって、人間を男と女という良いものとしてお造りくださいました。互いに愛し合い、大切にしながら歩いて行くとき、性についても平和が与

えられ、神様の創造の豊かさを味わうことになることでしょう。

【祈り】

主よ、あなたが、私たちを、極めて良いものとしてお造りくださいましたことを感謝いたします。しかし、私たちは、罪のゆえに、互いに愛し合うことについて、まことに欠けが多く、關係を壊してしまう弱さがあることを告白いたします。男と女の性についても、美しいはずの關係を、取り返すが着かないほどに、汚し、傷つけてしまうことがあります。結婚の素晴らしい關係についても、著しく損なってしまうことが少なくありません。

主よ、罪深い私たちを憐れんでください。互いに敬意を持ち、大切にする愛で、あなたが意図された素晴らしい關係を築き上げることができるように助けてください。そのために、聖霊の力によって、知恵と忍耐をあたえてくださいますように。イエス様に倣って、互いに愛し合う關係が、性を越えてもふさわしくなされて、あなたの意図された平和が実現しますように。私たちの間にも、その平和が豊かにあらわされますように。

イエス・キリストのお名前でお祈りいたします。アーメン (宝塚教会牧師)

キリスト教と公教育

学校の道徳教育について

岩 間 孝 吉

1. 戦後日本の民主主義教育の証人として

1945年（昭和20年）7月6日深夜、甲府大空襲で、焼夷弾の降る中を東に逃げ、私たち一家は全てを焼失しました。1946年（昭和21年）4月、私は疎開先の小学校へ入学しました。近隣の同級生と通学しましたが、幼なじみではないので、少なからず違和感があり、「疎開者」という意識もあり遠慮がちの日々でありました。兄や姉たちも、1時間以上歩いて中学校や女学校へ通いましたが、「墨ぬりの教科書」（軍国主義などの記述を消した）だったことを思い出します。

疎開先の農家の方々のご好意で、農具倉庫のお倉に一時住まわせていただきました。雨露をしのぐ場所があるだけでも有難かったのですが、慣れない農作業を少しばかり手伝わせていただき、食糧に有り付くことが出来ました。その年の冬に、寒い北風の中で「麦踏み」という農作業をしたことが忘れられません。生命を支える食糧を生産する農業の大切さを、子どもなりに実感した原体験でもあります。

父親が甲府の町で、事業を始める道が開かれましたので、市内の小学校へ転校しました。戦後、学校校舎も復興しつつありましたが教室や教員の数が不足し、午前中組・午後組の2部授業の時期もありました。脱脂粉乳とコッペパンの給食が始まり、さめると飲みにくいミルクも食べるものの乏しい時代、我慢して飲んだその味は忘れられ

ません。

戦前には無かった社会科（social studiesの翻訳？）の学習で、先生がよく地域の町や人々の生活の場へ、見学に連れて行ってくれました。町並みや商店や工場など、大人が働いている場を見て、よくレポートを書かされました。レポートを基に、図やグラフを書いて、皆の前で発表する機会も順番に与えられました。人前でしゃべるのは苦手の方でしたが、先生が少しばかり褒めて下さるのが嬉しくて、発表できるようになりました。進んで、自由研究などに取り組む習慣が身についてきたのも、戦後教育の大きな成果だと思われま

2. 地元の教員養成大学へ進学

中学校教員養成課程の大学で学ぶことが出来ました。入学した1958年（昭和33年）は、改定された学校教育法施行規則の規定により「学習指導要領」（course of studyの翻訳？）が、いわゆる「法的拘束力」を持つとされるようになったのです。それ以前は、「学習指導要領・試案」であり、教育現場に学習指導の運用が、かなり委ねられていたわけです。時代の大きなうねりの中で、教育の在り方や教育行政も大きく変化していく状況でありました。

この辺の日本社会や教育現場の状況を鋭く描いた小説がいくつかあります。一つは石川達三の『人間の壁』（1958年、新潮社。映画1959年も名作です—宇野重吉・香川京

子主演)です。三浦綾子の『積木の箱』(1968年、朝日新聞社)も、子どもの家庭と教育現場で悩みつつ人間として生きようとする姿を深く描いています。

教育の問題を深く広く、人間の問題として学び理解し、実践していくには、聖書は勿論ですが、優れた文学作品が大きな助けになることを、大学で教師や学友から学びました。理屈だけの教育理論より、はるかに人間の命の重みを伝えてくれるものがあるように思ったのです。

3. 大学から中学校の現場へ

「学習指導要領」が改定され、週1時間の「道徳」の時間が教育課程に位置付けられ、授業が始められることになりました。それまでは、道徳教育は教育の根幹にかかわる重要事項だから、すべての教科や学級指導や学校行事等の特別活動など、すべての教育分野で行うと定められていたのです。

ところが、文部省・教育委員会では、特設「道徳」授業実施に向けて、度々の現場教師対象の伝達講習会を開いています。戦前の「修身」教育復活に繋がるのではないかと、という批判が起こっていました。それから約60年経ち、今年2018年からは、一つの教科と同様の扱いにして「道徳」の評価の記録もするというので、現場の教師たちは苦労していると聞きます。

教員養成大学でも、このために大学カリキュラムを改めて「道徳教育の研究」(2単位授業)を必修科目としたのです。大学で、この授業を履修しないと教員免許状が与えられないことになったからです。当時、大学教員の中にも、特設「道徳」に反対の先生も結構いて、「僕はこの授業(道徳教

育の研究)を本当はやりたくないんだけど、君たち学生が免許状をもらえないと困るから(教員採用試験が受けられなくなる)やっているんだ」と言い訳する大学教員もいたと聞きます。

教育現場の特設「道徳」をめぐる状況が、戦前への回帰の方向ではなく、子どもの人格の全面的発達を促す方向へ向かうために、どうしたらよいか。大学教員も中学校教員も、その教育実践の内実が、問われているのではないかと思うのです。

4. 子どもと向き合う日々の教育実践こそ

大学卒業後、新米の中学教師となった私は、同じ職場の同僚や先輩たちと、教室での日々の疑問や難しい生徒の指導について、話し合うことが出来ました。そういう雰囲気のある学校に就職できたことを感謝しました。

週1時間ある「道徳」の時間について、自分なりに毎月テーマを決めて、「学級通信」で予定を知らせました。例えば——「自分自身をよく知るために」「広い日本や世界に目を開こう」「日記・小遣帳を書いてみよう」「規律ある生活はなぜ必要か」「古いものを大切にしよう」「読書の楽しさを体験しよう」「余暇の時間を有効に使おう」「新聞・雑誌を読もう(衆議院選挙を考えるために)」「働くことの意味を考えてみよう」「人と人の付き合い方について」「NHK『青年の主張』を聞いて考える」等々。

新任教師としてのささやかな知恵を絞って、役に立ちそうな資料を新聞や雑誌から探したり、ラジオ放送をテープレコーダーに録音して使ったりしました。「道徳」の時間に、教訓的な話やお説教などしたことはないのですが、隣のクラスで「道徳」の

時間に、学級レクリエーション（スポーツ）をした等ということが知れると、「私たちもそうしたい」という声が上がってきたりして苦労したことがあります。

ある時は、クラス内で起きた深刻な問題を、生徒たちと一緒に考え話し合う時間にしたこともあります。「自己主張と自己否定」というテーマで、2グループに分かれ

てディスカッションしたこともあります。

自分の担当する教科指導や、担任する生徒指導を充実したものにするには、幅広い人間としての教養が求められます。夏休みなどの機会に、教育委員会で定められた研修以外に自発的な研修会にも、自分の家庭の協力を得て参加する努力をしてきました。
(山梨栄光教会長老)

日曜学校・教会学校訪問

浜松伝道所日曜学校の紹介

澤田光史

浜松伝道所は昨年2017年に伝道開始50周年を迎えたばかりです。現任陪餐会員は長い年月を経て徐々に増し加えられ、現在27名、平均礼拝出席者が30名を超えることもあり、本当に主の恵みに感謝しているところです。また、望月明引退教師の後、念願であった三輪誠教師候補者を7月に招いたばかりであり、今は新しい体制を整えつつあります。

日曜学校の活動内容は昨年発行しました浜松教会50周年記念誌に記した活動と大きく変わってはいません。ここでは、そこで記しきれなかったことを中心に紹介していきたいと思います。

1. 子供の様子

0歳児～高校生が9:15～の礼拝に集います。平均年齢は7歳前後になります。日曜学校の子供に限った平均礼拝出席者は、教会全体の教勢と比例して徐々に増し加えられ、現在は6名以上となっています。子供が一人も来ないで教師も寂しい思いをしながら礼拝を献げるようなことはなくなり、感謝です。そのような状態になったのは、現在犬山教会の牧師をしておられる金起泰先生が来られてからです。その後の無牧の時期にも、契約の子と地域の子供たちが教会につながり続けて今に至っており、本当に主の恵みだと教会員一同喜んでいきます。つい2年前には、礼拝前に教師が家庭を訪問して出席を呼びかけていた子供たち

が、現在は自分の足で礼拝に集う姿を見ると、本当に感謝の思いで一杯になります。現在は更に多くの子供たちが集められるよう、祈りつつ知恵を出しているところです。クリスマスやイースターの時だけ来てくれる子供たちが、いつか毎主日の礼拝に招かれるようにと祈っています。

小学校で毎週礼拝に来ていた子供が、中学生になると部活動中心の生活になり、教会を離れ気味になってしまうのは、日本中どここの教会でも起きていることだと思います。私達の教会でも課題となっていますが、だからこそ小学校のうちに、大切なイエス様の愛をしっかりと伝えていかなければ、との思いでいます。そのような祈りが通じたのか、今年中学1年生になったある男の子は、毎主日の礼拝に出席するために日曜日に活動のない美術部に入るという決断をし、多くの教師、大人たちを励ましてくれました。

2. 礼拝

讃美歌は「こどもさんびか」を中心に、なるべく取り上げる聖書箇所の内容に則したものを選んでいます。月を通して同じ讃美歌を歌い、なるべくメロディーや歌詞を覚えてもらうようにしています。そうすることで、小さい子供たちの御言葉の理解が深まり、神様を賛美する楽しさが培われていくことを願っています。

礼拝で取り上げる聖書箇所は、毎週「教

会学校教案誌」の箇所とほぼ同じところを取り上げています。語る教師の事前の学び・黙想は、この教案誌を用いることによって以前よりかなり準備しやすいものになっていると感じています。実際、2011年からの無牧の時期にも、教師が集まって黙想する際に、この教案誌の導きによって伝えるポイントを整理することができ、準備が整えられていました。全国の改革派教会においてこの教案誌が使用されていれば、本当に改革派信仰の次世代への継承に繋がると信じています。

3. 分級

分級は幼児科、小学生科、中・高生以上と分けています。しかし様々な課題に直面しています。幼児、小学校低学年までは楽しむことを中心に据えて行っていますが、小学校3、4年生くらいからは徐々に御言葉と向き合っていくように導いていく必要があります。現在は小学生が最も多いため、2つのクラスに分けることによってより年齢に即した分級にしたいと願っています。しかし教師の数が限られており、なかなか実現できていないのが現状です。中・高以上科では金先生時代に教えていただいた、聖書の黙想をできる限り行い、自立した信仰者として、御言葉に向き合う習慣が身につくようにと願っています。ただ、中学生と高校生が同じことを行うのはなかなか難しく、本来であればクラスを分けて対応したいところです。ここでも今後、工夫や改善が必要となっています。その他、礼拝で聞いた御言葉を分級においてより深めることができるように各科で工夫をしています。これからは、今以上に充実した分級になるよう、祈りつつ、三輪先生と共に考え

ていこうと思っています。

4. 4大行事

イースター、夏のキャンプ、秋のキャンプ、クリスマスの4つが浜松の日曜学校の大きな行事です。金先生時代に形が定まり、整えられました。かつては春にピクニックがありましたが、無牧の時代に行うことが難しくなり、以降行っていません。本当に主の素晴らしい恵みにより、この4大行事も徐々に参加する子供が与えられ、子供だけで20名ほどになっています。ただ楽しいだけの行事になってしまわないように、教会としてしっかりイエス様を伝えることを意識しています。そのために一昨年から分級の時を持つようにし、年代別に御言葉の理解ができるように工夫しています。しかしここでも初めて来た子供や、久しぶりの子供を導くことは難しく、今後の課題となっています。

5. 教師

今年の6月に望月先生夫人が引退されて以降、現在は5人の信徒が担当しています。今後は三輪先生も加わって、礼拝の奉仕がなされていく予定です。幸い、聖書のお話の奉仕を今年の7月から新たにされる姉妹も与えられ、6月からは奏楽のみの奉仕をしてくれる姉妹も加えられました。教師が維持されていることは本当に感謝です。教師として御言葉を子供に伝える責任は大きく、重いですが、そこから得られる恵みはとてつもなく大きいと思います。実際に私も日曜学校教師の奉仕を通して、信仰的に大きく成長できたと感じています。これからも、他のたくさんの信徒が教師となってくださるよう、祈り求めていきたいと思

ます。そのように、教える喜び・恵みを知ること、牧師への献身の思いが起こされることにもつながると信じています。いつか子供たちの中から日曜学校教師となり、牧師の道へと自然に導かれる者が与えられることを願っています。


6. 絵本塾・おはなしの部屋

望月先生夫人が中心となって2012年から続けてきたこの活動ですが、姉妹の引退もあり今年の6月で一旦終了しました。この活動により、教会の集会に参加することのハードルが下がり、日曜学校の4大行事に

参加してくれるようになった親子も何組もありました。伝道の働きとしては大きいものであったと思います。今後は三輪先生とも話し合い、新しい形で来年度からのリニューアル・オープンを予定しています。

7. 教会ホームページ

三輪先生が来られてから、教会のホームページの具体的な改善の提案があり、その中で日曜学校の部分を独立していくことになりました。今の時代、教会に初めて行くとする方は、皆必ずホームページを確認します。これまで、時代に即した対応がで

浜松教会 日曜学校 10月たより 

2018/10/7

10月になりました。秋の気持ちの良い空。
外に出ると、きんもくせいのお花の良い香りがします。
神様は、すてきなものを創られたお方ですね(^_^)
毎日、神様にお祈りをして聖書を読みましょう。
10月27日(土)には、秋のキャンプ(ピクニック)があります。
ぜひお友達をさそってくださいね！
10月27日(土) 10時～16時頃まで 静岡県立森林公園にて
現地集合または、浜松教会に9時50分集合です

10月の予定


月日	礼拝	聖書箇所	分級
10/7(日)	ダニエルと友人たち	ダニエル1:1-21	10月誕生会
10/14(日)	ダニエルとライオン	ダニエル6:1-29	通常分級
10/21(日)	世界の終わり	ダニエル12:1-13	通常分級
10/27(土)	秋のキャンプ(ピクニック) 静岡県立森林公園にて		
10/28(日)	正しい者は信仰によって生きる	ローマ1:17	通常分級

＜ 浜松教会 日曜学校案内 ＞

毎週日曜日 午前9:15-10:15
・ イエス様について学んでいます。
・ 年間行事「イースター・夏のキャンプ・土曜学校(夏休みの宿題などの学習教室)・科学教室 秋のキャンプ・クリスマス」

日本キリスト改革派 浜松教会
牧師 三輪 誠

〒432-8022 浜松市中区山手町45-3
TEL/FAX 053-453-1694
ホームページ <http://www.hamamatsuchurch.com/>



CS 教師の一言

新所沢教会の教会学校のこと(2)

片桐京子

当時の教会は、子どもにとっても大人たちにも楽しかったですね。なんか任せてやらせたことが良かったみたい。肝心なところは牧師の前田先生がきちんと抑えてらしたけど、一方的に受身で聞くだけじゃなくて子どもたちの自主性に任せていました。ある時、私が教会学校で放蕩息子の話をしたんです。そしたら、その次に伝道集会の時に、子どもたちが自主的に自分たちで放蕩息子のドラマをやりたいって、自分たちでシナリオを考えて、悪い女の子が家出して、それをお父さんが赦すっていう話を作って、それを発表したりして楽しかったですよね。それも先生が指導したんじゃないくて、子どもに自主的にやらせたんで良かったのかなあとと思います。

高校生会の特伝には榊原先生とかをお呼びして話ししていただいたりしているんですね。毎年この中高生の合宿キャンプってのは、府中青年の家とか、青梅青年の家とか、奥多摩とか、いろんなところでやっていて、参加人数がすごいんです。府中青年の家で40人でしたね。それから特伝に映画をやりました。「塩狩峠」とか。この時に93名とか来ているんですね。教会学校で一泊した時なんか教会に雑魚寝ですよ。すごかったですよ。でも食べ物やなんかお母さんたちがすごく手伝ってくれてね。バイブルクラスは、ブルックス先生とか三人くらい先生がいらしてくれてやってくださっていましたね。

その後(80年代から)

その状況がずっと続いていたんですけど、ある時からガクッと情勢が変わるんですよ。子どもたちが来なくなる時期が来るんです。1981年になったら、ヤングサマーキャンプ、川越山の家でやったんですけど、参加者が7名です。この辺りから急に減ってるんですよ。教会学校が盛んだったのは、1970年代ですね。80年代からはもうガククリですね。

それでもね1983年に川杉安美くんが献身を決意しているんですね。それで川杉くん、久保田くん、木村恭子さんでCS教師をやってますね。それで、川杉くんは青年会もやって、青年会の伝道委員として活動してますね。1984年になったら、川杉先生のお母さんも一緒にピクニックやったりね。入船先生が帰国なさってメッセージをいただいたり、この時でもクリスマス祝会61名来ていますね。84年にはそれでもまだ来ていますね。キャロリングに29名出ています。

1985年に久保田先生がCSの校長になります。久保田くんはCSの校長をやって、執事やって、長老やって、それで献身したんですよ。1988年になったら久保田証一くんが献身をして、みんな献身してしまっただけで、新所沢の教会学校の奉仕ができなくなって、CS教師の方の力もちょっと衰えてきたのかもしれないね。1988年、89年になるともうガククリ来て、この辺からもうど

んどん減ってるんですよ。この年に前田先生がCSの校長になったくらいですから教師の数が足りなくなったんですね。ヤングサマーキャンプ2名なんて書いてある。今と変わらなくなりましたね。

「教会学校だより」は、ずっとしまっただけですけれど、このお話をする事になって、あんまり古いことなんで、押し込んであったのを出してきて見たんです。懐かしいですね。これみんなガリ版で、ガリの切れる子が二人いましてね。子どもたちが素朴なことを書いてあるけど、本当に素直にね、信仰を受け止めてですね。今の時代の子どもたちは色々な形で知識が入っていてかえって難しくなっちゃったのかな？ と思いますね。

それと、これ暗唱聖句ってのをやったんですよ。毎回これもガリ刷りですけど作っていました。久保田先生がお習字の先生じゃないですか。久保田先生がきれいな字でこういうの毎週作ってくれて、これ全部子どもたちに暗記させて、出来たらそのカードをもらえるみたいにして、これをあの当時の子はとってあるはずですよ。黒板使って、ひとつづつ隠したり、なんかいろいろ工夫してね。全員が言えるまでやっていました。

こういう子どもも喜ぶんですよ。なんかの時にふっと出てくると思うんですよ。それが大事だと思いますね。

Mさんのこと

教会学校に来て色々な子に会いました、その後みんな結婚したりなんかして、どうなったかわかんない子が沢山いるんですけど、そのなかで一人ね。教会学校だよりも名前が載ってるんですけど、私のラボの

時の同僚のお子さんで、生まれつき難聴でほとんど耳が聞こえないようなお嬢さんがいたんですね。久米川にいた子ね。お母さんが最初に受洗して、子どもと電車に乗ってくるようになって、教会学校に来ていたんです。ただ話をしている、私には全然何を言っているかわからないんです。こちらの言っていることは補聴器が入っているから聞こえているらしいんです。それに対して感じたことを言うんですけど、それを聞き取れないんですよ。それで手紙でやりとりを始めました。その手紙のやり取りがこの教会学校だよりに載ってます。その子がしばらくしてお父さんの転勤で山口県に行っちゃって。それで便りが途絶えてしまいました。そのお嬢さんのことずっと気になっていたんですけど、そしたらもう何年も経って、アメリカから手紙が来たんですよ。その子から。アメリカの大学にいらっしゃるんです。それで素晴らしいクリスマスチャンに会って受洗した。神様を知って嬉しいっていう手紙が来ました。その後、日本に帰国して就職して、ずいぶん重要な仕事をやってるって。それで久しぶりに会ったんですね。その時でも実は話す言葉は私にはほとんど聞き取れないんですよ。でもよく大学出て、仕事もできて、有能な人だったんだと思います。その後バプテスト教会に行きだしたんです。改革派に誘ったけれど、すでにそちらに籍があったんですね。でもクリスチャンになって喜んでいました。それからまた今度はお母さんの介護とかで大変になって、こちらからの手紙に全然返事がこなくなりました。その状態がずっと続いてたんです。それが、去年またお手紙が来て、「結婚しました」って。それで素敵な旦那さんと写している写

真があつて、嬉しいことに披露宴のみんなの前で、お父さんが信仰を告白したんだそうです。その証しを聞いて本当に嬉しかったです。他にも、今でも時々礼拝にいらっしゃるEさんとか、あの人もちっちゃいときに教会学校だよりに文章を書いたりしていますけど、彼女もずっと教会に続いていますね。他にもたくさん、今どこにどうしているかわかんない人がたくさんいるけれど、そういう風に散っている人たちがね、信仰を持って生きていらっしゃると嬉しいなあと思いますね。

やっぱりあの、横のつながりっていうか、ああいうキャンプの力っていうのはすごいと思いますね。

ご自身と教会学校のこと

私は世田谷の朝顔教会にいる時から、なんか子どもが好きで、それでお手伝い程度に教会学校をやらせていただいたんです。結婚して新所沢教会へ来たら、児童学院の人しかなくて、自分にも子どもがいたので、ぜひ教会学校にと思って、子ども達が幼稚園に入った時から、籍も新所沢にきちんとして、教会学校をお手伝いさせていただくようになりました。その後ずうっとやって、一度手術をした時にちょっと休ませていただいて、その後また別の手術をした時からちょっとまた1年ぐらい休ませてもらって、後は本当お手伝い程度にしました。今年小学校に入った勝山美香ちゃんが2歳の時、そこの畳の部屋でやったのが最後ですね。あの子英語の歌でもすぐ覚えてね。それで古川敬一さんにバトンタッチして辞めさせていただきました。

私思うんですよ。私が教会学校に、こういう風に導かれたのは、神様の御愛だと思

うんですよ。だって、どうしたって揺れ動くタイプなんですよ。ここに根をおろすには、教会学校の奉仕が私には一番良かったですね。というのは、どうしたって聖書を読まなければダメじゃないですか。それがね、神様の本当に私に対する最も素敵なプレゼントだったと思いますね。改革派の来る前に、朝顔教会の時に宣教師の団体のところでお手伝いしてたんで、カンファレンスなんてであると、宣教師の子供達もみんな一緒に天城山荘とかで何泊かして、私は子どもの世話をしに付いて行ってたんです。そこで子どもたちが神様の話を聞いて、きれいな目で大きく頷いている、それが絵のように素敵で、こんな美しい光景があるだろうかと思ったのが最初かもしれませんね。それで私はそういう奉仕ができるなら神様、もう入れ歯が落ちるまでさせてくださいとやってね。そしたらやっぱり入れ歯が外れるまでやらせてもらって、本当にこのことで教会から離れずにね、ずっとお恵みをいっぱいいただきました。神様がくださった手段ですね。教会学校は。

「ラボ」と平行線ですずっと28年間。ラボの子と教会学校でまた会う。週に二回子どもたちと会ったりしてましたね。でもこっちはラボで疲れてて、次の日教会学校でお話をして、終わるとホッとするんですよ。これがちょっと困った時期ありましたね。

私みたいなものがこんなに神様に愛されて申し訳ないと思いますよ。本当に振り返ってみてもうお恵みばかりですね。

聖書のお話のこと

教会学校のお話は、子どもたちは退屈に感じる時期があると思いますね。だって長

いこと来ていると、同じお話ばかりでしょ、ヨセフの物語にしろ、ヨブの話にしろ、だけど私にとってはどんな小説よりもワクワクしますね。特に旧約聖書の物語はね。何回も聞いて、その深いところがだんだんわかってくる、自分の経験を積み重ねるのと一緒に、違った形でわかってくるんですよ。紙芝居なんてすごくワクワクしてみましたね。今、もうアニメとかああいうののほうが子どもに魅力的なんですかね？ヨセフの物語なんて涙が出るくらい感激しましたね。

改革派の会員の方達って、ものすごく賜物のある人がいっぱいいるのに、教会学校の教材ってあんまり作らないのが不思議でしょうがないのね。ずっと「成長」とか他教派の教材を使ってたでしょ。もっといいのが改革派でできるんじゃないかなって思ってたけどね。やっぱり視聴覚で訴えるって残りますよね。それと人の言葉で伝えるっていうのがとても良いですね。大会の教育委員会で作った「みちしるべ」なんていうのが出ましたね。あれはあんまり子どもたちには……。あれもお話しだけな

んですよ。

「じのないほん」とかありましたね。当時はペープサートとかを教師が自分で考えてきてましたね。とにかく教師が何か作らなきゃだめだったんですよ。何も無いから。それが逆に功を奏したかもね。

今、教会で「子どもの集会」をやっているのはすごい貴重だと思いますよ。子どもをどうにかして集めたいと思うけど。この年になると人脈が本当に年寄りばかりで。だんだん痛いだのそんな話ばかりになっちゃってね。聖書なんか読めないから、もういいわとか言われちゃう。

長い新所沢教会での生活で、色々なことがありました。大きな変化も見てきましたね。その中で教会学校は私にとって私の信仰を育てるためのとても大事なものです。だから私は今でも教会学校が大好きなんですよ。教会学校のお話って本当に一番の福音の根っこをね、色々付けないでそのものを子どもに話すじゃないですか。それが私にはとても大事ですね。(新所沢伝道所)

(インタビュー：2018年3月28日(水))

信仰告白・受洗の証

神様に感謝したいこと

千ヶ崎 承

ぼくは、2017年11月12日に信仰告白をしました。この年の東部中会夏のヤングサマーバイブルキャンプに行ってわかったことがありました。今までは日曜日の礼拝の聖餐式を見て、イエス様がどこにおられるのかわからなかったけれど、聖書のお話から、聖餐式がイエス様と一緒に食事をするのだということに気づき、神様のことがわかりました。今年の3月まで通っていた東京恩寵教会の礼拝室には、3つの椅子がありました。日曜日の朝の礼拝で、牧師と司会の長老の間にある真ん中の椅子が、イエス様の椅子だと気が付きました。そして、すごくイエス様が現実に見えるような気がしました。二千年前の昔の話だと思っていたけど、イエス様が今も近くにいて生きているとわかってとてもうれしいと思いました。

キャンプに高校生で参加している人は、ほとんどの人が信仰告白や受洗をしていた

ので、ぼくも信仰告白をしたいと思いました。この年の誕生日が日曜日だったので、誕生日に信仰告白したいと思いました。それで、キャンプの時にみんなに言いました。

信仰告白したら、教会で50人以上の人に「おめでとう」と言ってもらえて、とてもうれしかったです。

自分の神様に感謝したいことは、聖書に書いてあることに初めて気付けたことと、誕生日が日曜日で、信仰告白の日を迎えることが出来たことです。

信仰告白して、日曜日に神様を賛美でき、祈りながら一緒に過ごせる日となって、とても嬉しい日になりました。今は毎日が日曜日だったらいいなあと思っています。

これからも神様であるイエス様がずっとそばにいてくれるのでうれしいです。イエス様がいてくれたら安心できます。これからも感謝していきたいです。（横浜教会）

信仰告白・受洗の証

洗礼へと導かれて

吉野由真

私は母のお腹の中にいるときから教会へ行っていました。毎週のように行っていたので、教会へ行くことは当たり前だと思っていました。

小学3年生のときのことです。子どもの教会で聖書を読んでいたとき、「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る」(イザヤ書41章10節、新改訳)という御言葉が目に入りました。そのとき、私は、イエスさまはわたしといつも一緒にいてくれて、わたしのために十字架にかかって下さったということが理解できました。そして神さまのことについてもっと知りたいと強く思いました。教会に行けるというのは、神さまからの恵みだったと分かったのです。

小学5年生のクリスマスの頃から名古屋岩の上教会に通うようになりました。6年生の秋頃になって、相馬先生に「いっしょに神さまのことについて学ぼう」と言われたとき、とても嬉しかったです。先生と二人で「子どもと親のカテキズム」を学びました。そのとき、洗礼を受けようと思いました。その理由は、イエスさまが私の罪を赦すために十字架にかかって下さったことを信じることができたからです。そして、神さまの子どもとして、神さまに奉仕することができることがとてもすばらしいなと

思ったからです。中学生になった今年の聖霊降臨祭で、洗礼を受けて教会員になりました。私の周りには、生きたまことの神さまを知らずに、人がつくった神さまを信じる人が大勢います。私は、そのような人たちに少しでも神さまのことを知ってほしいと思っています。

洗礼を受けてから、マタイによる福音書の28章18～20節を読みました。こう書かれています。

「イエスは、近寄って来て言われた。『わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。』」

わたしは、いつも一緒にいてくださるイエスさまの光に照らされて、神さまの栄光をあらわしたいです。この世界には、教会に來れない友だちが沢山います。わたしは、イエスさまのことを知らない人たちに神さまのことを伝え、教会に奉仕できたらいいなと思います。そして、これからも神さまと共に、教会の生活を大切にして歩んで行きたいです。

(名古屋岩の上教会 中学1年生)

教会役員養成のために

執事職について(4)

相馬伸郎

第58条2項～第60条について

政治規準によれば、執事は教会役員ですが、常に「小会の監督の下におかれ」(59条)ます。同時に「3名以上の執事を確保することができず、執事会を組織できない場合でも、執事的働きは遂行されなければ」(第60条)なりません。執事がいない教会であれば長老が、伝道所であれば伝道所委員が執事的働きを担います。教会は名詞的存在ではなく「教会する」ところに存在します。教会の本質は全信徒のディアコニーにあるのです。執事職の光栄は際立ちます。それゆえ執事は、教会の手足となって仕えます。もし執事が教会堂の清掃や整理整頓等の小さな奉仕を自分の家より実践するなら、教会が倒れることはないとすら思います。執事には教会に対する燃える愛、その働きへの理解と献身が求められます。

59条では執事会が扱われます。執事の任務規定は九つ挙げられ、長老のそれより一つ多いことを確認しました。執事にとって職制権能を行使することが生命的に大切であることが分かるだろうと思います。その意味で、長老が小会(会議)を構成して教会を統治する本質的あり方とは異なります。しかし執事もまた執事会を組織すべきです。それは、職制権能の究極の目標が教会形成にあるからです。執事会では、各執事の職制権能を毎月報告しあいます。その目的が目標にふさわしく機能できているか

を相互にチェックします。また、教会員全員が奉仕に参与する特権を行使し得ているのかを調査し、会員ひとり一人がふさわしく奉仕できるように配慮します。執事は、執事会の議論を通して教会(全信徒)の執事的働きのコーディネーターとなります。執事は、信徒の奉仕の特権を奪ってしまっただけではありません。また、相互研鑽によって職制権能はよりよく行使され、会員の模範の力となります。こうして個人としてまた執事会として教会全体のディアコニアを推進する大きな力として用いられます。

第58条2項に「執事は、中会または大会において執事的働きに関する委員に選ばれることができる」とあります。執事的奉仕はその働きにふさわしい専門的知見が求められることが少なくありません。地方公共団体職員や医療、福祉、法律関係等々の従事者、その他有資格者の執事の存在は大切です。一個教会の課題を他教会の執事の知見を求めて改善、克服する可能性もあります。執事活動委員会に執事が加わることは当然すぎることです。本来、各個教会では担えない、地域に広がる一つの教会(長老主義教会)であればこそ担えるディアコニアの実践が執事活動委員会に求められます。また、地域社会に教会のプレゼンスをふさわしく発揮させる計画と実行を担える人材の育成と中会内の執事(賜物)のネットワークの構築が強く求められます。

「礼拝指針」第127条「執事の任務」より

「その職務の本性から、各個教会の執事会は愛の業を継続的かつ組織的に行う責任をもつ。助けを必要としている人々に対する愛の業において指導性を発揮することが特に執事に期待されている。」

①「執事職の本性」とは、何でしょうか。それは仕えることです。奉仕の本質は愛の働きです。それは教会の働きそのものです。素朴に言えば、「教会」は長老がいなくても成り立ちますが、奉仕を担う会員がいなければ成り立ちません。「執事的奉仕なくして教会なし」です。

②「指導性を発揮すること」とは、何でしょうか。執事は、苦しみながらも助けの声を挙げていない方々、そのような顕在化していない困窮者の状況を察知し、自ら手を差し出すこと。会員を牽引する能力と指導性が強く求められています。

指針はまた、執事の任務を語るどころで直ちに執事会の責任を描きます。教会のディアコニアは常にチームワークが求められるからです。継続的、組織的活動のためには執事会の形成が要となるということです。

③「助けを必要としている人々」とは誰でしょうか。128条と129条の「病者」、130条の「遺族」、131条の「障がいのある人」、132条の「高齢者」が挙げられています。しかし、教会の中には、その他さまざまに助けを必要としている人々がいます。たとえば、職場を失った人、人間関係を上手に築けない人等々。数え挙げればおそらく教会員の数だけおられるということになるでしょう。人は誰でもなんらかの助けを必要としているのだと思います。

その意味で執事は常に「助ける人」、信

徒は「助けられる人」として二分化することはできません。むしろ、執事こそ助けを受けたという体験が大切です。主イエスは、私どもを弱くされました。「わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである」(ヨハネ15:5)と仰いました。また、主イエスは、「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(マタイ25:40)と仰って、私どもを最も小さい者と見て下さいませ。だからこそ、私どもの隣人となって下さったのです。キリスト者は誰でも、主イエスの愛の業を受けて立ちあがることが許されています。こうして自ら神と人々に仕える者に変えられています。

したがって、教会のディアコニアは真っ先に最も小さく弱い者つまりキリスト者へと向かいます。そもそもエルサレムに始まった教会は、迫害下のユダヤ社会の中で、互いに持ち物や財産を共有して助け合わなければ生きて行くことができませんでした。そもそも執事職は、日々の食糧の分配において社会的に最も立場の弱いやめたちを助けるために7人の奉仕者が選ばれ(使徒6:3)たところから整えられて行ったと言われています。つまり、教会におけるディアコニアは必ず主にある交わりを具現します。助けを必要とする弱さは、教会のディアコニアの中では、マイナスではなく健全な交わり(コイノニア)を生む力となります。

70周年宣言を实践する教会と執事

(世に仕える教会) 抜粋
 「十字架の福音に生きる教会は、……主がしもべとなって世に仕えられたように、苦しむ人々と共に歩み、共にうめき、彼らのために執り成し祈る。……平和の福音に生きる教会は、……この世における正義と平和の実現のために彼らと共に働き、自ら進んで良き隣人となって世に仕える。……」

70周年宣言が描こうとする福音的教会像とは、「ディアコニアの教会像」とも言い得ると考えます(拙論参照「福音の本質であるディアコニアによる教会形成」2018年10月6日 神戸改革派神学校信徒神学講座)。今後の日本キリスト改革派教会が歩み、具現すべき教会像だと思います。

最終稿の今回、教会のディアコニアを考察し実践する上でわきまえるべき二点について略述します。第一に、ディアコニアとは「職務(務め)」つまり、教会の頭である主イエスからの「委託」であるということです。任職された執事職はそれを体現しています。その務めは、キリストの教会の生命である故、不可欠かつ徹底的に霊的な働きです。常に神の国を証しし、教会形成を担う働きです。そこにボランティア活動や社会福祉活動等々との相違性があります。本来その働きは、個人の判断や気持ち等によって左右されるものではありません。委託である故、資質や能力も問われません。信仰の修練と教会的訓練が課されなければなりません。務めですから、主に対し

て報告の義務を負います。また、教会共同体を代表する働きでもありますから会員への報告も必須です。客観的評価が可能であり、なされなければなりません。したがって、仕える教会たらんとし新しい教会像を描こうとする日本キリスト改革派教会にとってディアコニアの神学の学びと掘り下げは不可欠です。執事も執事会もそして中・大会の執事活動委員会も現実の奉仕活動を常に神学的に考察することが要です。

第二は、祈りの不可欠性です。ディアコニアの原点、原動力はどこにあるのでしょうか。新約聖書の中で神の愛をあらわす特別の言葉に「スプラクニヅマイ」があります。原意は「内臓に激痛を生じさせるほどの感情のほとぼしり」です。例えば、マタイによる福音書だけでも、5:7、9:13、27:36、12:7、14:14、15:22、17:15、18:27、18:33、20:30、31、34と実に多く使用されています。主イエスは、他でもない敵である私を激しい感情をもって憐むゆえに十字架に赴かれました。この恵みのゆえに救われた者としてのかたじけなさ、恩義に応えたいとの思いが聖霊によって起こされたのがキリスト者です。私どもはただイエスさまに恩返しをしたいのではないのでしょうか。そのとき、主は、「わたしのもっとも小さな者にしてくださいね」と仰います。ディアコニアの学びと神学は「行って行え」(ルカ10:37)との主イエスのご命令から離れては空虚です。共に、愛を祈り求めましょう。(名古屋岩の上教会牧師)

教会役員養成のために

長老職について(4)

吉岡契典

IV. 長老職の本質

1. 合議制の下で、集合体としてはたらく長老職

前回までの長老職にまつわる歴史の回顧を通して明らかにした主な事柄は、長老主義政治という教会政治制度の実施の方法には多様なバリエーションがあり、よって長老という教会の中に置かれる職務についても、それが Reformed と Presbyterian という二様の潮流に大まかには分類できるにしても、両者の交じり合いも起こる中で、その在り方は全く一様ではないという、歴史的帰結であった。

そもそも、教皇制（監督主義的的制度による教会統治）に対するアンチテーゼとして歴史的に登場した長老主義制度にとって、その要諦たる長老職が非官僚的で、多様かつ柔軟性のある職務であることは必然であるとも言える。

そのような長老職についての認識を前提としながらも、この連載を終えるにあたって、長老職についての論考のまとめとして、その職務についての本質的な理念や原理原則を確認しないわけにはいかない。それなしには、私たちがこの時代に長老職を中心とした長老主義制度を実施していくためのよすがを欠いてしまう。

まず最初に記されるべき長老職の本質とは、その職務は会議によらなければ決して本来の機能を果たすことをしない職務であ

るとい点である。

既に「教皇制に対するアンチテーゼ」という言葉を用いたが、それは言い換えれば、一人の人間に依存し、左右される教会政治の拒否ということである。よって長老主義の最初に語られるべき原則とは、一人で教会における政治的判断を下さないこと、皆で決めること。即ち複数人の長老たちが長老たちによる会議を形成し、その中で決して独裁的ではない方法で、合議的に教会の意思決定が行われなければならないという原則である。カルヴァンは『キリスト教綱要』でこう語っている。「聖霊は、教会政治において、誰も、教会のかしらになること、また、教会を支配することがないように、警告なさるからである。」

長老は、そのような中で「長老たち」の一人として働きを為す時に、個人の力を制限し、教会のリーダーシップを単独で担うリスクを回避することができ、教会に多様なかたちで働く聖霊の賜物を反映することができる。

さらにその複数の長老たちは、それぞれの存在を通して教会内部の多様なグループや層の利益、価値観、関心を代表し、それを教会政治のテーブルに持ち込むことができ、信徒と教会役員を繋ぐ民主的な架け橋になることができるのである。

2. 諸会議を跨いで働く長老職

長老主義政治は、その発端からではなかったにしろ、その発展段階において、各個教会、地域教会、全国の諸教会、さらにはエキュメニカルな全世界的交わり、というかたちで、邦語で言えば、小会・中会・大会という段階的諸会議による教会政治を、自らに不可欠な構造として構築し、採用してきた。前項で述べた「一人で決めず、皆での会議によって決める」という意思決定方法と、独裁を防止する相互監督機構を、長老主義諸教会は、各個教会という単位だけではなく、諸教会が集合する中会という枠組みにおいても、教会政治の中で機能させてきた。そしてその段階的諸会議の主たる構成員は長老たちである。よって長老職とは、各個教会の中に立てられて、その中だけで教会の統治と働きを行うだけでは不十分であり、長老職は、各個教会の枠を超えた広がりの中でも、協働的な働き (collegial ministry) を実施すべき職務なのである。以上から、本質的に長老職は、普遍的な広がりを持つ職務であり、その広がり強調することは、今日の時代状況においては、過去に勝って一層重要である。

そしてこの長老職の職務理解の背後には、大会・中会など、広い意味での教会会議を共に構成する諸教会と諸中会を、キリストの体なる教会の広がりという、広い意味での教会であると理解し、各個教会に立てられた職制は、同時に更に広い次元における広い意味での教会にも仕えるべく召し出されているという、改革・長老派教会の教会観がある。

3. 牧師職に従属する下部組織ではない、また働きを治会に限定することのない長老職

ルーカス・フィッシャーは「宗教改革者たちは、長老たちは何にもまして訓練の義務を果たすべきであると考えていた。……しかし、それは本当に妥当だろうか。宗教改革者たちの記述と、新約聖書が語る長老たちの責務とのあいだに、矛盾はないのだろうか。実は、ここには、ある相違がある。その相違とは、新約聖書には、長老たちが、教会全体の責務を担っていたことを示す形跡があるという点である。彼らは、教会を導くという使命を帯びた、羊飼いたちであった (使徒言行録28章28節)。さらに彼らは、説教する責務をも担っていたとされている (テモテへの手紙一5章17節)。彼らは教会の教えも導き、その重大な決定に参加していた (使徒言行録15章)。彼らは勧告し、慰め、さらに病人のために祈るつとめも担っていた (ヤコブの手紙5章14節)。彼らは教会によって、教会を代表する指導者として認められ、金銭的報酬も受けていた。宗教改革者たちが牧師と長老の職務を区別した際、彼らはまた、長老たちのそれらの権能をも分割した。彼らは、古代教会で発達した教会制度を抛り所としていたにもかかわらず、長老たちの責務が及ぶ範囲は、宗教改革期には狭められ、事実上、長老たちは、牧師職に従属する立場に置かれた。」(ルーカス・フィッシャー『長老職』吉岡契典訳、一麦出版社、2015年、110頁)と述べている。

また長老主義制度が確立した宗教改革期の状況には、言うまでもなく福音宣教という教会にとっての本質的な働きに対する過小評価も存在しており、それが宗教改革期

における長老職理解にも影響を与えていると言わざるをえない。

しかしながら、長老職についての今日的な理解においては、宗教改革期における治会と訓練をその職務の本質とする理解を超えて、より聖書的で、より神の国の訪れを世界に対して告知するという教会の存在理由に合致した、福音宣教的側面が、職務の中に回復され、その本質的な働きとして位置付けられる必要がある。

その長老職の本質に回復されるべき職務内容の再定義を行うための試みのひとつとして、最後に長老職の資質と働きを語るテモテへの手紙一三章一節から五節の御言葉に耳を傾けてみたい。「この言葉は真実です。監督の職を求める人がいれば、その人は良い仕事を望んでいる。だから、監督は、非のうちどころがなく、一人の妻の夫であり、節制し、分別があり、礼儀正しく、客を親切にもてなし、よく教えることができなければなりません。また、酒におぼれず、乱暴でなく、寛容で、争いを好まず、金銭に執着せず、自分の家庭をよく治め、常に品位を保って子供たちを従順な者に育てている人でなければなりません。自分の家庭を治めることを知らない者に、どうして神の教会の世話ができるでしょうか。」

何が監督（長老）に求められているのだろうか？パウロは監督たちに、どういう教会形成を求めているのか？「一人の妻の夫、節制、分別、礼儀正しく、客を親切にもてなす。酒におぼれる乱暴者ではなく、寛容で争いを好まず、金銭に執着するのではなく、おおらかで、逆に言えばお金を出すときには出すことができる」人格。特に、

一度文章を切ってから再び強調して、自分の家庭を良く治めることのできる能力、そこでの品位、子どもたちへのリスペクトを欠かない良き対応と配慮のできる力が、監督には必要だと訴えられている。そしてその自分の家庭での親としての振る舞いが、神の教会での働きに直結していると締めくくられている。ここに浮かび上がってくる監督の資質とは、神学的素養を備えた完全無欠の人物であるべきだということではなく、一言で言えば、良き親としての資質である。

ここから、パウロが教会をひとつの家族として捉えていたことを読み取ることができる。そしてそこでの長老には、かつてのパウロ自身のような反対者をも温かく受け入れ、家族として招き、子どもを良く養い育てる親のようにして、一人一人の人格を庇護し、神に向かって成長することへと導くことのできる、伝道的視野と、柔軟さ、そして懐の深さを持った人格であることが期待されているのである。

このように長老職は、治会という言葉の枠組みには収まらない、牧師職に匹敵するような豊かで重要な職務内容を本質的に持っている。歴史的視点を得ることによって、現状の長老職を良い意味で相対化し、聖書という原点に立ち返ることによる絶えざる発見と再定義を試み、さらに教会が今置かれている時代の要請にも対応しながら柔軟にそれを運用していくこと。長老職は、そのすべてを可能にする深みと広がりを持った職務であるということができないだろうか。（板宿教会牧師）

聖書默想・説教展開例・分級展開例

1月6日 詩編23編

【解説と黙想】

主は羊飼

詩編23編には祈りは含まれず、助けを得るための嘆きの訴えも含まれず、ただ純粹な感謝だけが含まれている。主が羊飼として詩人を世話し、守り、導いてくださることへの感謝と平安に満ちている。

1節で「主は羊飼、わたしには何も欠けることがない」と詩人は断言する。神を牧者にたとえることは、同時に人間を羊にたとえることを意味する。羊は弱く、他の獣に対する自己防衛力を持たず、地理的な分別力に乏しく迷い易い動物である。ゆえに、羊飼いに全面的に信頼して従うより他に生きる道はない。私たち人間も神に依存しなければ生きていけないという点で、羊と同じような存在である。「わたしには何も欠けることがない」とは、現在も将来も主の養いを信じる素直な表現である。

2節に「主はわたしを青草の原に休ませ、憩いの水のほとりに伴い」と歌われている。パレスチナにおいて放牧地と言えば、水の乏しい砂漠のような荒れ野である。そのような所では、牧草と水は優れた牧者によってのみ探し当てられる。か弱い羊の命は牧者にかかっており、牧者なしには飢えと渇きと猛獣の危険からの保証はない。

4節には、「死の陰の谷を行くときも／わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる」とある。「災いを恐れない」とは、「災いがない」という意味ではなく、「たとえ災いが襲いかかって来

ても恐れることはない」という意味である。その理由は「あなたがわたしと共にいてくださる」からである。この句が詩編23編の中心聖句である。日々の生活の中で苦難や危険に直面してもそこに恐れがないという信仰は、主の臨在こそ救いであることへの確信から来るのである。

5節より客人をもてなす主人の比喩に表現が変わる。主なる神は敵から詩人を保護するだけでなく、豊かな料理や酒を取り揃えてもてなし、歓迎と親密さを示す。主人が客人の頭に「香油」を注ぐことは喜びの表現であり、「杯」は気前良く客人をもてなす様子を示している。これは、主に信頼する者の人生が常に恵みで満たされ、溢れるほどであるという感謝の表現である。

6節は、羊が安全な囲いの中に守られるように、主に従う者は「主の家」に住むことができ、休息と平安が与えられることを示す。「主の家」とは、ダビデにとってはエルサレムの主の家であり、キリスト者にとってはイエスを頭とする教会である。

このように、詩編23編は「主はわたしの羊飼」と歌い、その主が「わたしと共にいてくださる」と歌うが、イエスこそが「わたしと共にいてくださる羊飼（主）」なのである（エゼキエル34章、ヨハネ10：1～18）。それが、イエス・キリストが「インマヌエル（神は我々と共におられる）」と呼ばれるゆえんである。（小澤寿輔）

《参照箇所》 エゼキエル書34章、ヨハネによる福音書10章1～18節

《教理問答》 「子どもと親のカテキズム」問16、93

1月6日 詩編23編

【説教展開例】

主は羊飼

◇..... 単元のねらい◇

神は私たちの命とすべての善きものの源であり、神の子たちに必要なすべてのものを与えて、楽しむことができるように祝福して下さることを学び、この恵みの神に日々より頼んで歩むことができるように祈り求めることを身に着けさせたい。1節から6節まですべてが重みを感じさせるが、今回は1節、2節、4節を重点的にお話しすることにする。

「主はわたしの羊飼

新年あけましておめでとうございます。今日は、今年に入って最初の教会学校の主日礼拝を捧げています。今年一年も、聖書の御言葉をよく聴いて、神様を喜び、神様に喜ばれる一年を過ごしたいと思います。

皆さんは、何か良くないことが起これば、「運が悪いからだ」と思ったり、逆に何か良いことがあれば、「ラッキー、運が良い」と思ったりすることはないでしょうか。また、自分の身に良いことが起こるかどうかわかりたくて占いを気にしたりすることはないでしょうか。まことの神様を信じている僕たち私たちは、そのようなことを心配する必要はありません。なぜなら、イエス・キリストの父なる神様は、神様の子どもである私たちを愛し、いつも守って下さるからです。また、私たちに必要なすべてのものを与えて楽しむことができるように祝福して下さるからです。そのことをよく教えてくれる聖書の言葉があります。それが先ほど読んだ詩編23編です。

この詩の一番初めのところで、「主は羊飼、わたしには何も欠けることがない」と、この詩を歌った人（詩人）は言います。神様が羊飼いで、人間が羊であるという考

えは古くからありました。羊はとても弱く、獣が襲って来ても戦うことはできません。また、方向音痴なのですぐに道に迷ってしまいます。自分で食べるものや飲み水を見つけることもできません。これでは、羊だけではとても生きていけません。羊飼いの導きに全面的に信頼して従うより他に生きる道はありません。私たち人間はどうでしょう。私たちも、神様の守りと、お導きと、生きるために必要なすべてのものを与えて養って下さることがなければ、生きていけません。まるで羊みたいですね。今日の詩編の詩人は、「わたしには何も欠けることがない」と言いました。今も将来も最高の羊飼である神様の守りと養いを信じて、そのように言ったのでした。

2節には、「主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い」とあります。「青草の原に休ませ」と読むとき、日本に住んでいる僕たち私たちは、柔らかい草が一面青々と生えている牧場を想像するかもしれません。けれども、この詩が書かれたパレスチナという所では、羊の放牧地と言えば、岩がゴロゴロ転がっていて、水の乏しい砂漠のような荒れ野です。そのよ

うな所で、羊が牧草と水にありつくためには、優れた牧者に見つけてもらい、そこに導いてもらうより他ありません。導かれて岩と岩の間をよく見ると、緑の草が2～3本生えています。空気中に含まれる水蒸気が夜になると岩の表面に結露して水滴となり、それが地面にポタッと垂れると、そこだけ土が潤されて草が生えます。羊たちにとっては、たった一口分の草です。羊たちはその一口分の草を食べては進み、また一口食べて進み、ということを一日中続けると、やがてお腹いっぱいになります。

神様は、人間である私たちにも、毎日少しずつ、その日に十分な恵みを与えて、生かしてください。もし、いっぺんに広くて一面緑の牧草を私たちに見せてしまったら、どうでしょう。私たちは神様にお祈りすることも、神様に頼ることも、感謝することも忘れて、神様から離れて生きてしまいます。羊が羊飼いから離れてしまったら、生きられませんね。それと同じで、私たちも神様から離れてしまつては、一日たりとも生きていくことはできません。だから神様は、一日に必要な分だけを与えてくださり、また次の日には、その日に必要な分だけを与えてくださるのです。このようにして、神様は私たちの命を支えてくださるのですね。ですから、人生の先が見えなくても心配する必要はないのです。ただ、私たちのすべての必要を知って与えてくださる神様に信頼して、神様のお導きにお従いすればよいのですね。

4節には、「死の陰の谷を行くときも／わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる。」とあります。「災いを恐れない」とは、「災いがない」という意味ではありません。そうではなくて、「たとえ災いが襲いかかって来ても恐れることがない」という意味です。どうしてそのように言えるのでしょうか。神様が「わたしと共にいてくださる」からだ、この詩人は言っています。この言葉は、詩編23編の中で一番中心的な言葉です。日々の生活の中で苦しいことや困ったこと、危険なことがあっても、神様がわたしと共にいてくださるから怖くないのです。

それでは、「あなたがわたしと共にいてくださる」と言われるその方とは、いったいどなたなのでしょう。新約聖書のヨハネによる福音書10章11節を見ると、「わたしは良い羊飼いである」と言われた方がいらっしゃる。どなたでしょう。そうです、イエス様です。また、旧約の預言者イザヤも次のように言いました。「見よ、おとめが身ごもつて、男の子を産み／その名をインマヌエルと呼ぶ。」それと同じ言葉が、今度は、イエス様のお生まれになる前に、天使によってヨセフに語られました。もうみんな分かったと思うけど、イエス様こそが「インマヌエル（神は我らと共におられる）」と呼ばれる私たちの羊飼いなのです。今年もこの方に信頼し、お従いして、毎日の生活を恵みと喜びと感謝で満たしていただきましょう。（小澤寿輔）

《今週の暗唱聖句》

死の陰の谷を行くときも／わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる。（詩編23編4節）

1月6日 詩編23編

【幼稚科】

主は羊飼

〈ねらい〉

私たちの羊飼である神さまは、いつも私たちを養い導いて下さることを覚える。

〈展開例〉

新しい年になりました。今年も神さまはどんな方かを一緒に知っていきましょう。

さて、皆さんは羊を見たことがありますか？ 羊は弱くて、他の強い動物から自分を守るやり方も力も持っていないで、道にも迷いやすいようです。判断する力も弱く、牧草や水がある場所を探す力もない弱い動物のようです。ですので、羊を世話して守り、導いてくれる羊飼いさんがいなくては生きていけないのです。

みんなも、まだ育ててくれるお父さんやお母さんがいなくては生きていけないように、色々できることがいっぱいあるみんなのお父さんお母さんも先生たちも、本当は神さまがいなくて生きていけないのです。だから、神さまは私たちが羊にたとえました。ですから羊飼いは神さまなのです。

神さまは羊である弱くて迷いやすくてかしくない私たちをお世話し、休ませ、守り、導いてくださる方です。「魂を生き返らせてくださる」すばらしい方なのです。

だから、この詩編を書いた人は言います。

今もこれからも、どんなことがあっても神さまが私たちを育て導いてくださるから、「わたしには何もかけることがない」と！たとえ、大変なことがあっても、こわがらなくていい。神さまがいつもわたしと一緒にいて、正しい道に導いてくださるから！この詩人は、本当にそうだ！と確信して語っています。そして、羊飼、主人である神さまにいつも聞いて頼ってついて行く人の人生は、神さまの恵みでいつも満たされ、本当に祝福でいっぱいになるなあ、と心から感謝しています。

これからもこの詩編を書いた人のように、神さまと離れず、神さまの家である教会に通い続け、神さまの家族と一緒にすばらしい神さまを賛美し続けましょう。

〈祈り〉

神さま、わたしといつも一緒にいて、導いてくださってありがとうございます。これからももっと、神さまのことを頼って何でも聞いていけるようにさせてください。

〈やってみよう〉

羊たちと羊飼いの絵を描いてみよう。

賛美しよう ♪ハ・ハ・ハレルヤ♪

1月6日 詩編23編

【小学科上級・中学科】

主は羊飼

1. 詩篇23編を読みましょう。

- ①この詩を書いたダビデはどんな人ですか。

- ②羊飼いを見たことがありますか。どんな働きをするでしょうか。
また、羊はどんな動物でしょうか。

- ③「主は御名にふさわしく」とは、どういうことでしょうか。

- ④この詩の中で、心に残ったところ、気に入っているところなどをあげてみましょう。
ダビデがどのような場面で、どのような立場でこの詩を書いたのか、考えて話してみましょう。

1月13日 列王記上3章1～28節

【解説と黙想】

ソロモンの知恵

・カリキュラムの流れについて

「ソロモンの知恵」に関しては、2018年1月28日(68号)でも扱っていますので、そちらをぜひ参照ください。

昨年のカリキュラムでは、旧約における神の歴史の進展、救済史の流れの中で、この箇所が扱われました。旧約救済史を貫くのは、私たち人間の傲慢とそれを超えてなお働く神の絶大な救いの意思と力でした。

今回は前回とほぼ同じ箇所ですので、聖書箇所が示す内容は変わりません。しかし、今回は、新年を迎えた教会暦の中で「知恵」についての数回のメッセージの一部としての扱いであることに注意しましょう。

・知恵の人ソロモン

ソロモンは、ダビデ王朝二代目の王として、またイスラエルの最盛期をもたらした人物として聖書の中に表れます。彼の出生は、そもそも父ダビデの罪から生じたものであり(バト・シェバ事件、サムエル記下11章～12章参照)、彼の晩年は、神様から心離れ、王国の分裂をもたらすものでした(列王記上11章参照)。今日の聖書箇所の中にも、ソロモンが「聖なる高台でいけにえをささげ」(3:3)と、彼の欠けが記されており。しかし、彼の知恵自体は旧約聖書の中でひととき高く評価され、知恵文

学と呼ばれる文書の多く(箴言、コヘレトの言葉、雅歌)がソロモンによると考えられました。知恵の人としてのソロモンは、彼個人の生涯の浮き沈みに関わらず信仰者の模範となり続けます。

・知恵と神、知恵とキリスト

知恵文学において、「知恵」は、単なる人生訓ではなく、人格的に捉えられています(箴言8章等)。「知恵を持つ」ことは、その人自身の能力の有無ではなく、神様が共にいることです。今日の箇所、イスラエルの人々は「神の知恵が王のうちにあって、正しい裁きを行うのを見た(3:28)」ことで王を敬います。王の能力ではなく、神様が働かれていたが故に器である王を恐れ敬ったのです。神様に対して謙遜であったから人としての高い能力を与えられたのではなく、神様を恐れ、神様に従うこと自体が知恵であることを注意しましょう。

知恵の擬人化は旧約以降さらに進展し深められます。その頂点がヨハネ福音書の序言における神のことばであるイエス・キリストです。私たち自身の思いや振る舞いではなく、イエス様の思い、イエス様の振る舞いに生きる者となることこそ知恵ある生き方と言えるでしょう。(長田詠喜)

《参照箇所》 箴言8章1節、ヨハネによる福音書1章1節、14節

《教理問答》 ハイデルベルク信仰問答 問86、90

ウェストミンスター小教理問答 問98

1月13日 列王記上3章1～28節

【説教展開例】

ソロモンの知恵

◇..... 単元のねらい◇

一年を始めるにあたって、神の知恵とともにある歩みを覚える。その具体的な情景として、知恵に生きた王であるソロモンの姿を学ぶ。神のことばであるイエス・キリストの姿に倣って神と人に仕える日々を目指す。

「知恵ある人の姿」

・知恵の人ソロモン

先週は、神様を羊飼いと呼ぶダビデ王の賛美の歌を読みました。羊たちは羊飼いに守ってもらうことでどんな時も不安に思うことなく安心できることが歌われていました。ダビデは賛美の人でしたが、ダビデの子どもでダビデの次に王様になったソロモンは知恵の人、とても賢い人でした。今日はそのお話です。

ソロモンは、王様になった時まだ若い王様でした。ダビデ王はとても立派な王様でしたから、周りの人たちも若い王様を心配したかもしれません。けれどもソロモンはとても立派な王様になりました。というのも、神様がいつもソロモンと一緒にいてくださったからです。ソロモンが王様になった時、夢の中に神様が現れ、「なんでも欲しいものがあればあげますよ」とおっしゃいました。ソロモンは長生きすることを願うのでも、お金や敵をやっつけることを願うのでもありませんでした。ソロモンは神様に「みんなの言うことをよく聞いて、何が正しいことかきちんとわかるようにしてください」と答えました。ソロモンは国のみんなをきちんと収める王様になることが自分の仕事であることをよく知ってしまし

たし、そのためには神様側助けてくださることが必要なこともよくわかっておりました。神様はソロモンが他の人のために知恵を求め、神様の知恵によって人々を治めようと願っていることをとても喜びました。そこでソロモンはどんなことでも正しいことと間違ったことがわかるような賢い知恵をいただき、その他にも長生きする命やたくさんのお金や敵をやっつける力までいただいたのでした。

・ソロモンの賢さ

ソロモンの賢さを伝えるお話があります。ある日ソロモンのところに二人の女の人がやってきました。二人は、一人の赤ちゃんを取り合っていて、どちらも自分の赤ちゃんだと言っていました。そこでソロモンは家来に「刀を持ってきて赤ちゃんを半分に分けて二人で仲良く分けなさい」と言いました。ケーキやおまんじゅうじゃないですから、赤ちゃんを半分にするなんてできるはずがありません。片方の女の方は「そんなかわいそうなことを言わないで、ください」と言いました。もう片方の女の方は「もう早く半分にして分けてください」と言いました。そこでソロモンは、最初の

女の人の方が本当のお母さんだとわかりました。本当のお母さんは何よりも赤ちゃんが元気であることを願っていますから、半分に分けてくださいなんて言うはずがないのです。

こんな風にソロモンはとても知恵に溢れていたのです。イスラエルの人たちは皆ソロモン王のことをとても尊敬しました。ソロモンは国を平和に治め、さらにたくさんの知恵をまとめて聖書に残しました。

・私たちの賢さ

でも、ソロモン自身も、それから国の住民も、ソロモンがすごいから尊敬していたのではありませんでした。聖書にはこう書いてあります。「イスラエルの人々は皆、王を恐れ敬うようになった。神の知恵が王のうちにあって、正しい裁きを行うのを見たからである(28節)」。ソロモン王が賢いから素晴らしいのではありません。神様がソロモン王に知恵を与えて、正しい裁きを行ってくださっているのです。ソロモンではなく神様が素晴らしいのです。

ソロモンは神様の知恵に満たされておりましたが、実は私たちもみな、神様の知恵が与えられています。私たちはソロモンのように賢くはないかもしれませんが、けれども、神様がソロモンに神様の知恵を

与えてくださっているのと同じように、神様は私たちに神様の言葉を与えてくださっています。そうです、私たちにはイエス様が与えられているのです。私たちが困った時には、イエス様が私たちと一緒にいてくださいますし、私たちはイエス様から、どんな風にしたらよいか知恵を教えていただけるのです。

聖書を開くとそこにはイエス様の言葉、神様の知恵がたくさん教えられております。ソロモンが教えた言葉もイエス様が教えてくださった色々な教えも、皆私たちに神様の知恵を与えてくださいますし、私たちが聖書の言葉を知る時に、どんな時でも私たちと一緒にいてくださる神さまが私たちを導いてくださるのです。

イエス様は私たちみんなを愛して下さり、ご自分の命を捨てて私たちを救って下さいました。そして、私たちに神様を愛するように、また私たちの周りのすべての人たちを愛するようにと教えて下さいました。ソロモンが困っているお母さんを助けてあげた時、イエス様がたくさんの人たちを救ってあげた時、そして私たちが私たちの周りの人たちを愛する時、私たちはソロモンと同じように知恵を持ち、神様が私たちと一緒にいてくださるのです。

(長田詠喜)

《今週の暗唱聖句》

神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。

(コリントの信徒への手紙一 1章30節)

1月13日 列王記上3章1～28節

【幼稚科】

ソロモンの知恵

〈ねらい〉

神さまは、ソロモンを通して、本当の知恵を求めた人に対する祝福を示されたことを覚える。

〈展開例〉

あなたは、もし神さまから、「何でもわたしにお願いしていいよ。わたしが与えよう」と言われたら、どんなことをお願いしますか？ お人形さんかなあ。ゲームかなあ。それともきょうだいかなあ。

さて、お父さんのダビデさんの代わりに新しく王さまになったソロモンは、同じ質問を神さまからされたとき、何を神さまにお願いしたのでしょうか？ 王さまのところには、たくさんの人たちから色々な悩みや問題、こまりごとがきます。だから、たくさんの人たちのこまりごとにはちゃんとこたえられるように、ソロモンは、「正しいことと悪いことを聞き分ける心」を求めたのでした。そのこたえを聞いた神さまは、どう反応されたのでしょうか？ とても喜ばれたのでした。ソロモンは自分が長生きできますように、とか、お金をたくさんもらえますように、と自分のことをお願いしたのではありませんでした。また自分の敵をやっつけてください、というお願いでもありません。ただ、神さまから与えられた自

分のやるべきことをよりよくできるように「知恵」をください、というのがソロモンの願いだったのでした。

神さまの知恵を第一に求めたソロモンに、神さまはすぐにこたえてくださって、「神さまの知恵に満ちた賢く判断することができる心」を与えてくださったのです。王さまの中で一番有名な王さまになることも約束していただきました。そのとおりになりましたね。たくさんの人たちが、ソロモンを敬うように導いてくださったのです。

もし神さまのルールや教えを守るなら、長生きもさせてあげるよ、とも神さまは言うていただきました。神さまの知恵を求めること、神さまと一緒に歩み、従って行くことは、こんなにも神さまに喜ばれ祝福へと続く道なのですね。

〈祈り〉

神さま、私たちも神さまと一緒に歩いていくことができますように。そして、ソロモンさんのように、神さまからの知恵を求める心をわたしにも与えてください。

〈やってみよう〉

賛美しよう ♪すんばらしき主イエスの愛♪

1月13日 列王記上3章1～28節

【小学科上級・中学科】

ソロモンの知恵

1. 列王記上3：1～15を読みましょう。

- ①ソロモンは神さまに何を願いましたか？

- ②ソロモンは王になった時、何に困りましたか？

- ③神さまはソロモンの願いに何と答えましたか？

- ④あなたなら、神さまに何を求めますか？

2. 列王記上3：16～28を読みましょう。

- ⑤2人の遊女は、なぜ王のもとに来たのですか？

- ⑥それぞれの言い分は何でしたか？ 王は、どのようにして嘘を見分けましたか？

- ⑦イスラエルの民は、この出来事について聞いて、どのように反応しましたか？

- ⑧神さまはなぜ、ソロモンに願った通りのものを与えられたのですか？

- ⑨神さまが私たちに与えてくださる知恵とは、どのようなものですか？

1月20日 箴言1章1～19節

【解説と黙想】

父母の教え

ソロモンの箴言

詩編がダビデにささげられているように、箴言にはダビデの子ソロモンの名が冠せられています（1章1節）。ソロモンはイスラエル史上最も賢い王とされ、「彼の語った格言は三千」（列王記上5章12節）とも言われます。箴言にはソロモンのものではないものも多く収蔵されていますが、その名の下でイスラエルが学んだ知恵がここから伺われます。

箴言は家庭教育から始まります。それがイスラエル共同体の倫理を形づくり、子弟の教養の源となります。そこで『箴言』が主題とするのは生活上の具体的な知恵です。そこには人間存在の根本とそれを取り巻く社会についての省察があります。

親の権威と子の義務

8節で「父の諭し」と「母の教え」が並記されている通り、イスラエルにおいては子どもの教育に責任を負うのは両親です。どちらか片方が教育に携わるのではなく、父母共々にその務めに責任を持ちます。

聖書では、子どもを育てる親の義務に先立って、両親に従う子どもの姿勢の方が強調されます。モーセの十戒には「父と母を敬え」（出エジプト20章12節）とあります。十戒は神とイスラエルとの間で結ばれた契約の言葉ですが、それを教える責任は親にあります。ですから、子どもたちは家庭で

両親に従わなければなりません。十戒の文言に付された「土地に長く生きることができるとは、そこに将来にわたる平和がかかっている、ということです。

この教えが重要なのは、単に家庭の秩序が守られる為である以上に、言葉を介しての教育にはこのような権威付けが必要になるからです。ここにある父母と子との間にある関係は、神と人との関係と比較されます。神は人間に言葉・教えを与えて、人間が御旨に適って正しく生きることができるよう育てます。神と人間とはそのような関係にあり、それは親子の関係にも当てはまります。そこで言葉を語る者・教える者には権威があります。神が権威をもって語るとは、そこに責任があるということです。父母を敬え、そうすれば、土地に長く留まることができる、とは、神が責任をもってそうされる、ということです。親の権威というのもそれと同じで、子どもを従わせなければならず、躰なければなりません。それは、ただ単に親だから、産んでやったのだから偉いというのではなくて、責任があるからです。また、子どもがその言葉に従えば、まともな大人になれるという報いがあるからです。つまり、父の諭し、母の教えが将来の宝となります。だから子どもは聞かなくてはなりませんし、親はそうした知恵をもって語らなくてはなりません。

（牧野信成）

《参照箇所》 出エジプト記20章、申命記21章18～21節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答 問63～66

1月20日 箴言1章1～19節

【説教展開例】

父母の教え

◇..... 単元のねらい◇

教育における権威の回復は昨今の社会事情にあって喫緊の課題です。誤った権威の行使から子どもたちを解放しなければならないにしても、聖書からその正しいあり方を学んでおくことは教会にとって必須です。神と教会との正しい関係を模範にして、親子の関係を改めて問うてみます。

「知恵ある大人になるために」

今日の御言葉はこれです。

わが子よ、父の諭しに聞き従え。母の教えをおろそかにするな。(8節)

「諭し」も「教え」も同じことです。みんなのお父さんとお母さんは、みんなが大人になるのに必要なことを教えてくれます。ときどき、叱られることもあるし、うちの親はうるさくてかなわん、と思うこともあるでしょう。それでも、お父さんやお母さんが教えてくれることは大事に聞きなさい、と神さまがいます。

十戒の中に、今日の御言葉と似ている教えがありますね。「あなたの父と母を敬え」です。聖書は他にも多くのところで両親を大切にすることを教えています。なぜでしょうか。それは、子どもを与えてくださるのは神さまだからです。みんなは自分勝手にお母さんのお腹から生まれてきたのではありませんね。そういう人は一人もいません。では、お父さんのおかげかという、結婚しても子どもが与えられない人もたくさんいます。聖書にはそういうお話がいくつもあります。アブラハムとサラの間には子どもがありませんでした。ヤコブとラケルにも初めは子どもができませんでした。けれども、神さまが祈りを聞かれたとき、

二人には子どもが与えられました。ですから、子どもを与えるのは神さまです。みんなの命は神さまから来ているのです。

だから、両親は子どもを大切に育ててはなりません。神さまに感謝して、みんなを神さまの子どもとして育てるのが親の務めです。みんなのお父さんお母さんは、みんなを生んでくれたから偉いではありません。みんなを大切に育てようとして苦労しているから偉いんです。それが、神さまが命じておられることだからです。たとえ聖書の神さまをまだ知らない親であったとしても、神さまから授かったみんなを育てよう頑張っている親は、神さまの御心に従っています。

そういう親は、みんなが大人になって悪い人間になっても構わない、なんて思わないはずです。神さまを信じる親であれば、神さまに喜んでもらえる子どもになってほしいはずです。そのために毎日お祈りしていると思います。それで、みんなが間違ったことをすれば、叱ることもあります。叱られるのは嫌だけれど、そのおかげで大きな失敗をしないで済むこともあります。

だから、「父の諭しに聞き従え。母の教えをおろそかにするな」「父と母を敬え」

と聖書は命じます。みんなのお父さんとお母さんは神さまの代わりにみんなを育ててくれるからです。

そこでもう一つ大切なことを心に留めておきましょう。それは、みんなのお父さんお母さんにも親がいることです。お祖父さんとお祖母さん、のことではありません。それは、天の父なる神さまです。神さまにとって、みんなの両親は子どもです。神さまは大人である親たちを、御言葉で教え諭してくださいませ。その教えを大切に守ることで、家族を大事に守ってゆくことができます。私たちの毎日にはいろいろな問題が起こります。事故や災害が起こります。家族が病気になったりします。仕事がうまくいかなくなって、生活するのが大変になったりします。そういう時にも神さまは自分の子どもを見放してはおられません。聖書を通して、礼拝を通して、いつも助けを送ってくれます。だから、大人であっても神さまの子どもとして、親である神さまの教えを守ります。みんなの場合は、そういうお父さんお母さんの教えを守ります。そうして、家族みんなで、神さまの言葉に従うことが、神さまが望んでおられることです。「父と母を敬え」とはそういうことです。

皆さんの中には、お父さんやお母さんが神さまを信じていないおうちもあります。それでも、ご両親が一所懸命にみんなを育ててくれるなら、そのご両親を通じて、神さまがみんなを育ててくれるのですから、ご両親の言うことを大事にしたいと思いま

す。ですが、聖書の神さまのことは、信じていないとわかりません。だから、教会にいる私たちがみんなの親代わりです。教会学校の先生をしているみんなも、他の大人も、教会ではみんなの親に代わって、聖書の教えをお話します。それは、みんなが神さまに喜んでもらえる大人になるためです。ここで学んだ聖書の教えが、将来みんなの宝物になるためです。私も教会で育ててもらった子どもでした。教会には本当の両親の他にも、お父さんお母さんがいっぱいいました。そして、みんなに叱られました。思い出してみれば、そうした教会のお父さんお母さんたちの教えは、今は宝物になっています。教会で叱られたことも、悪い思い出ではありません。

神さまを信じて、お父さんお母さんの教えを守って育つ人は、世の中の様々な悪から守られて育ちます。そうして、聖書から学んだ知恵が、みんなの冠となり、首飾りとなって、みんなを神さまの前に賢い人になります。勉強ができて頭がいいというのは少し違います。頭はよくても悪いことばかりをしている大人はたくさんいます。神さまの知恵は、神さまのよい心の表れです。神さまを喜ばせる働きをすすんでできる人が、本当に賢い人です。聖書を学んでいれば、両親の話すことが正しいかどうかもわかるようになります。お父さんお母さんの話に耳を傾けて、さらに上にいる天の神さまの教えに学んで、本当の意味で知恵のある人に育てていただきましょう。

(牧野信成)

《今週の暗唱聖句》

わが子よ、父の諭しに聞き従え。母の教えをおろそかにするな。(箴言1章8節)

1月20日 箴言1章1～19節

【幼稚科】

父母の教え

〈ねらい〉

神さまを畏れることの大切さを覚える。

〈展開例〉

みんなは、お父さんやお母さんから「～しちゃだめだよ」と言われたとき、素直に「わかった」と言っていますか？お父さん、お母さんはみんなを育てる責任があるので、厳しいことも言うかもしれませんね。でももしかしたら、本当は何で怒られているかわからない、と思っている子もいるかもしれませんね。人間のお父さん、お母さんは、神さまとは違って完璧な人ではないけれど、神さまのお心と違うことをしていない限り、お父さんお母さんを敬って言うことを聞きましょう、というのが神さまの教えです。

神さまは、私たち人間に聖書の言葉をくださいました。そして、みんなが神さまのお心にふさわしく正しく生きることができるよう、育ててくれます。すべてのものをおさめておられるこの主なる神さまを畏れる、神さまを神さまとして敬って従うことが、知恵のはじめだと聖書は言います。だから、神さまがくれる知恵や「～しちゃだめだよ。～しなさい」というメッセージを無視することは賢い人のすることではありません。神さまが「～しちゃだめだよ。～しなさい」と言うのは、あなたを愛しているからなのです。神さまは、私たち人間みんなのお父さんお母さんです。

その神さまの愛を具体的に目に見えるように表してくれているのが人間のお父さんやお母さんですね。そのお父さんやお母さんも、天のお父さんお母さんである神さまから教え続けてもらうことが必要ですし、あなたも、神さまのを知る必要があります。神さまがどんなお方かをお父さんとお母さんとお話できるとよいですね。

神さまはあなたのお父さんお母さんのことも愛してくださっているし、あなたのことにも愛してくださっています。そんな人間のお父さんお母さんのことを敬うことが、これからの平和につながるよ、とも神さまは約束してくださっています。それは、保育園・幼稚園や学校の先生、自分より上の人を敬うことにつながって、人と人との関係の基本になります。神さまはすべてをご存知で、あなたを幸せな道に導くために、今日も聖書を通して語ってくださいています。

〈祈り〉

神さま、私たちの為に教え導いてくださってありがとうございます。神さまを神さまとして敬い、その言葉に聞いて従うことができますように。お父さんお母さんの言うことを素直に聞けますように。

〈やってみよう〉

十戒を覚えよう。

賛美しよう ♪けさもわたしの♪

1月20日 箴言1章1～19節

【小学科上級・中学科】

父母の教え

1. 箴言1：1～19を読みましょう。

①箴言は誰が書きましたか？

②箴言は、何について書かれていますか？

③知識（例えば学校の勉強）と、知恵はどこが違いますか？ 知恵はどこから来るものですか？

2. 箴言1：8～19を読みましょう。

④神さまは、誰の教えに従うように言われていますか？

⑤父母の教えに従うとどうなりますか？

⑥悪い人の誘惑に負けるとどうなりますか？

⑦父母に従うように命令されているのは、誰ですか？

1月27日 コヘレトの言葉12章1節

【解説と黙想】

若い日の信仰

「コヘレトの言葉」は「なんという空しさ／なんという空しさ、すべては空しい」（1：2）という言葉で始められています。この「空」というヘブライ語「ヘベル」は水蒸気のことです。実体がない、やがて消え失せてしまう、頼りにならない、結果を生み出さない、などという意味をも持つ言葉です。その「空」という言葉が1節の中に3回も力を込めて記されています。この「空」が全世界と全ての人の人生を覆い尽くしていると言っているのです。

コヘレトは、空しく無意味と思われる人生をどう歩むべきかを模索し、知識や知恵を求め、快楽を追求し、経済的に豊かになることによって「空」に抵抗しようとしてきました。しかしそれらを手にしたものの、死を前にしてそれら全ては何の力にもなり得ないことを思い知らされました。

私たちもコヘレトと同様に、やがて死に直面する時が来ます。今という時はやがて過ぎ去ります。過去をやり直すことは出来ません。私たちは皆そのように年を重ね、最期の時へと向かっているのです。そういう中、この世に生きる人々はそれに抵抗しようと様々な世俗的な試みをしています。コヘレトが試みたように、豊かさや、快楽

や、個人的満足によって取り繕おうとしているのです。私たちもそうした世の中の空気にいつのまにか自然に取り込まれてしまっているのではないのでしょうか。

しかし、コヘレトはこの世界も自分も神様によって目的を持って創られ、そして神様は今も全てを治めておられる、ということに希望を見いだしました。神様は人間をはるかに越えたお方ですから、それで全てを理解したとか虚しさを覚えることが一切なくなったという訳ではありません。しかし自分は全能と愛の神様の御手の中にあることをコヘレトは知ったのです。そこに自分が生きる意味があり、それこそが虚無の中での希望だとコヘレトは言うのです。私たちには神様という希望が与えられているのです。それはキリストにおいて明確に示されています。

私たちに与えられた時間は限られています。神様に希望を託すことを選び取る時を遅らせれば遅らせるほど私たちは頑なになり、この世の試みに取り込まれてしまいます。それは虚しさに虚しさを重ねることです。今、主に立ち帰ることが求められています。 (常石召一)

《参照箇所》 コヘレトの言葉3章11節a

《教理問答》 「子どもと親のカテキズム」問1～3

ウェストミンスター小教理問答 問45～47

1月27日 コヘレトの言葉12章1節

【説教展開例】

若い日の信仰

◇..... 単元のねらい◇

私たちの周りには多くの言葉が満ちています。家庭でも学校でも子供たちは多くの言葉を聞かされています。しかしそれらの多くは、自己中心に生きることを教え、あるいは強くあらねば大変なことになると不安を煽る、そのようなものです。聖書は、神様を中心に生きることを教え、そこにこそある安息を受け取るようにと促しています。この神様の呼びかけに応えられるように。

「造り主を心に留めよ」

皆さんが最もしなければならないことは何でしょうか？ 皆さんは周りの大人の人からどのように言われていますか？「勉強しなさい」、「運動しなさい」、「遊びなさい」、「友達と仲良くしなさい」。そんなことを言われているのではないのでしょうか。なぜ大人の人たちはみんなにそのように言うのでしょうか。

それはみんなに人生を豊かに過ごしてもらいたいと思っているからです。生きて行く力を身に付けてもらいたいと思っているからです。また人生を意味あるものとして考えて欲しいと思っているからです。

「夢を持ちなさい。夢に向かって努力しなさい」、皆さんはまたこういうことも言われているのではないのでしょうか。皆さんはどのような夢を持っているのでしょうか？ お金持ちになるということでしょうか。自分が死んだ後も残るような大きな仕事を成し遂げることでしょうか。人から「すごいね」と言われる人になることでしょうか。安定した生活を送ることでしょうか。

ところで、聖書には「コヘレトの言葉」という書物があります。これを書いた人は、

いつも空しい思いにとらわれていました。むなしいというのは、「これって意味ないな。無駄なことだな」ということです。それでこの人は一生懸命に勉強をしました。世界の全てを知ることが出来れば人生の意味もわかるのではないかと思ったのです。そうしてこの人は確かに沢山の事を知ることが出来るようになったし、誰よりも深く世界を知ることが出来るようになりました。しかしそれで心がすっきりすることはありませんでした。知れば知るほど世界には解決できない問題、深刻な問題があるということが分かったのです。

それでこの人は、だったら楽しいことをしよう、面白おかしく生きようと思いました。お酒を飲んでみました。またお金を稼いで大きな家も作ってみました。多くの奴隷も持つことが出来るようになりました。しかしそれでも心は晴れませんでした。

次にこの人は、思いっきり悪いことをしてみようと思いました。人が困るようなことをしたら心が晴れるのかと思ったのです。しかし余計に空しく思うようになったのです。

どうせ人間は最後は死んでしまう、死んでしまったらこの世で何をしたって意味が無い、と思ったのです。その一瞬は楽しくても、いつ無くなるかも知れないと思って安心することが出来なかったのです。

皆さんはまだ若いですから、死ぬなどということについてはまだまだ先のことだと思ってしまうかもしれませんね。また目の前にある楽しいことに目が奪われて、死んだ後のことなんて考えても意味がないと思ってしまうかも知れません。大人でも、そんなことは考えないようにしてごまかしながら生きている人も実は多いように思います。そういう意味で、コヘレトの言葉を書いた人は実に鋭いと思います。本当のことをいつも見続けたのです。

確かに私たちはいつか死にます。そして神様は私たちが生きていた時に何をしていたのかにに応じてお裁きになるのです。神様のために何をして来たのか、結局自分中心にしか生きてこなかったのではないか、そのことが神様から問われるのです。

では神様は私たちがどのように歩むことを望んでおられるのでしょうか？ それはずっと神様を心に留めて生きることです。

神様のために、神様にお任せして生きることです。神様は私たちがむなしい生活をしていないことを望んでおられます。私たちが無駄な歩みをしないようにと望んでおられます。

ある人は言います。「教会に行くのは死ぬ直前でいいや。神様はそんな人間も必ず受け入れてくれるんだから。それまでは好きなように生きたいんだ」。確かに神様はそのような人が最後にイエス様を信じる時、受け入れて下さいます。しかし神様にお任せして生きない人生は、本当のことを見失っているのです。確かな土台を見失っている人生です。神様はそのような人生はとても危ないと思っておられます。出来るだけ早く神様の元へと帰って来て欲しいと思っておられるのです。

イエス様は私たちが死んでも生きるために来てくださいました。私たちが人生において何にも良いことをすることが出来なくても、ただイエス様を信じさえすれば百点満点と言ってくれるために来てくださいました。神様の求めに応じて、確かに神様に支えられる人生を歩んで行きましょう。

(常石召一)

《今週の暗唱聖句》

青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。苦しみの日々が来ないうちに。「年を重ねることに喜びはない」と言う年齢にならないうちに。(コヘレトの言葉 1 2章 1節)

1月27日 コヘレトの言葉12章1節

【幼稚科】

若い日の信仰

〈ねらい〉

神さまは、年を取る前に、一人ひとりを造られた創造主と出会うことを願っていることを覚える。

〈展開例〉

みんなは、今この世界のすべてをつくられた創造主である神さまがいることを信じていますか？ 最近教会に来てお話を聞くようになったばかりというお友だちもいるでしょうし、ずっと前から聖書のお話を聞いているお友だちもいるでしょう。まだみんなは小さい子どもです。でもこれからどんどん大きくなって、大人になればなるほど、人間のたくさん嫌なところを見ることになるでしょう。そのとき、ぼくたちわたしたちをつくられて、また他の人たちも全部つくられておさめておられるこの偉大な神さまのことを忘れ、自分の力だけで生きているかのように毎日を過ごしていたとしたら、生きる希望を見失ってしまうかもしれません。

コヘレトさんという人は、生きることはむなしいなあと思っていました。ですから、知識や知恵を求めて一生懸命勉強したり、お金をたくさんもらえるように努力したり、この世の楽しいことを求めたりして、その「むなしいなあ。空っぽだなあ」という思いを感じないようにしていました。実際にお金も知識もたくさんもらえました

が、死ぬ前になって、そういったもの全ては、何の力にもならないんだと知らされたのでした。そこでコヘレトさんが神さまに導かれてお話ししたのが「あなたの若い日にあなたの創造主を覚えよ」という言葉です。実際に教会に来ていない大人たちは、本当の希望を見つけられず、本当の喜びを知らない人たちがたくさんいるのです。「もっと早く教会に来て、神さまのお話を聞いて、イエスさまと早く出会えていたら良かったのに……」と残念に思っている人たちによく出会います。みんなよりもっと大人になってイエスさまを信じた人たちです。ですから、今小さいうちから聖書のお話、神さまやイエスさまのことを聞くことができているあなたたちは、本当に素晴らしい神さまの恵みをいただいているのです。あなたは、あなたを造られた神さまの力によって生かされ、また愛されているのです。

〈祈り〉

神さま、感謝します。教会学校で神さまのお話を聞けることに感謝します。自分の力ではなく、イエスさまの力を信じて生きることができるよう、わたしたちを導いてください。

〈やってみよう〉

賛美しよう ♪主われを愛す♪

1月27日 コヘレトの言葉12章1節

【小学科上級・中学科】

若い日の信仰

1. コヘレトの言葉12：1, 2を読みましょう。

①「太陽が闇に変わる」とは、人生の中で何が起こったときだと思いますか。

2. コヘレトの言葉12：3～7を読みましょう。

②「その日」に起こったことを表現してみましょう。

③「神に帰る」とはどのような意味でしょうか。

3. コヘレトの言葉12：8～14を読みましょう。

④「空しい」という意味は何でしょうか。別の言葉で表現すると？

⑤「賢者」とは誰ですか。また、「ただひとりの牧者」とは誰のことでしょうか。

⑥コヘレトは「すべては空しい」と言っていますが、「神を畏れ、その戒めを守る」ことが、その空しさを解消することになりますか。

⑦この箇所全体をもう一度読み、信仰者の目にこの世はどう映るか考えてみましょう。

2月3日 ルカによる福音書11章1～13節

【解説と黙想】

祈りに応える父

福音書の舞台である2000年前のイスラエル社会では、神に祈ることが当たり前となっていた。イエスさまの弟子たちも周囲の人々の祈る姿に倣いつつ小さい頃から祈ったであろう。その弟子たちが、ヨハネの弟子たちに触発され、イエスさまに祈りについて教えを乞う。イエスさまはまず「主の祈り」を示された。当時の宗教指導者は弟子に祈祷文を示していたという。ただ主の祈りは当時の祈祷とは一線を画していた。何の修飾句もつかない「父よ」との呼びかけは、幼子が全幅の信頼をもって父を呼ぶアラム語「アッパ」を背景とする。家族と同様の親密さをもって神に祈るよう促している（紙面が限られるため主の祈りについては「教理問答」も参照を）。

続けてイエスさまは、父なる神への祈りは確かに聞かれることを示し祈りを励まされる。まず旅行中の友人を夜に迎え入れたが出すものを持ち合わせなかった人のたとえ話が語られる。彼は近所の友人宅を真夜中に訪ね、パンを求める。一家そろって眠りに入っていた友人は一度断るが、しつような頼みの前に遂には応じるであろう。夜眠るべき時間には対応を渋る人間すら応じてくれるのなら、常に目覚めておられる父なる神が切なる願いに応えないはずはな

い。

次にストレートな勧めが続く。9節「わたしは言うておく」は原語「アーメン」であり、言うことが確かであることを示す。9節は「しなさい。そうすれば～」という定式で畳みかけ、10節では「誰でも」そうになると断言する。神に祈り求めても何の応答も得られずむなしく終わることはないことを示す。人が祈り願ったそのままに父なる神が応えられるとは限らないが、全く聞き流して無反応ということはない。

11節、12節で魚を求める子に蛇を、卵を欲しがる子にさそりを与える父はいないとの実例に触れつつ、13節で、人間は悪い者でも自分の子には良い物を与えるなら、まして天の父なる神は求める者に良い物を与えるに違いない、と話が進むのが自然に思われる（並行箇所のマタイ7:11はそうなっている）。ただルカでは「求める者に聖霊を与えてくださる」と記される。神は天の父として、私たちが神の子となり切に祈り依り頼むものとなることを願われる。そこで、人を神の子とし、神の御心にかなうように祈り願うよう導いていく聖霊を、よいものとして人に与えることが適当と判断し、祈る私たちに聖霊をお与えくださるのである。（吉田 崇）

-
- 《参照箇所》 ルカによる福音書5章33節
マタイによる福音書6章9～15節、7章7～11節
《教理問答》 「子どもと親のカテキズム」問36～38、84～97
ハイデルベルク信仰問答 問116～129

2月3日 ルカによる福音書11章1～13節

【説教展開例】

祈りに応える父

◇..... 単元のねらい◇

神さまに祈っても応答がないのではないかと、思うと祈る気力がくじかれる。神様は私たちの天の父となって愛をもって臨んでくださること、だからこそ祈ったその通りに応答するとは限らず、さらによいもの、そして聖霊を与えることによって祈りに応えてくださることを伝え、祈り続ける生活へと導く。

「父なる神様は祈りに応える」

皆さんは神様にお祈りをしていますか。お祈りについてどんなことを思ったり考へたりしていますか。「お祈りしても神様は本当に聞いてくれているのかな？ 応えてくれるのかな？」と疑問を持つ子もいるかもしれません。

イエスさまの弟子たちは、家族みんなが神様を信じるところで育ってきました。小さい時から、周りの人たちが祈るのをまねして祈りを捧げてきました。でも大きくなるにつれて、本当にこんな祈りでいいのかな、という思いが出てきました。特に洗礼者ヨハネやその弟子たちの祈る姿を見聞きすると、「これはすごいなあ」と感心させられました。ヨハネやその弟子たちは、時々断食をしながら祈りました。またしっかりと整った言葉で祈っていました。

ある弟子は、「イエス様に一から祈りを教えてもらおう」と思い立ち、イエスさまに「私たちにもということでは祈りを教えてください」とお願いしました。イエスさまはその願いに応え祈りについて語り始められました。そこで最初に、イエスさまは主の祈りを教えてくださいました。いつもみんなでお祈っている主の祈りです。主の祈り

りについては前にもお話したことがあるので、改めて一から十までお話はしません。一つだけお話します。イエスさまは、天の神様を「父よ、お父さん」と呼びかけて祈るようおっしゃいました。神様を、天から世界を見下ろす恐れ多い方というよりは、家族のお父さんのように、近くで親しく寄り添ってくださるお方として、愛と信頼を込めて祈るように願われたのです。

続いてイエスさまは、神様が確かに私たちの祈り願いに応えてくださることを伝えようとこんなたとえ話をなさいました。ある人の家に夜遅く、旅人がやってきました。友達の家泊めてもらおうとやってきたのです。しかし迎え入れはしたものの何も出すものがありません。そこで近所の友人に助けを求めました。でも訪ねたのは真夜中、友人からは「もう戸は占めたし、子どもたちが私のそばで寝ています。起きて何かをあげるわけにいきません」と一旦は断られました。そこでイエスさまがおっしゃいます。「その人は、友達だから起きて何か与えることはなくても、しつように頼めば、起きて与えてくれるでしょう。人間同士でも頼みに応えてもらえるなら、天の父なる

神様は間違いなく私たちの切なる願いに
応えてくださるはずです。だから、天の父に
求めなさい。そうすれば与えられます。探
しなさい。そうすれば見つかります。門を
たたきなさい。そうすれば開かれます。」
このお話によってイエスさまは、神様に祈
り求めても何の応答もないまま終わること
はないことを示しています。人が祈り願っ
たそのままに父なる神様が応えてくださる
とは限りませんが、全て聞き流して無反応
ということはないのです。

イエスさまはもう一つお話をなさいまし
た。「魚を欲しがる子どもに、蛇をあげる
父親がいるでしょうか。卵を欲しがるのに、
さそりを与える父親がいるでしょうか。人
は悪い者ですが、自分の子どもには良い物
を与えるものです。まして天の父は求める
者に聖霊を与えてくださいます。」

イエス様の言葉の最後、聞いていてお
やっと思いませんでしたか。「人間の父親
でも自分の子どもには良い物を与えるの
だから、天の父なる神様は求める者によい
ものを与えてくださるに違いない」という
なら話の通りがいいと思うのに、なんで「
聖霊を与える」とおっしゃるのだろう。そ
れは、父なる神様への祈りの生活を続けよ
うとする弟子たちに、聖霊なる神様の助け
導きが欠かせないと判断なさるからです。
神様は天の父として、私たちが神の子とな
り切に祈ってより頼むものとなることを願わ

れています。そこで、人を神の子とし、神
の御心にかなう祈りができるよう導いてく
ださる聖霊を、よいものとして人に与える
ことが適当と判断なさるのです。

聖霊をいただくと、私たちの心の内に天
の神様を天のお父様と認め信頼する思いが
作り出されます。また何かを祈り願う時
にも、自分勝手な注文でなく、神様にも周
りの人たちにも喜んでもらえるような本
当によいものを祈り願うように整えてく
ださるのです。これは別の言い方をすると、
聖霊なる神様が私たち一人ひとりの祈り
を「主の祈り」に近づけてくださる、と
言うこともできます。

ただ聖霊なる神様を祈り求めて与えて
いただいた瞬間に、人が完全に神様に喜
ばれる祈りができるようになるということ
ではありません。聖霊なる神様をいただ
いてから、神様に祈る、それを「主の祈
り」というお手本と照らし合わせてみる、
ということを繰り返す中で少しずつ整え
られていくのです。でも本当は不完全な
祈りであったとしても、神様は天のお父
様として祈りに必ず応えてくださいます。
祈りを無視なすることは決してありませ
ん。祈り求めたそのとおりに応えてく
ださるとは限りません。でも私たちが祈
り求めた以上のよいものによって私
たちに与えてくださいます。

(吉田 崇)

《今週の暗唱聖句》

そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。

(ルカによる福音書 11章9節)

2月3日 ルカによる福音書11章1～13節

【幼稚科】

祈りに応える父

〈ねらい〉

イエスさまは、神さまに遠慮なく祈ってよいことを私たちに教えられたことを覚える。

〈展開例〉

みんなはお父さんのことを、なんて呼んでいますか？「パパ」、「とーちゃん」、それとも「お父さん」でしょうか。お父さんや家族には、「これほしい。買ってー」とか「これつくってー」などと甘える人が多いでしょう。

それでは、神さまにはどういうふうにお話すればよいのでしょうか。神さまにも、家族に対するのと同じように、「神さま、ぼく（わたし）これほしいの。ください。」とか「神さま、悪いことしてごめんなさい。ゆるしてください」ってお願いしていいんだよ、とイエスさまは教えてくれました。家族だったら、かわいい自分の子どもがあやまれば、「しょうがないなあ」と言いながらもゆるしてくれるでしょう。また、自分の子どもが食べ物をほしいと言っているのに、毒をもつ蛇を与えるようなことはないでしょう。ましてや、神さまはみんなを造られ、すべてを知っておられる方。そして、24時間365日いつも目覚めて、あなたの祈りを聞いてくださる方。その天の父なる神さまが、あなたに必要な最もよいものをくれないはずがないですね。「求めなさい。

い。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる」とイエスさまはおっしゃいました。でも、すぐに私たちの願いにこたえてくださらないときもあるでしょう。また、私たちの願いが、神さまのお心にかなわない場合、願ったとおりものをくださらないときもあるでしょう。でもあなたが願った以上のこと、神さまがあなたに一番必要だと思うことを神さまがしてくださいます。何よりも、イエスさまを信じるなら、神さまは私たちに「聖霊」を送ってくださるので、それまでよりもっと神さまと親しく交わり、神さまのこともわかるようにしてくださいます。そして生き方が変わっていくのです。

〈祈り〉

天のお父さん、いつもぼくたちわたしたちに必要なものをくださって、守ってくださいありがとうございます。神さまともっといっぱいお話して、神さまのことがよくわかるようにしてください。アーメン。

〈やってみよう〉

- ・聖句を覚えよう「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」
- ・賛美しよう ♪かみさまは♪

2月3日 ルカによる福音書11章1～13節

【小学科上級・中学科】

祈りに応える父

1. ルカ11：1～4を読みましょう。

①弟子はイエスさまに何を願いましたか？ それはなぜですか？

②イエスさまはどうお答えになりましたか？

③私たちの日頃の祈りと比べて、共通点や違いはありますか？

2. ルカ11：5～8を読みましょう。

④イエスさまは、このたとえ話で私たちの祈りについて、何を教えられましたか？

3. ルカ11：5～13を読みましょう。

⑤祈りについての、三つの教えは何ですか？そうすれば、どうなるのですか？

⑥父親は子どもに、何を与えるのですか？

⑦天の父が与えてくださるものは何ですか？

2月10日 ルカによる福音書12章13～21節

【解説と黙想】

愚かな金持ち

12:15の「貪欲」は「惜しむ心」のこと(二コリ9:5)。イエスに遺産の分配について願ったときに、「それはわたしのものだ」という心があることをイエスは見抜き、これを戒めるためにこの例えを話された。「用心しなさい」は口語訳では「よくよく警戒しなさい」。

12:17以下は「どうしよう。わたしの作物をしまっておく場所がない……どうしよう。わたしの倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこにわたしの穀物や財産をみなしまい、こうわたしの心に言ってやるのだ」と「わたしの」が繰り返されている。この金持ちの畑を豊作にされたのはどなたか。畑の作物を「わたしのもの」と思うこの感覚は何か。

神は「土地から取れる収穫量の十分の一は、穀物であれ、果実であれ、主のものである」と言われた(レビ27:30)。家畜もしかり。しかし「この十分の一の家畜を見て、その良し悪しを判断したり、それを他のものと取り替えたりしてはならない」とも言われている。神は私たち人間の惜しむ心をお見通しだ。十分の一を取り分ける理由は、どこの地に住むことになっても「常にあなたの神、主を畏れることを学」ぶため、「あなたの神、主の御前で家族と共に食べ、喜び祝」うため、「嗣業の割り当てのないレビ人や、町の中にいる寄留者、孤児、寡婦がそれを食べて満ち足りることが

できるように」するため(申14:22～29)。収穫物のすべてを自分のものとすることは、この戒めとそこに込められた神の愛の配慮を全く無視していること。

12:19は、「休め(安心しろ)、食べよ、飲め、楽しめ」という4つの命令形の並列。愚かな金持ちは自分で自分の心にそう命じている。しかしこう命じることができ、これらを与えられるのは、本来神だけではないか? 「わたしのもとに来なさい、休ませてあげよう」「取って食べよ」「この杯から飲みなさい」「いなくなっていたのに見つかった。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前」と言われたのはどなただったか。

12:21は、原文では「神の中で富まない者は……」。神の中で休み、神の中で食べ、神の中で飲み、神の中で喜ぶ。

次の段落で「あなたがたの富のあるところに、あなたがたの心もあるのだ」(12:34)と締めくくられている。与えられたものを家族や隣人とどう分け合って生きていくのか、そこにその人の生き方・命の在り方が表れる。子どもであればあるほど、「これはじぶんのもの」と思う気持ちは強い。だから、与えられたものの一部は神にお返しし、それを持たない者と分かち合っていくように、心の傾きを整えていくことは、小さいうちから必要なことだろうと思う。

(赤石めぐみ)

《参照箇所》 本文参照。ヤコブの手紙4章13～16節

《教理問答》 「子どもと親のカテキズム」問56、81

2月10日 ルカによる福音書12章13～21節

【説教展開例】

愚かな金持ち

◇..... 単元のねらい◇

人の命はお金によって保証されない。神の前に豊かな生き方を考えよう。

「神の前に豊かに」

もし、一人で食べきれないくらいたくさんのお菓子を一度にもらったら、みんなはどうしますか？ たとえば、段ボール箱にいっぱい詰まったお菓子を何箱ももらったら、どうする？ しまう場所にも困るよね？「これはぼくにもらったものだから、全部とっておいて、毎日少しずつ、ぼく一人で食べちゃおう」って思う？「一人でこんなに全部食べられないから、だれかにわけてあげようかな」って思う？

イエスさまが今日教えてくださったお話に出てくるお金持ちの人は、こういうとき、どうしたかな？

16節を見てください（16節にはこう書いてあります、聞いてください）。

「ある金持ちの畑が豊作だった。」

お金持ちの人はもうすでに十分にたくわえを持っていましたが、畑が豊作で、またまた食べきれないくらいの収穫がありました。それでこのお金持ちの人は、困ってしまいました。「しまっておく場所がもうないなあ。」それでいろいろと考えて、いいことを思いつきました。「そうだ、今あるわたしの倉を壊して、もっと大きいのを建てよう。そして、今までとってあった食べ物も、今度とれた食べ物も、全部自分のためにしまっておけるぞ。これだけたくさん

あったら、一生働かずに食べて暮らしているな。全部、自分のものだ。一生、食べ物心配をしなくていいなら楽だなあ。これなら安心だ。わたしは勝ち組さ！ さあ食べて飲んで、楽しく暮らそう！」

そう言っているお金持ちの人の心をご覧になって、神さまはとても悲しまれました。20節。「愚かな者よ。今夜、お前の命は取り上げられる。お前は今夜死ぬのだ。死んでしまったら、お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか。」

神さまは、与えられたものを全部自分のためのものにしてしまうことを喜ばれません。出エジプトの頃、律法をくださったときに、神さまは、「あなたは、毎年、畑に種を蒔いて得る収穫物の中から、必ず十分の一を取り分けねばならない」（申命記14：22）と命じられました。それは、いつもそれを取り分けるときに、神さまを思い起こすためでした。そしてその収穫物を家族と一緒に食べ、食事の度ごとに神さまを思い起こすためでした。みんなも食事の前にお祈りをするでしょう？ 食事の度に神さまを思い起こしますね？ そうしてその食事を感じていただくことができます。また取り分けた十分の一を、困っている人たちのために使うこともありました。十分

の一を取り分けることは、イエスさまがいちばん大切な掟だと教えてくださった「神さまと隣人を愛すること」に直接つながっていました。

イエスさまのお話の中のお金持ちの人は十分の一のことはすっかり忘れていました。それはつまり、すべてのものを与えてくださった神さまへの感謝、神さまと隣人を愛することを忘れてしまった、ということです。イエスさまは、このお金持ちの話をしてくださったとき、「どんな貪欲にも注意を払い、用心なさい」（15節）とおっしゃいました。「貪欲」というのは、欲ばりな気持ちのことです。今持っているものは全部自分のものだと思って、だれにもわけてあげたくないと思う気持ちのことです。そういう心では、せつかく命があっても、生きている意味がなくなってしまうよ、とイエスさまは教えてくださったのです。

21節「自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」

独り占めしているよりも、みんなと分け合って食べたほうが、みんなも喜ぶし、楽しいと思います。そういうふうに仲良く食事をして、楽しく暮らしてほしいな、とだれよりも願っているのは、私たち自身ではなく、神さまなのです。15節「有り余るほどの物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」たくさん貯金を持っていることに人生の意味があるわけではありません。たくさん神さまから与えられているものを使って、家族や周りの人たちと、あなたがどういふふうに楽しく仲良く暮らしていけるか、そこに生きていることの楽しみがあります。

みんなの心の中の欲ばりな気持ちが小さくなるといいな、とイエスさまは思っています。欲ばりにならないように、よくよく気をつけなさい、とおっしゃっています。みんなはできるかな？ 神さまに助けを求めてお祈りしましょう。

(赤石めぐみ)

《今週の暗唱聖句》

どうか、主があなたがたを、お互いの愛とすべての人への愛とで、豊かに満ちあふれさせてくださいますように。(テサロニケの信徒への手紙一 3章 12節)

2月10日 ルカによる福音書12章13～21節

【幼稚科】

愚かな金持ち

〈ねらい〉

神さまは、神さまのためにお金を得て用い、感謝して生きることを望まれていることを覚える。

〈展開例〉

みんなの今ほしいものはなんですか？
かわいいお洋服かな。ポケモンかな。どこかの野球やサッカーのチームにはまっけて、グッズがほしい子もいるかもしれません。今はお父さんやお母さんが働いたお金で買ってもらっているけれど、みんなが大人になったら、どんなものにお金を使いたいでしょうか。車かな？ やっぱりお洋服かな？

神さまは、「おろかな金持ちのたとえ」で、自分の手に入ったお金や、畑で採れた食べ物などをしまっておく場所がなくなるほど、沢山の財産やお金をもった人のたとえ話をされました。畑で沢山とれた食べ物は、自然の条件をととのえてくださった神さまのおかげでできたのではないのでしょうか。でもそのおろかなお金持ちは、すべてが「わたしの力で手に入った」「わたしのもの」として、「食べて飲んで楽しめ」、と自分に言い聞かせて、その沢山の財産、お金を使おうとしたのでした。

これに対して、神さまはどう反応したのでしょうか。「今夜、お前の命はとりあげられる」！ つまり、「いつあなたの命をとる

かを決めるのは神であるこのわたしだ」と言ったのです。神さまのことを思わず、「もっとたくさん持ちたい」と自分のために働いて自分のためにお金を使う。いつも自分を一番にして人生を過ごす生き方には、ほんとうの命がなくなってしまう。そのことも神さまは教えてくださっているのではないのでしょうか。

私たちに与えられた命、家族、住むところ、食べ物、洋服など、すべてのことは神さまからいただいたものです。それを私たちが心から感謝できるようになることを、神さまは望んでいます。神さまが生きて働いてくださっているからこそ、私たちの今があります。だから、献金もしぶしぶではなく、喜んでささげることができます。お金も神さまから頂いたものです。

神さまの恵みに目をとめながら感謝して歩むとき、そこに神さまの祝福があり、神さまの前に豊かになれることをあなたもきつと発見するでしょう。

〈祈り〉

神さま、ぼくたち、私たちの命をありがとうございます。すべては神さまからもらっていることを忘れずに、神さまと一緒に感謝して歩いていけますように。

〈やってみよう〉

賛美しよう ♪ハレルハレルハレルヤ♪

2月10日 ルカによる福音書12章13～21節

【小学科上級・中学科】

愚かな金持ち

1. ルカ3：12：13～21を読みましょう。

- ①「群衆の一人」は、イエスさまに何をしてほしかったのですか？

- ②イエスさまは、どのように答えましたか？それはなぜですか？

- ③「金持ち」は、何に心を奪われていましたか？

- ④私たちの命を支配されているのは、誰ですか？

- ⑤私たちは、神さまにいただいたものをどのように用いたら良いと思いますか？

- ⑥「神の前に豊かになる」とは、どういうことですか？

2月17日 ルカによる福音書12章22～34節

【解説と黙想】

天に宝を積み

この聖書の箇所は、生活必需品の確保のために、あくせく「思い悩む」のを戒め、「神の国」を求めると論じている。

22, 23節：「食べ物」「衣服」は、私達人間にとって、生きるため最低限必要だが、そのことよりも大切なことを教えておられる。

24節：「烏」は、モーセの律法によると不浄の生き物であり（レビ11：15）、商品価値も、人間への貢献も無いものを象徴している。そのような、取るに足らない物をも、神様は養っておられる、というのである。

25節：「わずか」は、肘から小指の先までで、およそ30センチの長さ。

26節：人間は、「思い悩み」によって、寿命を延ばすことは出来ない。それなのに、なぜ、他の事まで思い悩むのか、と論ざれている。

27節：「紡ぐ」とは、労働を指す。自分の着物を、自分の手で織って作るという、過酷で厳しい労働。野の花は一切そのような労働をしない。にもかかわらず、神様は、ソロモンの栄華以上に飾っておられる、と論ざれている。

28節：今日は咲いていて、明日には燃やされる運命にある、はかない草でさえも、神様は素晴らしく装っておられる。「まして私達には「なおさら」なのである。衣

食住よりも大切なことがある、ということが教えられている。

29節：「考えてはならない」は「求めてはならない」という意味。また、「思い悩む」とは、「多くの部分に思いが割れる」「心が散り散りに乱れる」と言う意味。衣食住への関心と、思い煩いにより、心が乱れることを避けるように警告しておられる。

30節：神様は、衣食住が私達に必要なことを、ご存知である。しかし、衣食住の思い煩いは、私達を、神様から引き離し、御心を行うことから遠ざける。

31節：ただ、「神の国を求めなさい」と言われている。「神の国」とは、神様によって定められている場所。全てのものに命と愛を注いでおられる、神様の御支配を、私達の心の中に頂くことが大切なのである。そして、神様の価値観で心を治めて頂くことが肝心なのである。神様が、私達の天の父ならば、私達に良いものを与えて下さるに違いない。

32節：それどころか、神様は、喜んで、「神の国」自体をくださるのだ。

33節：自分の富を「売り」「施し与え」「天に財布を作る」。それこそ富を天に積み、神様の前に豊かになる方法である。

34節：神様に心向け、神の国を待ち望み、イエス様に従おう。（袴田清子）

【参照箇所】 マタイによる福音書6章25～34節、ルカによる福音書18章18～30節
【教理問答】 「子どもと親のカテキズム」問81、93

2月17日 ルカによる福音書12章22～34節

【説教展開例】

天に宝を積み

◇..... 単元のねらい◇

神は人の衣食住を顧みて下さる。神の支配を求め、生きる者こそ富める人であることを知り、神様に喜ばれる生き方を選ぶ。

「思い悩むな」

イエスさまは、弟子たちに「命のことで何を食べようか、体のことで何を着ようか」と思い悩むな。」と言われました。食べ物や着る物、住む場所などは、人間にとって生きて行く上で、最低限必要な物です。しかし、その最低限の必要についても、「思い悩むな」と教えておられるのです。

私たち人間は、神さまのかたちに似せて注意深く造られました。神さまが私たちに与えて下さった「命」と「体」は、素晴らしいものです。そして、私たちの素晴しさは、何を食べようか、何を着ようか、少しも変わらず、動かされることもありません。皆さんは、一人一人、とても素晴らしい神さまのかたちなのです。

イエスさまは、鳥のことを考えるように言われました。鳥は、昔は汚れた鳥、つまらない価値の無い物とみなされていました。それで、市場で売られることもなく、全くお金になりませんでした。鳥は人間のように、自分の食べる物のために、あくせく働くこともしません。鳥は種も蒔かず、刈入れもせず、納屋も倉も持ちません。しかし、神さまは鳥を、養っておられます。私たちは、鳥と比較すると、どれほど勤勉に働き、また、神さまからどれほど大切に思われていることでしょうか。独り子イエス

さまを与えるほどに愛してくださっているのです。

私たちが「思い悩んだ」からと言って、寿命を30センチほども延ばすことはできません。それに対して、天の神さまは、全てのものに命を与えられています。イエスさまは、「こんなごく小さなことさえできないのに、なぜ、他のことまで思い悩むのか」と諭されています。

今度は野原の花を引き合いにだして、「どのように育つかを考えてみなさい」と言われます。野原の花は、人が意図的に植えたのではなく、ひとりで咲いた花ですね。お金を出して買う人もなく、大切だと言う人もいない、ありきたりの花です。花が咲いたときに、摘んで、見ごろが終わって、ゴミとして炉で焼いてしまっても、誰からも文句は言われない花です。野原の花は「働きもせず、紡ぎ」もしないのに、本当に綺麗です。神さまは、野の花にも、ソロモン王様の栄華にまさる豪華な装いを与えておられるのです。ましてや、私たちには「なおさらのことである」と教えておられます。イエスさまは、もっと神さまのみ心を知りなさい、もっと神さまに信頼しなさい、と私たちの信仰を励ましておられるのです。神さまは命の主です。神さまは世界のあら

ゆる生き物に命を与え、養っておられるお方です。神さまは、鳥や野の花を見て、神さま御自身の、愛と力を思い見なさいと論じて下さっているのです。

実際には、昔の人は自分達の着る物を、糸から紡ぎ、織って、着る物を作らなくてはなりません。着る物一つ、大変な労働を通して手にしました。食べ物も、畑を耕して、種をまき、水や肥料を施して、手入れをして、何カ月も待つてから、収穫するという大変な労働をしなくてはなりません。

しかし、神さまは、その現実の中に居る私たちに対して、「神のみ心を求めなさい」「神さまに信頼しなさい」と導いておられます。何を食べようか、何を飲もうかといったことは、神さまを信じていない人たちが求めているものだ。神さまは私たちに、食べ物や飲み物、着る物や住む場所が必要なのを、知っておられる。だから、私たちは神さまの支配を求めて生きるようにしなさい、と論じておられるのです。この箇所と同じ内容を扱ったマタイによる福音書で、「何よりも、神の国とその義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」と記されています。

つまり、私たちの心の中心に何があるか、そのことが一番重要なのです。私たちの心の中心が物であれば、心は物のことで一杯になってしまいます。そうではなく、イエ

スさまは、「神の国」、つまり「神さまのご支配と神さまのみ心」を第一に求めるようにしなさい、と教えておられるのです。

イエスさまは、「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。」とも言っておられます。「神の国をくださる」とは、どういうことでしょうか。それは、神様がご支配なさる大いなる、永遠の神の国、天国を与えてくださるということです。なんと驚くべき恵みでしょうか。イエスさまを信じる人にとっては、この地上の命よりも、天国での歩みの方がずっと長くなります。それは、イエスさまと永遠と一緒に住む場所なのでから。

だから、イエスさまはこのように言われます。「自分の持ち物を売り払って施しなさい。擦り切れることのない財布を作り、尽きることのない富を天に積みなさい。」天国に富みを積むとは、イエスさまの喜ばれることをして、イエスさまにご褒美を頂くということです。一杯ご褒美を頂きたいですね。

どのように宝を積むのでしょうか。それは、神さまを第一に求め、いつも心の中心に神さまを置き、神さまの喜ばれることを願い、神さまの正しさと、神さまの愛と憐れみがあふれるように祈り、願い、行うことです。イエスさまの言われることに従って、天国でご褒美を頂きましょう。

(袴田清子)

《今週の暗唱聖句》

何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。(マタイによる福音書6章33節)

2月17日 ルカによる福音書12章22～34

【幼稚科】

天に宝を積み

〈展開例〉

今日の聖書のお話では、私たちが何をたいせつにしていったらいいか、ということが教えられていました。

鳥と花が出てきましたね。空の鳥は自分で仕事をしなくても、神さまが食べ物を与えて下さいます。野に咲く花は自分で仕事をしなくても、とてもきれいです。

私たちは鳥や花よりも、もっとだいに愛されています。思い悩むことはありません。

それでは、私たちは何をたいせつにすればよいでしょう。それは、「神さまに守られて、したがっていくこと」と「神さまが喜ばれることを行えるように、ねがうこと」です。

〈工作〉

「お弁当カップで作る、空の鳥と野の花」

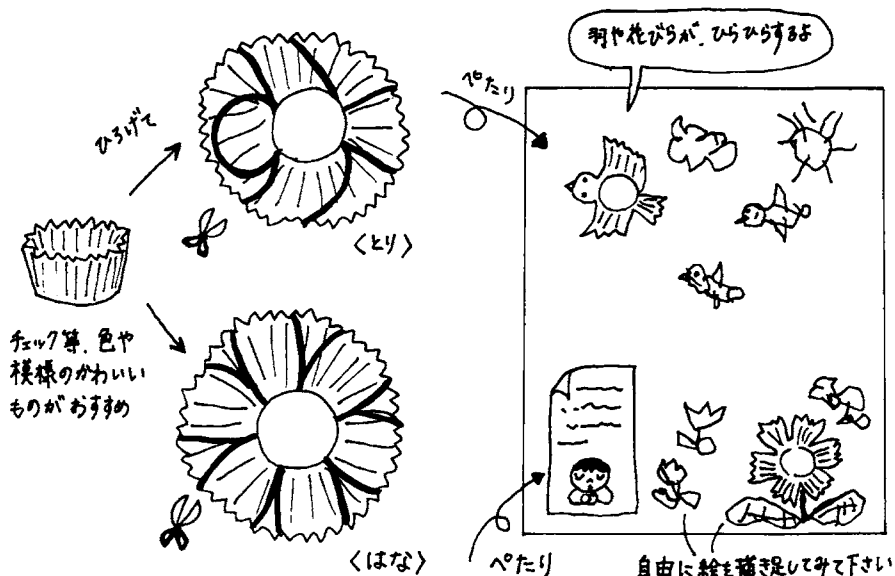
材料：お弁当のおかずカップ（6号 or 8号）、画用紙（B5）、暗証聖句シール

準備：○カップに鳥と花の型を描いておく。

○暗証聖句を印刷したシールを作成しておく。（普通紙に印刷し、裏に両面テープを付けておいてもOK）

- ①線にそって、鳥と花をハサミで切る
- ②切った鳥と花のカップの底面に、ノリを付けて、画用紙に貼る（テープでも可）
- ③暗証聖句シールを貼る

※画用紙のあまった場所に絵を描いたり、暗証聖句を覚えたりして、楽しい時間を過ごして下さい。



2月17日 ルカによる福音書12章22～34

【小学科上級・中学科】

天に宝を積み

1. ルカ12：22～34を読みましょう。

①からすを養い、野原の花を育てるのは誰ですか？あなたを養い育てているのは誰ですか？

②なぜ、私たちが生きていくのに必要な「食べること、着ること」で悩んではいけないのですか？

③私たちが自分自身のもので「思い悩んで」、良い結果を生むことができますか？

④私たちが求めるべきものは何ですか？

⑤「富を天に積む」とは、どういうことですか？

2月24日 ルカによる福音書12章49～56節

【解説と黙想】

時を見分ける

12:49「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである」と聞くと、焼き滅ぼすような大きな火であるかのようだが、35節で「腰に帯を締め、ともし火をともしていなさい」と命じられていることとの関連で、「地上にともし火をともしためである」と読むほうがより理解できる。「火」の原語は燃えているさまを表す動的な語。続く「その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか」という文章も、「火」の原語が持つ含みを想いながら読むとよく理解できるだろう。闇に包まれたこの世で、思いがけないときに帰ってくる主人がいつ帰ってきててもよいように目を覚ましていること(12:35～40参照)、ともし火をともし続けることがいかに難しいか。

マルコ4:21に「また、イエスは言われた。『ともし火を持って来るのは、升の下や寝台の下に置くためだろうか。燭台の上に置くためではないか』と訳されている文章があるが、原文は「このともし火が来たのは、升の下や寝台の下に置かれるためだろうか。燭台の上に置かれるためではないか」。十字架という燭台の上で輝くことになるご自分のことを「ともし火」と言って、受け身で語っている。ルカ8:16でも同じ。ともし火とは十字架の主。「ともし火をともしていなさい」とは、十字架の主に集中していなさい、ということ。「その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか」と、12:49で言われている、という流れ。

12:50冒頭の「しかし」は原文にはない。50節は49節と対。「わたしには受けねばならない洗礼がある」が「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである」に対応している。地上に火を投ずる使命・受けねばならない洗礼とは、十字架の死。そのために「わたしはどんなに苦しむことだろう」。

51, 52節で「あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言うておくが、むしろ分裂だ。今から後、一つの家(は)対立して分かれるからである」と言われている。

ルカ福音書とマタイ福音書では、ともし火のことが語られるとき、必ず家族のこととセットにして語られていることに注意。それが三度も繰り返されている。1度目はルカ8章で、8:16でともし火のたとえが語られると、直後の19節からイエスの母と兄弟たちのことが語られ、「わたしの母、わたしの兄弟とは、神の言葉を聞いて行う人たちのことである」と言われる。2度目のともし火(ルカ11:33～36)のときには、少し前の11:27でイエスの母賛美が起こったときに「むしろ、幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である」とイエスがお答えになった。3度目がぎょうの個所であるので、「一つの家(は)の分裂」とは、その家(家族)が「神の言葉を聞いて行うか、そうでないか」で分かれる、という意味であることがわかるだろう。

引用元のミカ7章を読むと、さらにはつきりとイエスの引用の意図がわかる。「隣人を信じてはならない。親しい者にも信頼するな。お前のふところに安らう女にもお前の口の扉を守れ。息子は父を侮り、娘は母に、嫁はしゅうとめに立ち向かう。人の敵はその家の者だ。しかし、わたしは主を仰ぎ、わが救いの神を待つ。わが神は、わたしの願いを聞かれる。」(ミカ7:5~7) 罪の世界を突き詰めると、家族の破綻にあらわれる。自分の命と言える家族に苦しめられることがある。ミカ自身の家庭が崩壊していた。しかしミカはそのような状況の中で、神の救いを待っていた。「わたしの敵よ、わたしのことで喜ぶな。たとえ倒れても、わたしは起き上がる。たとえ闇の中に座っていても、主こそわが光。」(同7:8) 自分が神の言葉に全く従うことによって、家庭が崩壊し、家族を失うという十字架もある。イエスご自身もそうだった(マルコ3:21参照)。イエスが地上に来られたのは平和をもたらすためではなく、「むしろ分裂だ」と言われた意味はそこにある。

12:54から時を見分ける話が出てきて、「どうして今の時を見分けることを知らないのか」と締めくくっているその言葉の心は、「今の時を見分けよ、今の時にどうすべきなのか、見分けよ。今こそ、神の言葉(主の十字架)に従うべきときだ」ということ。だから続く13章冒頭で「あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる」という言葉が2度繰り返されている。「今の時を見分けよ」と言われる言葉の背景には、申命記30章で、「わたしは今日、[...]生と死、祝福と呪いをあなたの前に置く。あなたは命を選び、あなたもあなたの子孫も命を得るようにし、あなたの神、主を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい」と命じられている二者択一の強い迫り・招きがある。

闇の力に負けそうになるようなこの世での生活を送る私たちの心に与えられたとし火(イエス・キリスト)を、消えないように保ち、その火を燃やし続けて生きていくこと。神の言葉を聞いて行う側に立ち、生きていくこと。そこへと強く招かれている。(赤石純也)

2月24日 ルカによる福音書12章49～56節

【説教展開例】

時を見分ける

◇..... 単元のねらい◇

今は恵みの時、救いの時。新しい時代にふさわしい生き方を身に着けよう。

「今の時を見分ける」

今日の個所の最初のところで、「わたし
が来たのは、地上に火を投ずるためである」
とされています。これを読んで、どんな
火を想像しますか。この文章だと、悪い町
を焼き滅ぼしてしまうような、そういう大
きな火を想像してしまうかもしれません。

イエスさまがここで「火」と言われてい
るのは、35節の「ともし火」のような火の
ことです。「その火が既に燃えていたらと、
どんなに願っていることか」と言われてい
るので、町を焼き滅ぼしてしまうような大
きな火だったとすると、イエスさまはぼく
たちを滅ぼすことを「どんなに願っている
ことか」と思っている、ということになっ
てしまいます。もしかすると、ぼくたちの
古い自分・悪い心は、早くなくなったほう
がいいので、それらが焼き滅ぼされてしま
うことを、イエスさまは願っているのかも
しれない。でも、それよりも、イエスさま
がぼくたちの心に与えてくださったともし
火が、ぼくたちの心の中でもう既に燃えて
いたらいいな、と願っておられるようです。
イエスさまがぼくたちに与えてくださった
ともし火ってなんだろう？

50節「わたしには受けねばならない洗礼
がある。それが終わるまで、わたしはどん
なに苦しむことだろう」ともおっしゃっ
ています。「わたしが受けねばならない洗

礼」ってなんだろう？ それが終わるまで
イエスさまは苦しむ、と言われます。

イエスさまが受けなければならない洗
礼。イエスさまがぼくたちに与えてくだ
さったともし火。それはどちらも、イエス
さまの苦しみのこと、十字架の上でぼくた
ちの罪を赦してくださったことです。

生きていく中で、苦しいことやつらいこ
とがあります。家族や親しい人とうまくい
かなかつたら、毎日が相当苦しいと思いま
すが、そういう人もいるかもしれない。でも
イエスさまは、ぼくたちの痛み・悩み
を全部知っておられます。イエスさまも、
家族の人がわかってくれなくて、とつても
苦しみました。それに、みんながよく知っ
ているように十字架で苦しい思いをされた
から、ぼくたちの苦しみのことは、どんな
ことでもよくわかるんだね。イエスさまは
苦しいとき、神さまに従いとおして忍耐し
ました。そしてぼくたちのことを赦してく
ださいました。ぼくたちも忍耐しなければ
ならないときがあります。自分を苦しめる
人をゆるして仲直りすることが求められて
います。目の前がまっ暗になるような苦し
み・悩みのときに、小さくても、光が見え
たら希望がわきます。ぼくたちが忍耐する
ときにあったらとても助けになるのがとも
し火です。そういうともし火が「既に燃え

ていたら」とイエスさまは願っておられます。

苦しいとき・忍耐のときに、イエスさまの十字架のことを思い出すと、ともし火の火がもう一度よく燃え上がります。イエスさまもぼくたちのことを赦してくださったんだ、と思い出すことです。十字架のことを忘れてしまうと、ともし火は消えそうになります。完全に消えてしまったら、心はずっと暗いままで。

イエスさまはまた、今の時を見分けるように、とも教えてくださいました。今日の前の個所では、人の子（イエスさま）は思いがけないときに来るから、イエスさまが帰ってこられたときに、目を覚まして（悪

いことをしないで気をつけて）いるのを見られる人は幸いだ、とも言われています。いつかそのうちに、と思わないで、「今だ！」と思ってすぐに方向転換して、神さまが喜ばれることをしていこう。

イエスさまが地上に投じた火、イエスさまのともし火が消えてしまわないように、いつも気をつけていよう。いつもイエスさまの十字架を思い出して、ともし火が消えないように気をつけている人と、そうでない人とは、全然ちがうほうに行ってしまいます。ぼくたちはイエスさまのほうに行きたいから、イエスさまの言葉をよく聞いて、イエスさまに従って生きていきたいと思えます。（赤石純也）

《今週の暗唱聖句》

わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。（ルカによる福音書9章23節）

2月24日 ルカによる福音書12章49～56節

【幼稚科】

時を見分ける

〈展開例〉

「ともし火」ってどんなものかわかりますか？ ともし火が完全に消えてしまうと真っ暗になる、と想像してください。

イエスさまの与えて下さったともし火が消えてしまうと、心はずっと暗いままです。イエスさまのともし火が消えてしまわない

ように、いつも気をつけていきましょう。

〈おいのり〉

イエスさまは私たちを救うために、十字架で死なれ、そして復活されました。ありがとうございます。イエスさまの十字架をいつもわすれないように助けて下さい。

〈工作〉

「スタンドグラス～イエスさまのともし火～」

材料：画用紙（黒）、クリアファイル、お花紙（黄、オレンジ、赤）、両面テープ（or のり）

準備：○黒画用紙を図Aの形に切り、のりしろ部分に両面テープを付けておく。

○クリアファイルで、Aと同サイズの円を切り、片面に両面テープをびっしり付けておく。

○お花紙を約2cm角に切っておく。

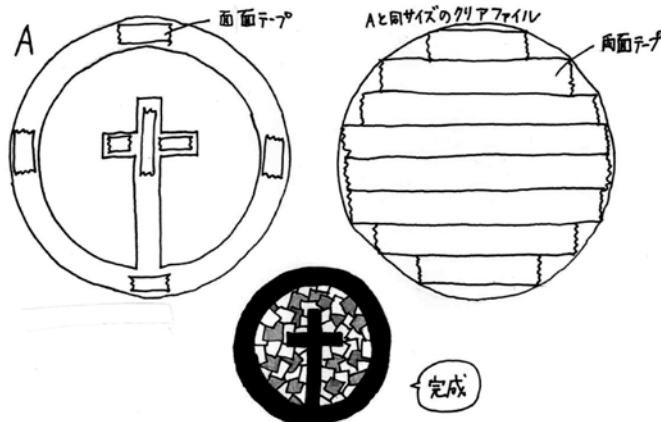
①クリアファイルの両面テープを剥がし、お花紙をペタペタつける（全体に。重なってもOK）。

②Aを①に貼りつける。

※子どもの年齢や分級の時間に応じて、事前の準備をどこまでしておくかは工夫して下さい。

※お花紙は薄いので、水のりはNGです。両面テープかスティックのりをおすすめします（簡単なのは両面テープ）。

※スタンドグラス風なので、明かりにかざしたり、窓に貼るときれいです。



2月24日 ルカによる福音書12章49～56節

【小学科上級・中学科】

時を見分ける

1. ルカ12：49～53を読みましょう。

①ルカ12：35も読みましょう。「火を投ずる」「ともし火をともし」とは、どういうことですか？

②イエスさまが「受けねばならない洗礼」とは、何のことですか？

③なぜ私たちは、一番近い関係の家族とさえ、対立してしまうのですか？

2. ルカ12：54～56を読みましょう。

④なぜ、人間は天気に関心を寄せるのですか？

⑤偽善者とは、どのような人のことですか？ イエスさまはなぜ、群衆に向かって「偽善者」と言ったのでしょうか？

⑥私たちは、何について最も関心を持つべきですか？

3月3日 ルカによる福音書3章10～17節

【解説と黙想】

安息日の癒し

①礼拝の本質的意義を認めるために

今週の教案は、レントから受難週、イースター（4月21日）に向けて、備える意味で、大事な所である。それは、わたしたちが、安息日律法に生きる教会として、今日、どのように礼拝をささげるべきであるか、を問いかけているばかりでなく、主イエス御自身が、安息日に、会堂で教えておられ時に、十八年間も病の霊に取りつかれていた女をいやしたことにおいて、ご自身の憐れみを示されたことに、礼拝の本質的意義を認めることへ導かれるからである。

②安息日律法の教育的意図

礼拝の本質的意義は、第一に、神の御業を告げることにある。安息日律法は、その理由として、出エジプト記20章において、天地創造における安息日の祝福と聖別を添えられている（出エジプト記20章11節）。モーセにおいて再び告げられた、申命記5章においては、「あなたはかつてエジプトの国で奴隷であったが、あなたの神、主が力ある御手と御腕を伸ばしてあなたを導き出されたことを思い起こさねばならない。そのために、あなたの神、主は安息日を守るように命じられたのである。」（申命記5章15節）とあるとおり、出エジプトの御業を想起することが、安息日を守る理由として、イスラエルの民が、再教育されている。

③安息日律法の目標をわきまえつつ

子どもカテキズム問69においては、第一に、「私たちの安息日は、キリストが復活された日曜日です。」と、キリストの復活を思い起こし、第二に、「神さまは、この日を主の日として、特別にとりわけ、教会で礼拝をささげ、救いの祝福を喜び、きよく休んで六日間の歩みに備えることを求めておられます。」と、安息日の聖別を教え、「安息日の恵みにはげまされて、私たちは御国（魂と生活の全領域におけるキリストの支配）をめざして神さまと共に歩みます。」と、第三に、安息日律法の目標が明らかにされている。

それは、病の霊というサタン（悪魔）の支配にとりつかれていた女の人の解放こそが、実は、安息日律法の目標であることと一致する。主イエスは、「この女はアブラハムの娘なのに、18年もの間サタンに縛られていたのだ」（ルカによる福音書13章16節）と告げるとおりである。

会堂長は、主イエスのいやしに、神の御業を認めず、〈人の禁則を破る罪〉として断罪した。今日、教会の全礼拝において、主の憐れみによって、〈神の御前に（一部ではなく）全面的に墮落した罪と不能〉からの真の救いを祈り求めたい。（宮武輝彦）

《参照箇所》 ヘブライ人への手紙3章7～15節、テモテへの手紙二2章24～26節
《教理問答》 「子どもカテキズム」問25、26、45、68、69

3月3日 ルカによる福音書13章10～17節

【説教展開例】

安息日の癒し

◇..... 単元のねらい◇

①十戒（第四戒）における日曜日が、主の安息日、主の日であることをの意味と理由を問う。②そして、霊に縛られた女の人のいやしは、すべての人が必要としている霊的解放であることを信じる。③本当の救い主イエス・キリストにこそ、悪魔から人々を解放し、上下男女の別なく、唯一の道があることを伝える。④「愛の業」の具体例には触れていないが、自由な展開を促したい。ここに、この女の人のいやし同様の、主のあわれみがあると。

「イエスさまが見ておられた“隠れた真実”とは？」

みなさん、おはようございます。今日は、3月の第一の日曜日です。今日も、日本の各地、世界の各地のキリスト教会で、色々な国の人々が今日も、礼拝、聖餐式が守られ、ささげられていることを覚えましょう。

ところで、みなさんは、どうして、教会では、日曜日に礼拝を守っているか、知っていますか。そうですね。イエスさまが、一週の始めの日、日曜日に、わたしたちの身代わりとなられた、十字架の死から3日目に復活されたからです。そして、創世記の一番始めに書いてあるように、神さまが、「光あれ」と言われて、天地万物が創造された日が、日曜日です。また、イエスさまは、復活された日から40日目に天に上げられましたが、その10日後、50日目に、聖霊が使徒（弟子）たちに降り、イエスさまの多くの人々が救われ、教会が誕生しました。その日も、日曜日でした。

ですから、一週間の始めの日、日曜日に、礼拝を守ることは、神さま、イエスさまが、わたしたちのためにしてくださった、お働きを忘れないために、神さまが定めてくださった、「安息日」「主の日」です。

それは、旧約聖書の出エジプト記20章と申命記5章に書いてある十戒で、神さまが安息日に礼拝を守るように教えてくださった、戒めに、はっきり書かれています。

さて、今日の聖書の御言葉は、この安息日に、イエスさまが、会堂で教えておられた時の出来事です。そのことは、安息日は、一週間の7日目、土曜日でしたが、それは、十戒に、「安息日を心に留め、これを聖別せよ。6日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、7日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。」（出エジプト記20章8節～10節）とあるとおり、7日目を礼拝の日にしていたからでしょう。

でも、このイエスさまが、わたしたちと同じように礼拝を守るために集まっていた人たちに、会堂で教えておられた時、「18年間も病の霊に取り付かれている女」の人がいました。「腰が曲がったまま、どうしても伸ばすことができなかった」のです。

ここで、「病の霊に取り付かれている」とあるように、この女の人は、お年寄りで、腰が曲がったのではなく、アダム（全人類

の始めの人、人間)の墮落の原因になった、サタンと呼ばれる、悪魔の仕業であった、と聖書に書かれています。ですから、これは、お医者さんの診断ではなくて、神さまの目でしかわからない、本当の事(隠れた真実)です。

イエスさまは、その女の人を「見て呼び寄せ、『婦人よ、病気は治った』と言って、その上に手を置かれ」ました。すると、この女の方は、「たちどころに腰がまっすぐになり、神を賛美」しました。

「ところが会堂長は、イエス(さま)が安息日に病人をいやされたことに腹を立てて、集まっていた多くの人々に「働くべき日は6日ある、その間に来て治してもらおうがよい。安息日はいけない。」と言いました。

これは、十戒の本当の意味を忘れて、この会堂長が、自分で決めた人のルールにしたがって、イエスさまのしたことは、自分の決まりを破った、悪い事と見なして、女の人を自分中心に見下した言葉です。

みなさんも、この会堂長と同じ決まりに従っていたら、どうでしょうか。これは、自分の決まりに合わないから間違い、合うから正しいことになります。

学校の宿題は、どうでしょうか。お家のお手伝いはどうでしょうか。お友だちと遊んでいいかな。もちろん、日曜日に礼拝を守るために、土曜日までの6日間によく備えることはとても良いことです。でも、人の目で見たところだけで、ことの善し悪しを言うことは、神さまの目の前に、決して正

しいことではないことを覚えましょう。

この会堂長には見えなかったことを、イエスさまは見ていました。その第一は、この女の方の信仰、心です。本当に、この女の方は、イエスさまだけが、病の霊を追い出してくれる、と信じていた人でした。この女の方に、「婦人よ、病気は治った」と、イエスさまが言ったとき、病気が治ったのは、病の霊、サタン、悪魔の霊が出ていたので、イエスさまは、「この女はアブラハムの娘(神の祝福を受け継ぐ契約の子)なのに、18年もの間サタンに縛られていたのだ。安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったのか。」と、神の真実を問いかけられました。

イエスさまは、はじめから、女の方の18年という長い間の病気とその苦しみ、悲しみをずっと知っておられ、病の霊から解放する力をお持ちのお方です。そればかりでなく、安息日を守るように定めてくださった、命と律法の“主”、神さまです。

今日、わたしたちは、礼拝をいっしょに守っていますが、じつは、イエスさまの力によって、病気が治った女の方と同じように、イエスさまの命と救いを信じて、神さまをほめたたえる賛美に導かれています。

日曜日が来るたびに、イエスさまが、十字架の死から3日目に復活されたことを心から信じて、「安息日」「主の日」に、いっしょに礼拝ささげ、教会の人、家族の人、みんなに、「愛の業」をささげて、イエスさまの愛とあわれみを表しましょう。

(宮武輝彦)

《今週の暗唱聖句》

「彼はわたしたちの患いを負い、わたしたちの病を担った。」

(マタイによる福音書8章17節)

3月3日 ルカによる福音書13章10～17節

【幼稚科】

安息日の癒し

〈展開例〉

日よう日は「主の日」です。「主の日」は何をする日かな……？ 神さまを礼拝する日です。

神さまが、そうお決めになりました。自分や他の人が決めたルールよりも、神さまが正しいと思われることにしたがっていくことがいちばんです。

〈おいのり〉

きょうの主の日に、みんなで礼拝を守ることができました。ありがとうございます。きょうからの一日一日も、私たちをお守り下さい。そして次の主の日にも、神さまを礼拝することができますように。

〈工作〉

「わたしの1しゅうかん」

材料：紙皿、画用紙（白）、割ピン、主の日シール

準備：○画用紙を紙皿と同サイズの円に切る。←A

○Aに7等分の線を引き、曜日を書く。

○Aと紙皿の中心点に穴をあける。

○重ねた時に、窓から1曜日ずつ見えるように、紙皿を切りとる（穴にかからないよう注意）。

○主の日シールを印刷しておく①まず「主の日シール」を貼る。②各曜日の予定や絵を描く（何を描くか先生がいっしょに考えてあげる）。

Ex) ●予定／幼稚園、プール……

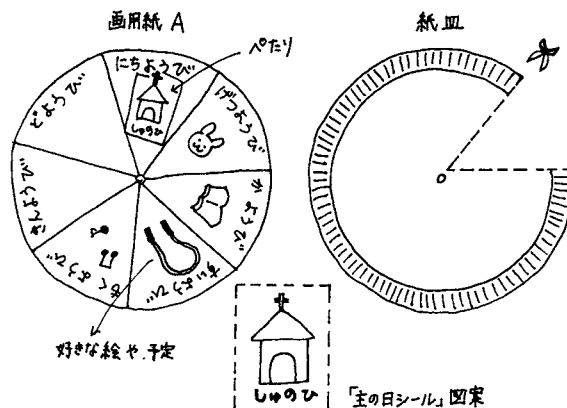
●献立（希望）／ハンバーグ、コロッケ、寿司……

●好きなもの／うさぎ、絵本、なわとび、うた……

③紙皿と重ねて、穴に割ピンを通す。

※くるくる回して遊びましょう。

※何よりもまず、にちようび→主の日！ です。大事なところから作って下さい。



3月3日 ルカによる福音書13章10～17節

【小学科上級・中学科】

安息日の癒し

1. ルカ13：10～13を読みましょう。

①イエスさまが会堂で教えておられたときにいたのは、誰ですか。

②イエスさまはその人に何をされ、その人はどうなりましたか。

③イエスさまと出会ったその人は、自分の身に起こったことをどう考えたでしょうか。

2. ルカ13：14～17を読みましょう。

④会堂長の言動を説明してみましょう。

⑤イエスさまが会堂長に答えて言われたことは何ですか。どのような説明をされたのでしょうか。

⑥イエスさまが言われたかったことは何だと思いますか。

⑦このやりとりを聞いた人々は、どう思ったでしょうか。

3月10日 ヨブ記1章1節～2章13節

【解説と黙想】

義人ヨブ

1. 「無垢な正しい人」ヨブ

ヨブという人物について、ヨブ記はこう記している。「無垢な正しい人で、神を恐れ、悪を避けて生きていた」（1章1節）。「無垢（タム）」という言葉は、「完全さ」を意味し、「正しい（ヤシャル）」という言葉は、「真直ぐさ」を意味する。

では、ヨブが持つ「完全さ」とはどのようなものであったのか。それは、「息子たちが罪を犯し、心の中で神を呪ったかもしれない」（1章5節）と心配し、神を礼拝する姿によくあらわされている。ヨブは人間が犯す罪に対して、繊細な感覚を持つ人物であった。人は誰も罪と無関係に生きることはできない。しかし、注意深くあることはできる。ヨブは自身としては悪を避け、また愛する家族の罪を決して神の御前にいい加減なこととしなかった。その姿を、ヨブ記は「完全さ」と言い、神に対する「真直ぐさ」と表わす。聖書が教える「完全」な人とは、罪を犯さない完全無欠な人ではなく、罪の只中で、罪と誠実に繊細に向き合う人のことであるよう。

2. 天上からの視点

そのようなヨブを見つめる二つの視線が天上にあった。神とサタンの視線である。

神はヨブの「正しさ」を信頼し、愛した。他方、サタンは人間が抱く神への真直ぐな畏れを信じない。人間が神を崇めるのは自

身の「利益」（1章9節）のためであり、下心のゆえ。サタンは人間の欺瞞を鋭く見ている。ここに、神とサタンとの闘争が始まる。ヨブを信頼する神が正しいのか、ヨブを疑うサタンが正しいのか。神は御自身の「正しさ」をヨブに委ねられた。

3. 神の信頼

サタンは提案する。ヨブを不幸にしてみよう。神の祝福をすべてはぎ取り、彼の本性を見てみよう、と。神はその提案を受け入れる。制限（1章12節、2章6節）を付けながら。ヨブはたちまちのうちに息子・娘を、財産を、身体の健やかさをも失う。妻との温かい時間も「神を呪って、死ぬ方がましでしょう」（2章9節）という悲しい言葉にかたちを変える。こうしてヨブが神を畏れることで得たとされた、分かりやすい「利益」はすべてはぎ取られていった。

それでもヨブの信仰は保たれた。サタンは、ヨブが手にした「利益」のうえに彼の信仰があると考えていた。しかし、ヨブが抱く神への畏れは、ヨブを根底から支えるものであり、それは神がヨブの心深くに刻んだものであった。ならばそれが失われることはない。誰も奪い取ることはできない。

神が御自身の「正しさ」をヨブに託されたのは、ヨブへの愛であると同時に、御自身が人間に与えられた信仰というものの信頼でもあった。（柏木貴志）

《参照箇所》 ローマの信徒への手紙8章26～28節

《教理問答》 「子どもと親のカテキズム」問1、13、15、16

3月10日 ヨブ記1章1節～2章13節

【説教展開例】

義人ヨブ

◇..... 単元のねらい◇

神の愛に満ちた信頼と、サタンの猜疑が、ヨブに注がれる。ヨブは、二つの視線を身に浴びながら、その信仰を問われる。信仰が保たれるのは、神からの視線のゆえ。神が与え、守り、育まれる信仰を、誰も奪い取ることはできない。そのことを子どもたちに伝え、分かちあいたい。

「神さまがくれるもの」

1. 「無垢な正しい人」ヨブ

みんなは、どういう大人になりたいかな。
かっこいい人・かわいい人、やさしい人、
お金持ちの人、運動神経がいい人……。

では、神様は、みんながどういう大人にな
ってほしいと願っておられるかな。

今日の聖書のところには、ヨブさんとい
う人がでてきました。みんな、知っている？
この人は超お金持ちでした。イケメンで
あったかどうかは分からないけれども、幸
せな結婚をしていて、7人の男の子と、3
人の女の子がいるという大家族のお父さん
でした。人生イケイケで、おおよそ、人が
欲しいなあと思うものは全部持っているよ
うな人でした。

そんなヨブさんがお金よりも何よりもい
ちばん大切にしていたことがあったんで
す。それは神様のことです。もう少し具体
的に言うと、神様に罪を犯さない、神様に
悪いなあ、神様に恥ずかしいなあと思うこ
とは絶対にしないということでした。

でもね、先生もみんなもそうだけれど、
自分ではまったく気づかないままに悪いこ
とをしているということがあるよね。心の中
で、こんちくしょうと思ってしまうこと
があるよね。そういう人の眼には見えない

小さな罪にも、ヨブさんは注意深い人でし
た。自分だけではなくて、子供たちが、神様
に罪を犯していたら、申し訳ない、その時
は神様、ごめんなさいと、そういうお祈り
を、ヨブさんは欠かしませんでした。

そんなヨブさんのことを、神様も、すご
い！ こんな人間はいないぞ！ と愛され
ていました。ヨブさんは、神様のことをと
てもとても大切にしていましたけれども、
神様もヨブさんのことをとてもとても大切
に思われていたんですね。

2. 天上からの視点

さて、そんなヨブさんのことを天から見
ている二つの視線がありました。

ひとつはもちろん神様の視線です。

もうひとつはサタンの視線です。サタン
はこんなことを言うんです。

「ねえねえ、神様、ヨブがあなたのことを
大切に思っているってのは本当なんでしょ
うかねえ。胡散臭くありません？」

サタンは、人間が神様を信じるとか、神
様を畏れるというのがものすごく嫌いなん
です。人間が真直ぐな心を持つということが
我慢ならなくて、曲げたいんですね。

3. 神の信頼

で、サタンは言うんです。「ヨブが神様

を信じているってのには絶対、下心がある。大金持ちで、きれいな奥さんがいて、世の中、何でも思い通りだから、そういうものを全部、与えてくれる神様だから、神様、神様って言っているんで、そんなもの全部なくなったら、すぐに神様の悪口を言い始めますよ。ここはひとつ試してみませんか？」

サタンはヨブさんの神様を信じる心を試そうとします。同時に、それはヨブさんがすばらしい！ と言っている神様に対して、挑戦状を叩きつけるという意味もあったんですね。神様はヨブさんを信頼しています。サタンはその信頼はどうなの？ と疑う。どっちが正しいのか、勝負だ！ という感じですね。

もちろん、神様は逃げも隠れもされません。よし、受けて立つと。しかし、無茶はするなと。ヨブさんの命を決して奪ってはいけなと。そのなかでヨブさんを試すことを許可されました。すると、たちまちのうちに、ヨブさんに不幸が押し寄せてきます。財産をすべて失いました。子供たちがみんな事故で亡くなってしまいました。病気になるしました。奥さんとの関係も気まづくなります。もうあつという間に、ヨブさんは一文無し、ヨブさんは「幸せ」と思えるものをまったく失ってしまいました。

これで、サタンの目論見としては、ヨブさんは神様に悪口を言い始めるはずだったんですね。神様を信じていても、良いことが何にもないんですから。

でもね。ヨブさんはどうだったか。不幸

のどん底で、悲しみの真っ只中でこう言うんです。「わたしたちは、神から幸福をいただいたのだから、不幸もいただくのではないか」（2章10節）。

ヨブさんは神様を信じ続けたんです。

みんなも、このヨブさんが信じた神様を信じるんです。良い時もあれば、悪い時もある。幸せだなと思う時もある、辛いなあと思う時もある。いろんな時がある。でもね、神様は善きお方です。みんなを愛しておられるお方です。何にも意味がなくて、みんなを苦しみに追い込んだりなんかされません。「不幸もいただくのではないか」。これはとても重たい言葉ですね。不幸を乗り越えさせてくれる神様を信頼しているから言える言葉です。

ヨブさんはいろいろなものを失いました。持っていたものは全部、失いました。奪われました。でも、神様を信頼するという心だけではなくならなかったんですね。

なぜだと思う？ それは、信仰というのが、神様から与えられるものだからです。神様がヨブさんの心に、みんなの心のいちばん奥深いところに、刻みつけられたものだからです。それは誰にも、自分でも奪い取れないものなんです。

神様は、ヨブさんに、みんなに、そういう信仰を与えてくれます。それは何億円のお金よりも、どんな物よりも、みんなを幸せにしてくれるものです。心を温かくしてくれるものです。その信仰を大切にする大人へと、みんなはなっけていきます。神様がそうしてくださいます。（柏木貴志）

《今週の暗唱聖句》

わたしたちは、神から幸福をいただいたのだから、不幸もいただくのではないか。

（ヨブ記2章10節）

3月10日 ヨブ記1章1節～2章13節

【幼稚科】

義人ヨブ

〈展開例〉

ヨブさんは正しい人でした。幸せな時も、悲しいことがあった時も、どんな時も神さまを信じつづけました。

どうしてそんなふうにしたのかというと、それは、神さまがヨブさんを愛し、神さまを信じる心（これを信仰といいます）を与えて下さっていたからです。

〈おいのり〉

きょうはヨブさんのお話を聞きました。私たちがヨブさんのように、どんな時もあなたを信じつづけることができるように、信仰を与えて下さい。

神さま、あなたが与えて下さる愛と信仰を、喜んで受けとることができますように。

〈工作〉

「与えられた愛と信仰」

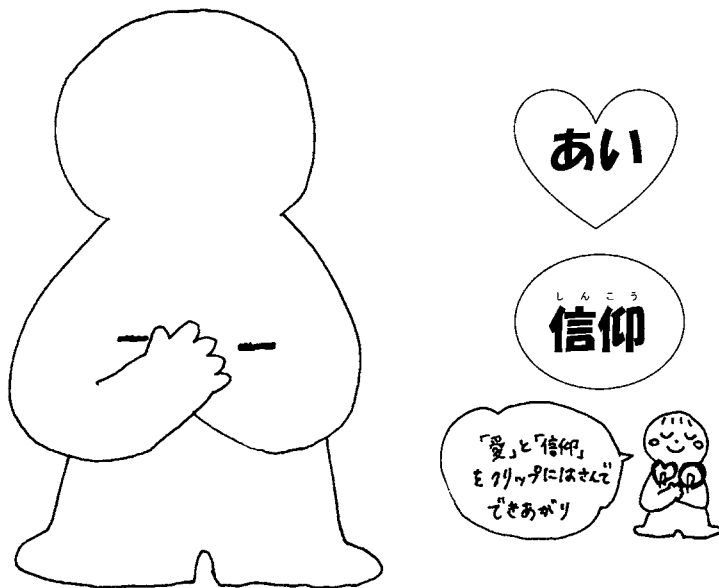
材料：画用紙（白、赤、黄）、クリップ

準備：○白画用紙に下の絵を拡大印刷し、切っておく。

○胸の辺りに2箇所切れ込みを入れ、クリップをプ留めておく。

○赤いハートに愛、黄色い丸に信仰と書き、切っておく。

- ①顔（自分の）を描く。
- ②「愛」と「信仰」を先生から受け取る（※この時、丁寧に大切に渡して下さい）。
「神さまから頂いているもの」と感じられるように。
- ③胸のクリップに「愛」と「信仰」をはさむ。



3月10日 ヨブ記1章1節～2章13節

【小学科上級・中学科】

義人ヨブ

1. ヨブ記1：1～5を読みましょう。

①ヨブとはどんな人ですか。

②ヨブは自分の息子たちのために、何をしていましたか。またそれはなぜですか。

2. ヨブ記1：6～12を読みましょう。

③主の前に神の使いが集まったとき、誰が、何を主に話しましたか。

④サタンのお話を聞き、主はどう答えられましたか。

3. ヨブ記1：13～22を読みましょう。

⑤ヨブの身の上になんかことが起こりましたか。

⑥ヨブは自分に起こったことをどう受け止めましたか。

4. ヨブ記2：1～13を読みましょう。

⑦再び災難が起こったとき、ヨブはどんな態度、行動をとりましたか。

⑧友人たちはヨブを見てどうしましたか。

⑨ヨブと主との関係について、思ったことや気づいたことをまとめましょう。

3月17日 ルカによる福音書3章1～13節

【解説と黙想】

サタンの誘惑

イエスさまのご生涯はすべて私たちの救いのためのものです。主イエスはまったく罪を犯されませんでした。洗礼を受けることで「罪人の仲間」であることを表明されました。こうして「あなたはわたしの愛する子。わたしの心にかなう子」という神の御子にしか当てはまらない父なる神からの宣言を、私たちも受けることができるようにされました。聖霊の注ぎは、私どもの受洗においてもなされ、こうして救いを理解し、救われることを明示します。

さて、その聖霊は、神の御子を荒れ野に放たれます。主イエスは、聖霊なる神の御心に従います。こうして40日間悪魔に誘惑され続け、同時に自ら断食なさることによって40日目、ついに人間的な力、肉体の生命は限界に達します。そのとき、悪魔はその力と悪知恵を総動員して主イエスを攻めます。

この出来事は、イスラエルの荒れ野の40年間を想起させます。神の御心にかなうべきイスラエルはそこで、十戒を守ることが出来ませんでした。イスラエルの代表とられた主イエスは40日を過ごされることで、悪魔に大勝利されます。それは、言わば、イスラエルの歴史をやり直して神の民の模範となることを意味します。こうして神の民の模範となり、さらに主イエスにつく者は、自分が悪魔に打ち勝った者であるかの

ように、父なる神に認められる道が整えられたのです。

御子イエスさまが、私たちのためであるとはいえ、悪魔の誘惑を受けられることによって、私たちが悪魔の攻撃を受けることは、決して思いがけないことではないということが示されます。それは、父なる神がその愛する子どもたちを鍛えるためです。

主の荒れ野での三つの誘惑は、要するに一つのことです。神に信頼することをやめさせ悪魔に仕えさせること、つまり、自分により頼み、自分の欲望に仕える者となること、神から引き離して信仰を捨てさせることです。主は、御言葉をもって敵を打ち破られることによって、私たちにもサタンを退ける明解な方法を示されます。サタンの誘惑に打ち勝つためには、自分の弱さを認めることが大切です。ここまではいいか悪いか等といちいち弁解したり、妥協せず、きっぱりノーとすることです。

同時に、私たちのために誘惑を受けられ、勝利されたことによって、私どもは、何度も敗北する罪人であることを隠す必要はまったくなくなりました。主イエスと結ばれた私たちは、主の勝利のおかげで勝利者と見なされ、そればかりか現実に勝利する聖霊の力をも繰り返し与えられるからです。

(相馬伸郎)

《参照箇所》 申命記6章4～9節、8章1～11節

《教理問答》 「子どもと親のカテキズム」問38、33、50、59、88

3月17日 ルカによる福音書3章1～13節

【説教展開例】

サタンの誘惑

◇..... 単元のねらい◇

子どもと大人の別なく、誰でもイエスを主と信じ従う者には、悪魔が攻撃してきます。悪魔の唯一のねらいは、人をキリストから離し、共に滅びる者とならせることにあるからです。イエスさまは、私たちのために誘惑を受けられ、完全に勝利されました。私たちはこの勝利者に結ばれて既に勝利者です。主にならって勝利する歩みへと導かれます。この物語から勝利の秘訣をしっかりと学び、主に感謝し、雄々しく信仰の歩みを続けましょう。

「信仰の勝利の方程式」

イエスさまがなさったすべてのことは、僕たち私たちの救いのためです。私たちが神さまの子どもとするためです。人としてお生まれになられたことも、洗礼を受けられたことも、そして今朝のお話しの悪魔の誘惑を受けられたこともすべては、僕たち私たちを祝福するためです。

イエスさまが洗礼をお受けになられたとき、聖霊を豊かに注がれました。さあ、それなら、どんなにすばらしいことがイエスさまに待っているのでしょうか。ところが聖霊は、イエスさまを荒野に連れて行かれます。楽しい場所ではありませんね。そればかりかそこに待ち受けていたのは、悪魔です。サタンは40日間、イエスさまを誘惑し続けました。そればかりか、聖霊の神さまは、40日分のおいしいお食事を準備してくださるのではなく、40日間、何も食べないようにと導かれたのです。これまで一日、何も食べないで過ごしたことがありますか？ それが40日間を続くなんで想像もつきませんね。聖霊なる神さまが、悪魔の誘惑を心と魂、そして体にまでも徹底的に受

けさせられます。もう一日そのままいれば死んでしまうという、ぎりぎりのところまで受けさせられたのです。

さて、悪魔は、その40日目に、「神の子なのだから、この石にパンになるように命じたらどうでしょうか」と言いました。確かに、イエスさまがお望みなら、たちまちパンになります。けれどもイエスさまは、父なる神さまがそれを御望みでないなら、お命じになられません。神さまに信頼なさるのです。そして、イエスさまは、申命記に書いてある御言葉を悪魔に告げます。「人はパンだけで生きるものではない。」そうです。人が本当に人として生きる上で必要なのは、神さまからいただく、聞こえてくる御言葉です。それは、「あなたはわたしの愛する子」というようなすばらしい命の言葉です。体の命よりも大切なのは、神さまからいただく神の命です。つまり、天のお父さまを信じ従わないで、自分の力でお金を得たり、食べ物を得たりすることより、むしろ、それが神さまの御心であれば、死んだ方がすばらしいということすら、ある

のです。

悪魔は、心のなかで、「くそっ」とつぶやいたのだらうと思います。しかし、諦めません。こんなに弱り果てているのだから、勝てる、絶対に神さまへの信頼を一瞬でもなくさせて、罪を犯させられると思っています。次に繰り出す攻撃は、こうです。イエスさまに世界中の宝物を見せて、こう言うのです。「イエスさま、この世界のすべての権力や繁栄は、実はわたしが持っているのです。へへ、でも、ほんの一瞬でいいので、私を拜んでみてください。そうしたら、全部、あなたにあげます。いや、あなたにお返ししますから。一瞬でいいんです」さて、これは、全部、嘘いつわりです。この世界のすべてを所有しておられるのは悪魔などではなく、天のお父さまです。悪魔は、ただ神さまを信じないで、悪魔に頼る人、言い換えると自分の力に頼って神さまに頼らない人を増やしたいのです。そして、このイエスさまを一瞬でも誘惑できれば、もう、人間の救い主になれないことを分かっているのです。ですから、イエスさまを攻撃するのです。イエスさまは、はっきり、「ノー」と仰います。「ダメ！人間は、神さまだけを拜み、仕えることが人間らしいことなのだ！」

悪魔は、最後の切り札を用います。神さまの御言葉です。イエスさまを神殿の屋根の端に連れ出して言いました。「イエスさま、あなたは神の子ですね。詩編第92編の

御言葉を信じていますよね。わたしも詩編が大好きです。そこに、神さまに愛されている人は、神さまが守るとちゃんと書いてあります。すばらしいお約束ですね。さて、ここで試してご覧になってください。そうしたら、わたしももっと信じましょう」イエスさまは、この罠にも負けません。「神さまを試すなと聖書に書いてあるのだ。」

こうして、悪魔は完敗させられました。十字架につけられるまで、イエスさまに手だしできなくなりました。この出来事は、僕たち私たちが、悪魔の誘惑に何度負けてしまっても、それでも神さまの子どもであり続けられるのだということを教えてくれます。何故でしょうか。それは、イエスさまが悪魔に勝利されたからです。私たちは何度罪を犯しても、このイエスさまを信じれば赦されて立ち上がれます。

また、信仰の勝利のいわば方程式を教えてください。それは、神さまを信じること。ただそれだけです。そしてその為に必要なのが御言葉だということです。恵みの手段の御言葉と礼典とお祈りを用いれば、僕たち私たちだって悪魔に勝利できるのです。勝利の方程式はとても単純で簡単です。今日、みんなでここにあつまり、聖霊に導かれて、主イエスさまによって神さまを礼拝しています。主日礼拝式を捧げる人には、悪魔は手も足もできません。イエスさまの力は圧倒的に強いのです。ただ、信じるだけで、僕たち私たちも勝利者です。(相馬伸郎)

《今週の暗唱聖句》

あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

(申命記6章5節)

3月17日 ルカによる福音書3章1～13節

【幼稚科】

サタンの誘惑

〈展開例〉

「ゆうわく」とは何でしょう。悪いことへの誘いです。神さまを信じるのをやめさせよう、という力です。そんな悪い力には負けたくありませんね。でも、人間は、私たちは弱いものだから、ちょっと心配です

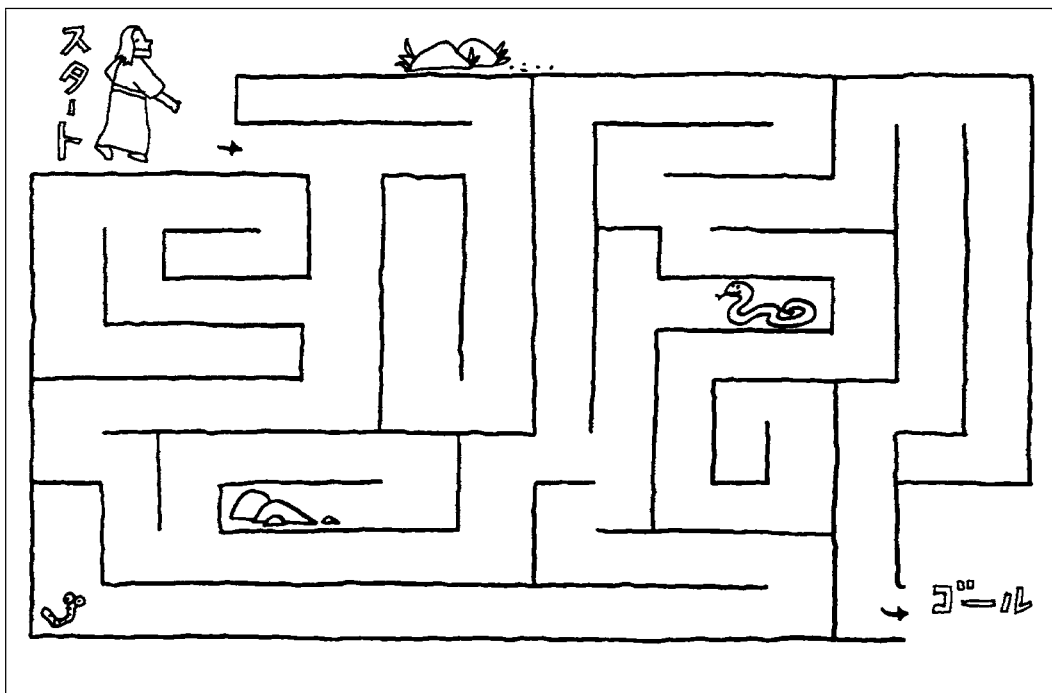
よね……。

イエスさまはどうでしたか？ サタンの誘惑にすべて勝たれました。私たちは、そのイエスさまを信じることで、同じように勝つことができるのです。うれしい、感謝なことですね。

〈ゲーム〉

「荒野野めいる」

下の迷路を人数分コピーして、チャレンジして下さい。



3月17日 ルカによる福音書3章1～13節

【小学科上級・中学科】

サタンの誘惑

1. ルカによる福音書4：1～13を読みましょう。

①悪魔から誘惑を受ける前のイエスさまはどんな様子でしたか。

②3つの誘惑について、それぞれまとめてみましょう。

申命記6：4～9、8：1～11も読んでみましょう。

③旧約聖書も参考にして、40日間イエスさまが受けられた誘惑に勝利されたのはなぜだと思いますか。

④私たちが生活の中で誘惑を受けるとき、どのように対応するべきだとこの箇所は言っているのでしょうか。

3月24日 ルカによる福音書13章1～19節

解説と黙想

悔い改めねば滅びる

新共同訳聖書では4つのまとまりにまたがる箇所を一度に扱うことになる。ここはまず1～9節の「悔い改めの勧め」と10節以下の「神の国到来を見いだす」の2つにくることができる。そのどちらも、前半が出来事、後半がたとえ話となる。

イエスさまが語るたとえ話は「神の国の秘密」に関して語られるものである。(ルカ8:10) 従ってイエスさまはガリラヤ人の災難や安息日に女性が癒された出来事を神の国との関連で受け止め、たとえ話によって人々に伝えられた、と見ることができる。

ここで、イエスさまが福音宣教を公に始められた際の第一声が「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」(マルコ1:15) だったことを想起すると、箇所全体を貫くものが見えてくるのではないだろうか。ルカ福音書ではこの言葉が記されないが、この箇所全体により同様のメッセージを示すと見することもできる。神の国がこの地に到来し始めたことについて、それ自体は神に逆らう存在が追い払われ、人に解放と喜びをもたらす動きで

ある。ただ神の国が完全に到来した時、この世が終わって神の裁きが行なわれ、神へと悔い改めなかった者には滅びが臨むことになる。主の祈りで「み国を来たらせたまえ」と祈る者として、その祈りが聞かれた結果についてもわきまえて生きていくことが肝要である。

6節「ぶどう園にいちじくの木を植える」は現代の私たちに違和感を抱かせるかもしれないが、ローマ帝国時代の人プリニウスの『博物誌』ではつる植物であるぶどうを這わせるなどの点からいちじくをぶどうと共に植えることを勧めるという(榊原康夫『ルカ福音書講解4』)。

15節「飼い葉桶」は口語訳「家畜小屋」の方が訳として妥当。牛やろばはひもで家畜小屋の柱につないでおくことで留めておくことができる。人が手で持ち上げることのできる飼い葉桶に牛やろばをひもでつないでも飼い葉桶を軽く引き回して駆け出してしまうのがオチであろう。

19節「からし種」は種の重さ1ミリグラム、だが成長すると3メートルを超える大きさに成長するという。(吉田 崇)

《参照箇所》 マルコによる福音書1章15節、ルカによる福音書8章10節

《教理問答》 「子どもと親のカテキズム」問39、91

ウェストミンスター小教理問答 問102

3月24日 ルカによる福音書13章1～19節

【説教展開例】

悔い改めねば滅びる

◇..... 単元のねらい◇

神の国がこの地に到来し、神様の御心が実現し始めると、一方では罪から解放され安らぎを得る人が出てくるが、他方では悔い改めない者への裁きが近づくことにもなる。神の国の到来を喜ばしい知らせとして受け入れるためにも、神様に立ち返り悔い改める生き方へと進んでいきたい。

「神の国が近づいているから」

イエスさまはやさしく愛のあるお方だ、と思うことが多いでしょう。でもイエスさまは時にそれとは違う姿を見せることがありました。ある時、ピラトがガリラヤ人を殺し、その血をガリラヤ人たちから神様に捧げるいけにえに混ぜるといふひどい事件が起きてしまいました。同じ頃にはシロアムの塔が倒れて18人が死んでしまう出来事もありました。イエスさまはそれに対してこうおっしゃいました。「犠牲になった人たちはほかの人たちより罪深い者だったと思うのですか。決してそうではありません。あなたがたこそ神様に悔い改めないと、同じように滅びてしまいますよ。」

引き続き、イエスさまはたとえ話をなさいました。「ある人がいちじくの木を植えました。3年たっても一個も実を結びません。主人は『この木を切り倒せ』と命令します。でも木の世話をしてきた人が言いました。『ご主人様、木の周りに肥やしをやってみます。来年は実がなるかもしれません。それでもだめなら、切り倒してください。』」イエスさまは私たちが今どういうところに置かれているのかを示してくださいました。神様に作られた人間は、神様の喜ばれる実を結ぶことが期待されてい

ます。実を結ばないものはすぐに切り捨てられても当然なはずでした。でももう少しだけ、実を結ばないでいる人間に救いの手を差し伸べ待ってみよう、神様は愛と憐れみをもってそう決めてくださり、イエスさまを送ってくださったのです。イエスさまはそれをよく分かっておられるからこそ、時に激しい口調で神様への悔い改めを願われるのです。

それから少し後の安息日に、イエスさまは神様を礼拝する会堂におられました。そこに18年間も病の霊に取りつかれていた女性がいたので、イエスさまは治してあげました。ところが会堂を管理する会堂長さんは「安息日に仕事をしてはいけないと十戒にあるではないか」と腹を立てたのです。

イエスさまは会堂長にこうお答えになりました。「あなたたちは安息日にも、普段は家畜小屋につないでいる牛やろばをそこから解いて、井戸に水を飲ませに連れていくではありませんか。」私たち人間もそうですが、牛やろばといった動物は一日何も飲み食いしないと弱ってしまいます。そこで安息日でも動物に水を飲ませることは許されていました。イエスさまはさらに続けます。「この女性は、18年もの間サタンに

縛られていたのです。安息日であっても、その縛りから解いてやるべきです。」イエスさまのそばでこのやり取りをみた群衆はこぞって喜びました。

イエスさまは、これに続いてたとえ話をお話になりました。「神の国は何に似ているでしょうか。神の国はからし種に似ています。からし種はとても小さなものですが、人が手に取って庭に蒔くと、成長して木になります。その枝には空の鳥が巣を作って安らぐことができます。」

18年もの間サタンに縛られた女性をイエスさまが縛りから解いた出来事は、神の国が最初は人目につきにくい形で地上に来たけれど、だんだんと大きくなって人に安らぎの場を与えるまでになっていることの表れだ、とイエスさまはたとえ話を通してお話になったのです。この地上には、人を縛り付け苦しめる罪がありました。罪を嫌われる神様は、この地上に神の国を来たらせ、最後には地上から完全に罪が消え去ることを目指しておられます。神の国がこの地上

でだんだん大きくなるにつれて、罪に縛られていた人は解き放たれて神様のもとで安らぐことができます。併せて、神の国が完全にこの地上に来た時に、なおも神様に悔い改めて立ち返らないままの人には厳しい裁きが臨んでしまうのです。

イエスさまを救い主と信じる者、聖霊をいただいて「天の父なる神様」とお祈りできる者は、神様のみ手のうちに入れられ、神の国に入れていただいています。そして主の祈りでは「み国を来たせたまえ」とお祈りしています。この祈りに神様がどう応えてくださるかを、イエスさまはここでお語りになっているのです。神様を信じる者には神の国が来ることはうれしい、感謝なことですが、神様に立ち返らず悔い改めないままでは裁きの時を身に招くことになります。一人でも多くのお友達がイエスさまを受け入れて、神の国の安らぎを味わうことができるように祈っていきましょう。

(吉田 崇)

《今週の暗唱聖句》

神の国は何に似ているか。何にたとえようか。それは、からし種に似ている。人がこれを取って庭に蒔くと、成長して木になり、その枝には空の鳥が巣を作る。

(ルカによる福音書13章18, 19節)

3月24日 ルカによる福音書13章1～19節

【幼稚科】

悔い改めねば滅びる

〈展開例〉

今日の聖書のお話ではいろいろなできごとがありましたね。その中から、イエスさまがお話しになった、たとえ話を思い出すごとにします。

イエスさまは「神さまの国」は、からし種に似ている、とおっしゃいました。

からし種って知っていますか？ とても

小さな種で、重さは1ミリグラムだそうです（塩の粒10つぶ分ぐらい。米粒の10分の1ぐらいの重さです）。その小さな種を庭にまくと、鳥が巣を作って住めるほどの、大きな木になります。

イエスさまはこのたとえ話で「神さまの国」をわかりやすく説明して下さいました。

〈工作〉

「からし種のたとえ話ぬりえ」

材料：画用紙（白）、色鉛筆やクレパス等、タックシール

準備：○画用紙に絵を拡大印刷する。

○扉が開くような形に折っておく。

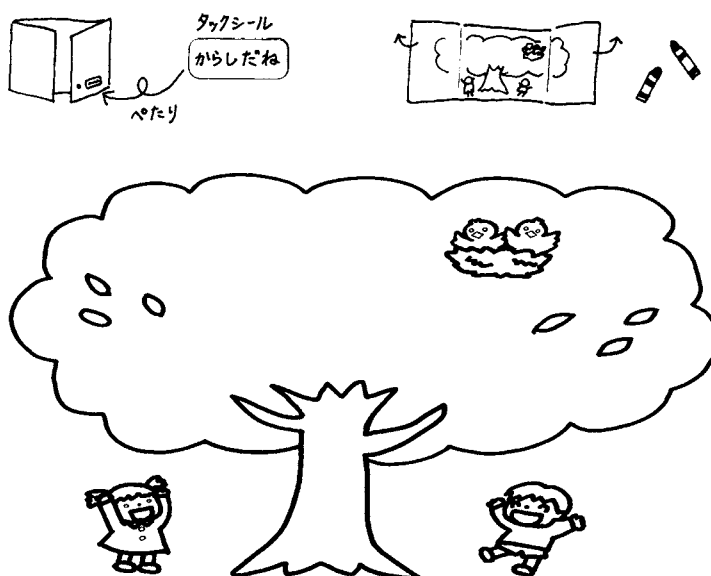
○扉の表にからし種の点を描く。

○タックシールに「からしだね」と書いておく。

①からし種を見つけて、横にタックシールを貼る。

②扉を開いて、ぬりえを楽しむ。

※3メートルを超える大きな木になる、ということと、鳥が巣を作って住める、ということを見ながら言葉がけしてあげてください。



3月24日 ルカによる福音書13章1～19節

【小学科上級・中学科】

悔い改めねば滅びる

1. ルカによる福音書13：1～5を読みましょう。

①人が災難を受けることは、罪深さとどんな関係があるとイエスさまは言われていますか。

②マルコによる福音書1：15も読んでみましょう。この箇所で強調されていることは何ですか。また、なぜイエスさまはこのことを強調したと思いますか。

2. ルカによる福音書13：6～9を読みましょう。

③「いちじくを植えた人」は、ぶどう園にいちじくを植えたことについてどう考えていますか。

④「園丁」はどのように考えていますか。

⑤それぞれ考えの違いについて、気がついたことを話してみましょう。

3. ルカによる福音書13：10～17を読みましょう。

⑥イエスさまは会堂にいたある人に気づかれ、何をしましたか。その人はどうなりましたか。

⑦会堂長の言動や、その理由について考えてみましょう。

⑧会堂長にイエスさまはどう答えられましたか。また、周りの人たちはどう思いましたか。

4. ルカによる福音書13：18, 19を読みましょう。

⑨イエスさまはからし種と天国について、どんなことを伝えようとされていますか。

3月31日 ルカによる福音書13章31～35節

【解説と黙想】

イエスの嘆き

ユダヤ民族にとって宗教的・政治的中心であるエルサレムをルカは強調する。福音書は中央部分から(9:51)、イエスの旅がエルサレムに向けての旅であることが繰り返される(9:53, 13:22, 17:11)。このエルサレム中心の教えは神の御計画の一環であり、それを今回のテキストはよく示す。

「ヘロデへの対抗」(31～33節)

ヘロデ(31)とはヘロデ・アンティパスのことでガリラヤとペレアの領主。彼は静けさを好み、イエスを利用したい思い(9:7～9)と殺したい思いの間で揺れるが、トラブルメーカーとなり得るイエスを萌芽の段階で摘み取りたかった。

イエスに「立ち去る」ように助言するファリサイ派の申し出は悪意からである。彼らはヘロデの殺意をほのめかすことで旅を中止するように唆す。しかしイエスは人のアドバイスや権力になびかない。

イエスはヘロデを「狐」と呼ぶ。狐とは彼のずるがしこい性格・神の前には取るに足りない存在であることを示す。「今日も明日も……三日目も」(32)はユダヤの言い回しで「頂点をもつある一定期間のこと」。悪霊を追い出し、病気をいやし「すべてを終える」(32)は「すべてを完成させる」と読むことができる。ここでは何が完成するかは不明だが福音書を最後まで読むことで「イエスの死」であることが分かる。

イエスはエルサレムへ至る道を「進まね

ばならない」(神の御意志)。エルサレムにおいてイエスは殉教した旧約の預言者たちの運命を分かち合う。イエスの旅の計画は父なる神による。ヘロデもファリサイ派もイエスが誰かが分からない。しかし不信仰な彼らの無意識をも神は用いられる。

「エルサレムを嘆く」(34, 35節)

イエスは神に仕える預言者たちを殺してきたエルサレムについて嘆かれる。神からの使いを拒むことは神を拒むのと同じである(ルカ9:48, 10:16)。旧約では石打ち刑の対象は、偶像崇拜者、親不孝者などなので、預言者を石で打ち殺すのは律法の転倒。神の正しさを伝える者は偽預言者や神なき王の罪を暴くゆえ憎み殺される。神は何度も預言者たちを送ってめん鳥が雛を羽の下に集めるようにその民を招かれた。しかし彼らは真理を拒んだ。神の都、神の愛の中心地が、墮落の中心に落ちぶれた。何と彼らは自立して自分なりの神があるから本物の神は必要ないのだ。

「お前たちの家は見捨てられる」とはエルサレム神殿が外はローマ、また内からは腐敗によって崩壊すること。「主の名によって来られる方に、祝福があるように」(詩編118:26の引用)は仮庵巡礼の歌でイエスのエルサレム入場の時、弟子が歌った。「決して……見ない」とは終末の時、再臨のイエスを迎える私たちの信仰の姿勢が問われていることを示す。(西堀 元)

《教理問答》 「子どもと親のカテキズム」 問32

3月31日 ルカによる福音書13章31～35節

【説教展開例】

イエスの嘆き

◇..... 単元のねらい◇

主イエスは人間的な妨害を恐れず父なる神の御心を選び取り進みゆかれる。主イエスの従順によって私たちの救いが開かれる。神の愛の象徴のエルサレムが同時に人間の罪の巣窟でもある。人間の愚かさとして罪を父なる神は忍耐してくださっている。悔い改めへの招きを無駄にしないように子どもたちに神の愛を伝えたい。

「悲しまれるイエスさま」

みんなは学校で好きな先生がいますか。例えば先生に「今日は頑張って宿題の漢字を沢山書いたね。それにとっても上手だよ」ってほめられると嬉しくなりますね。でも反対に学校の先生から宿題を忘れていることをきつく叱られると、心が縮んでしまうような気持ちになるかもしれません。

僕たちは、毎日いろいろな声を聞きます。嬉しくなる声もあれば、反対に悲しくなってしまう声もあると思います。毎日、悲しくなる声ばかり聞こえてきたらしゅんとして元気が出なくなってしまうですね。だからどんな声を僕たちが毎日聞いているかがとっても大切です。

イエス様は父なる神さまの声をよく聞いて毎日生きていました。大人になったイエス様は父なる神様のことを町の人にお話したり、病気で苦しんでいる人を神様の力で治してあげたり、悪霊に取りつかれて心の息が出来なくなっている人を治してあげました。

イエス様は父なる神さまの思いに従っていくことが一番だと分かっていました。とても大変でつらいことですが、自分はこのからエルサレムに行って、みんなの罪の身

代わりに十字架で自分の命を捧げなければいけないこともご存知でした。

エルサレムに向かう旅のある日、イエス様の進む道を通せんぼするファリサイ派という人たちが現れて言いました。「ヘロデ王さまが、お前の命を狙っている。死にたくなかったら、このへんで神様のことを宣伝するのをやめといた方がいいぞ」と。

でもイエス様は自分の進む道を王様の名前を出して通せんぼする人たちを恐れませんでした。僕たちだったらどうでしょうか。自分が意地悪する人がこのまま真っ直ぐ進むといるとしたら、違う道をとおっていきませぬ。

どうしてイエス様はヘロデ王を怖がらず神様に従う道を真っ直ぐに進めたのでしょうか。それは神様の声をよく聴いていたからです。神様の声はときにはとても小さい声です（列王上19：12）。毎朝イエス様は、お祈りをしていらっしゃいました。そのようにしてしっかりと父なる神さまのお気持ちと自分の心が結ばれていたのです。ヘロデ王から脅されても道を変えることはありませんでした。

イエス様が進んで行く道のゴールはエル

サレムです。有名な町の名前ですね。昔からエルサレムは神様の民ユダヤ人たちの中心の町でした。エルサレムの町にはこれまで神様の愛がいっぱい注がれてきました。でもエルサレムの町の人たちはいつも神様に従うことができたわけではありませんでした。「神様なんて知るもんか」と言っただけで自分勝手に好き放題なことをしたことがあります。本当の神様ではなく木や石でできた神、偶像の神を礼拝するようになってしまったのです。神様の愛がいっぱい注がれたのに、エルサレムは罪にあふれる場所になってしまったのです。

NHKの「ダーウィンが来た」という番組では、よく動物の親子が登場します。動物たちのお父さん・お母さんは自分より大きな動物から我が子の命を守ろうと命がけで頑張っています。そのようにイエス様はエルサレムへ町の人たちへの父なる神さまの愛は母親鳥が雛を羽をのばして守ってくれるのと同じだよと教えます。

神様は僕たちと違って、ほんとうに自分勝手なエルサレムの人たちをとてまかわいそうに思ったのです。だからお母さん鳥が羽を伸ばして敵から命がけで守るような大好きな思いを、神さまは預言者をエルサレムに送ることで伝えようとしたのです。でも神様からの預言者はなんと町の人に殺さ

れてしまった。神様は今度こそと思って、もう一人の預言者を送った。でもエルサレムの人たちは今度の預言者も殺してしまった。自分たちの悪いことを言われて直すのは嫌だったから耳にざわりなことを言う預言者の方を殺してしまったのです。それくらい僕たちは自分の悪い所を聞きたくもないし、まして治したくなんてない。

そして最後に父なる神さまは自分の独り子イエス様をエルサレムに遣わされるのです。ついに今度こそは……と思うのですが。イエス様はエルサレムで十字架に付けられて殺されてしまいます。僕たちの心の中にもエルサレムの人たちのような「神様なんて知るもんか」という心がないでしょうか。

さて、イエス様は殺されて、お墓に葬られますが、3日目に復活されたことを聖書は伝えていますね。そして世界の最後の日にイエス様は僕たちの所にもう一度やって来られます。だから今、僕たちが生きている時間はイエス様がもう一度来られるのを待つ時間なのです。今という時間があるのは神様が与えてくださったゴメンナサイのための時間です。神様に自分のいけない所を正直にお話して、神さまにゴメンナサイを言うために今があります。神様は僕たちが帰って来るのをずっと待っていてくださいます。(西堀 元)

《今週の暗唱聖句》

主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。

(ペトロの手紙二3章9節)

3月31日 ルカによる福音書13章31～35節

【幼稚科】

イエスの嘆き

〈展開例〉

今は、イエスさまの十字架への道を覚える時（レント）です。

イエスさまは悲しんでいらっしやいました。なぜでしょう。エルサレムの町の人たちが「神さまなんて知らない！」と自分勝手なことばかりしていたからです。

神さまが、いっぱい愛して下さったのに知らんぷりをして、神さまのひとり子であ

るイエスさまのことも、やっつけてやれ！と考えていたのです。悲しいことですね。

私たちはどうでしょう。自分のしてしまったわるいことを、神さまに「ごめんなさい、ゆるして下さい」とお話しできていますか。お祈りできていますか。

神さまはいつも私たちのことをまって下さっています。

〈ゲーム〉

「ことばさがしゲーム」

準備：○画用紙を切ったカードに、言葉を一文字ずつ書く（下図を拡大コピーでもOK）。


○字の読めない子どもが多い場合、言葉ごとに色をつけておくと、文字の並べ替えを楽しむ簡単な遊びになります。

①カードをバラバラにならべる。

②6つの言葉を探し出して、並べてみよう（言葉の数は調整して下さい）。

※今日のお話に出てきた言葉です。

※2～3人ずつのグループ対抗にして、早さと正しさを競っても楽しいかもしれません（その場合、カードはグループの数分用意して下さい）。

エ	ル	サ	レ	ム	
じ	ゅ	う	じ	か	レ
ン	ト	イ	エ	ス	さま 様
ご	め	ん	な	さ	い
キ	リ	ス	ト		

3月31日 ルカによる福音書13章31～35節

【小学科上級・中学科】

イエスの嘆き

1. ルカによる福音書13：31～35を読みましょう。

①ファリサイ派の人々がイエスさまに「立ち去ってください」と言ったのはなぜですか。






②「あの狐」とは誰ですか。また、なぜそのような表現をしたと思いますか。

③イエスさまが進まなければならない「自分の道」とは何のことでしょうか。

④イエスさまが集めようとしたのに、応じようとしなかったのはなぜですか。

⑤この箇所全体から、イエスさまがファリサイ派の人たちに伝えたかったことは何か考えてみましょう。

<p>1月6日 死の陰の谷を行くときも、わたしは災いを恐れない。あなたとわたしと共にいてくださる。 【詩編23：4】</p>	<p>1月13日 キリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。 【1コリント1：30】</p>	<p>1月20日 わが子よ、父の諭しに聞き従え。母の教えをおろそかにするな。 【箴言1：8】</p>
<p>1月27日 青春の日々こそ、お前の創造主に心を留めよ。 【コヘレト12：1】</p>	<p>2月3日 求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。 【ルカ11：9】</p>	<p>2月10日 どうか、主があなたがたを、お互いの愛とすべての人への愛とで、豊かに満ちあふれさせてくださいますように。 【1テサロニケ3：12】</p>
<p>2月17日 何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。 【マタイ6：33】</p>	<p>2月24日 わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。 【ヨハネ9：23】</p>	<p>3月3日 彼はわたしたちの患いを負い、わたしたちの病を担った。 【マタイ8：17】</p>

<p>3月10日 わたしたちは、神から幸福を いただいたのだから、不幸も いただこうではないか。 【ヨブ2：10】</p> <p>信仰</p> 	<p>3月17日 あなたは心を尽くし、魂を尽 くし、力を尽くして、あなた の神、主を愛しなさい。 【ルカ1：47】</p> 	<p>3月24日 神の国は……からし種に似て いる。人がこれを取って庭に 蒔くと、成長して木になり、 その枝には空の鳥が巣を作 る。 【ルカ13：18, 19】</p> 
<p>3月31日 主は約束の実現を遅らせてお られるのではありません。 ……一人も滅びないで皆が悔 い改めるようにと、あなたが たのために忍耐しておられる のです。 【2ペトロ3：9】</p> 		
		

2019年4～6月カリキュラム (第73号)

—救済史に基づく2年サイクル 第1年—

月 日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
4月7日	放蕩息子のたとえ	ルカ15：11－32	ガラテヤ3：26
	天の父がいる私たちの故郷へ、イエスを信じれば戻れる。		
4月14日 受難週	主の十字架	ルカ23：1－38	ローマ4：8
	キリストの十字架は神の愛が現れであり、私たちが救われるため。		
4月21日 イースター	主の復活	ルカ24：1－12	ルカ24：7
	復活は確実であり、礼拝において復活したイエスは交わりをもつ。		
4月28日	主の顕現	ルカ24：13－35	使徒2：32
	エマオでの弟子たちへの顕現は主の日の礼拝で繰り返される。		
5月5日	キリストの謙遜	フィリピ2：1－11	フィリピ2：6－8
	主に従う者の特質は謙遜。それは品性の課題ではなく奉仕者のあり方。		
5月12日	受け継がれた信仰	2テモテ1：1－18	エフェソ2：8
	先人たちの歴史を思い起こし、子どもも大人たち共に、イエスに従う。		
5月19日	信仰の模範に倣う	ヘブライ11：1－12：13	ヘブライ12：1－2a
	イエス・キリストの約束の実現を、いつでも、どんな時でも喜ぶ。		
5月26日	信じて行う	ヤコブ1：19－27	ヤコブ1：22
	イエスを信じる者は、聞いた御言葉の実りとして隣人を愛する。		
6月2日	主の昇天	ルカ24：44－53	ヘブライ9：24
	イエスは天にあって、私たちのためにとりなしてくださる。		
6月9日 ペンテコステ	聖霊降臨	使徒2：1－24	使徒1：8
	聖霊が教会に降られて教会によって世界宣教を始めてくださった。		
6月16日	人ではなく神に従う	使徒4：1－37	使徒4：19
	教会は聖霊の力によって共に神に従う者たちの集まりである。		
6月23日	ステファノの殉教	使徒6：1－7：60	ローマ14：8
	生きるにも死ぬにもただ一つの慰めは自分がキリストのものであること。		
6月30日	フィリポの宣教	使徒8：26－40	使徒8：35
	私たちは聖霊によって福音を告げ知らせる器とされる。		

子どもと親のカテキズム

神さまと共に歩む道

日本キリスト改革派教会大会教育委員会

『子どもと親のカテキズム』の目指すもの

～「あとがき」より～

このカテキズムは、契約の子どもたちの信仰継承の前進、地域の子どもの伝道の進展、成人求道者の洗礼教育、現代を生きるキリスト者の信仰の確立を願って、作成されました。

どうか父なる神が、ご自分の子どもたちをこのカテキズムを用いて主イエス・キリストの福音の真理の内に養ってくださり、聖霊の交わりのうちに親子の信仰の対話を祝福して信仰を告白する喜びに導き、教会と世界に感謝をもって仕える民として成長させてくださいますように。

カテキズム作成のために多大な労苦を払われた前大会教育委員会小委員会の牧田吉和委員、三川栄二委員、相馬伸郎委員に感謝しつつ、今ここに『子どもと親のカテキズム』をお届けします。

2014年10月

日本キリスト改革派教会大会教育委員会



2014年10月15日発売

四六判・並製・64頁

ISBN978-4-7642-6454-0

販売価格 **400**円 (税込)

書店での販売価格は540円 (税込) ですが、大会教育委員会を通じての販売価格は400円 (税込) です。

申込先 E-mail shintoko_ch_pastor@yahoo.co.jp 長田詠喜

振込先 01620-8-39213 長田詠喜

※『子どもカテキズム』とは申込先が異なりますので、ご注意ください。

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549 FAX03-5250-5107
HPをご利用ください。 <http://www.kyobunkwan.co.jp/publishing/> 【呈・図書目録】

大会教育委員会

「教会学校教案誌」

継続発行のための

50万円 自由募金のお願い

弊誌のためにお祈りとご購読をもってお支え下さいます事を、心から感謝するとともに御礼を申し上げます。

大会教育委員会の重要な使命と任務は、日本キリスト改革派教会独自の教案を作成することです。そのために委員会は、なにより「内容」を磨くことに全力を注いでおります。しかしそのためには、教案誌の「安定的発行」が不可欠です。

かつて執筆者には1000円の図書券を贈呈し、最低限の礼を尽くしてまいりました。現在は、何の御礼もさしあげていません。ひとえに誌代を維持したいからです。ギリギリの厳しい状況が続いています。自由募金に積極的にご参加ください。

教会だけではなく、個人としてのご協力をも伏してお願い致します。

Soli Deo Gloria!

※ 購読申し込みは、西堀 元（熊本伝道所：✉boribori89@gmail.com）

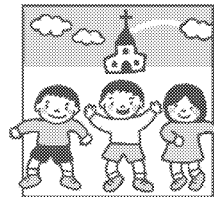
〒862-0924 熊本県熊本市中央区帯山2-13-74 ☎ファクス (096)382-7630

お問い合わせは、相馬伸郎（iwanoue@me.ccnw.ne.jp）まで。

目標金額 50万円

送金先 郵便振替 伊藤治郎

00890-2-148183



※振替通信欄に、「自由募金」とご明記くださいませ。

●前号の分級展開例幼稚科を担当されたのは島野美佳子姉ではなく、尾崎めぐみ姉(光が丘教会)でした。お詫びして訂正報告をさせていただきます。光が丘聖書発見学習案内者訓練会の皆さんが今分級の教案執筆に協力してくださっています。賜物を生かしていただいで感謝です。

●誌面を飾るカットを描いてくださるイラストレーターを募集中です。応募される方は下記の牧野までお願いします。

(牧野信成)

●新しい大会年度、教育委員会は、吉田委員の代わりに小川洋教師が加わって下さいました。この数年で4名の若い委員方がそれぞれの事情で異動がありました。教会学校教案誌にとっては打撃が大きく、私自身の力不足のせいもあり、ご迷惑をおかけすることが少なくありません。お詫びいたします。

かつての教育基本法に「教育の力」ということばがありました。私自身も又当委員会も「教育の力」を確信しています。私どもにとっての教育の力は、御言葉の力でありましょう。御言葉を正確に把握し、これを実行し、その中からまさに肉となるようなことばが編まれるとき私たちのことばも力を持つてでありましょう。読者の皆さまは、全員、同志。互いに楽しく研鑽に励んでまいりましょう。お気軽にご寄稿くださいませ。心からお待ちしています。(相馬伸郎)

●新所沢教会の教会学校について二号にわ

たって掲載いただきました。子ども達のことを思い、どんどんチャレンジしていた当時の教会の様子をお聞きし、自分たちもチャレンジを受けた思いです。

●「教誨師」という映画が封切られました。改革派には現在2人の教誨師がいます。その一人が今回教育委員会加わってくださった小川先生です。教会の地道な働きをお覚えください。(長田詠喜)

●地域の子供が教会学校に自分で来ていましたが、この春中学生になり毎日曜日は部活の練習。教会に来れません。でも教会のことをちゃんと覚えていてくれました。夜の祈祷会で一緒に信仰問答を学んでいます。こちらも励まされています！

(西堀 元)

●今秋から教育委員会の委員に加えられた小川洋です。長く海外に居ましたので、大会の委員会に属するのは久しぶりです。年齢だけ重ねましたが、教育委員会のことをよく知りませんので、門前の小僧よろしく“掃き拭き掃除”から始めたいと思います。(小川 洋)

※バックナンバーを御希望の方は下記までご連絡ください。

長野佐久伝道所 牧野信成

〒385-0051

長野県佐久市中込3-9-1

Tel & Fax : 0267-62-2409

E-mail: rcjnaganosaku@gmail.com

執筆者一覧

まえがき	常石 召一 (大阪教会牧師)
岩崎 謙 (神港教会牧師)	吉田 崇 (休職教師)
巻頭説教	赤石めぐみ (伊丹教会)
大西 良嗣 (宝塚教会牧師)	袴田 清子 (灘教会)
キリスト教と公教育	赤石 純也 (伊丹教会牧師)
岩間 孝吉 (山梨栄光教会長老)	宮武 輝彦 (男山教会牧師)
教会学校訪問	柏木 貴志 (岡山教会牧師)
澤田 光史 (浜松伝道所)	相馬 伸郎 (名古屋岩の上教会牧師)
CS 教師の一言 (2)	西堀 元 (熊本伝道所宣教教師)
片桐 京子 (新所沢教会)	
信仰告白・洗礼の証	分級展開例
千ヶ崎 承 (横浜教会)	古澤安紀子 (徳島教会)
吉野 由真 (名古屋岩の上教会)	光が丘聖書発見学習案内者訓練会
執事職について (4)	尾崎めぐみ (光が丘教会)
相馬 伸郎 (名古屋岩の上教会牧師)	畑中 寿子 (田無教会)
長老職について (4)	愛智 愛 (新座志木教会)
吉岡契 典 (板宿教会牧師)	
聖書黙想・説教展開例	イラスト作画
小澤 寿輔 (高知教会牧師)	表紙 中村末生 (春日井教会・IBUKI)
長田 詠喜 (新所沢伝道所宣教教師)	高橋乃亜 (湘南恩寵教会・IBUKI)
牧野 信成 (長野佐久伝道所宣教教師)	本文 岡野美佳 (青葉台キリスト教会)

編集部

相馬 伸郎 (長)	名古屋岩の上教会牧師・大会教育委員会
牧野 信成	長野佐久伝道所宣教教師・大会教育委員会
長田 詠喜	新所沢伝道所宣教教師・大会教育委員会
西堀 元	熊本伝道所宣教教師・大会教育委員会
小川 洋	高松教会牧師・大会教育委員会

日本キリスト改革派 大会教育委員会 『教会学校教案誌』 第72号

2019年1・2・3月号 (季刊)

2018年12月1日発行

発行	日本キリスト改革派教会 大会教育委員会
発行所	日本キリスト改革派教会 大会教育委員会 名古屋岩の上教会 牧師 相馬伸郎 〒458-0021 愛知県名古屋市緑区滝の水2-2012 Tel/Fax 052-895-6701
郵便振替口座	00890-2-148183 「伊藤治郎」
編集・印刷	株式会社あるむ
頒価	900円 (本体価格)

Reformed Church in Japan
Board of Education

